

STAR

自走ロールベアラ

取扱説明書

製品コード

K93265

型

式

JRB0750D

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIスター

START

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書を良くお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。




お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特販店、またはJAにご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店・JAへご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

- | | |
|---|---|
|  危険 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
|  警告 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
|  注意 | その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |
| [重要] | 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。 |
| [参考] | 作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。 |

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ・麦ワラ・牧草を梱包する作業機としてご使用ください。コーンなどの硬い飼料では作業できません。また河川敷など、異物混入の可能性の高い場所では使用しないでください。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

目次

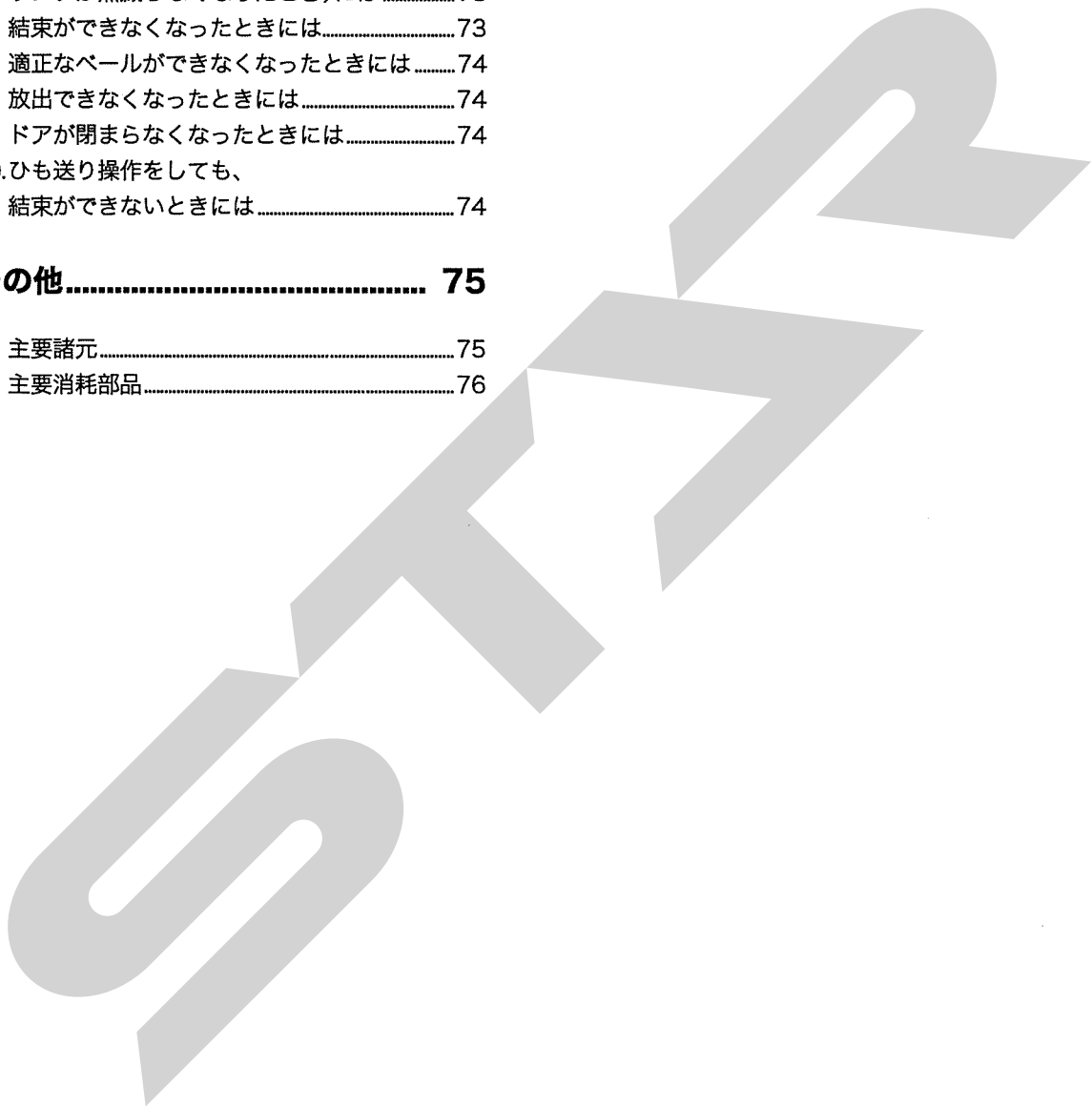
はじめに.....	1	7章 作業のしかた.....	34
1章 安全な作業をするために必ずお守りください	5	1. 作業条件とほ場条件.....	34
1. 一般的な注意項目.....	5	2. 作業前の準備.....	36
2. 作業前後の確認時の注意項目.....	6	3. 本機の作動確認のしかた.....	39
3. 運搬時の注意項目.....	8	4. 梱包作業のしかた.....	41
4. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目.....	9	5. 搬送案内板の取り外しかた.....	45
5. 作業時の注意項目.....	11	8章 作業後の手入れについて	46
6. 作業終了後・格納時の注意項目.....	12	1. 作業後の手入れ.....	46
7. 安全銘板の貼り付け位置.....	13	2. 長期間使用しない場合の手入れ.....	48
8. 安全銘板の手入れについて.....	15	3. ひもの保管のしかた.....	48
2章 保証とサービスについて	16	9章 点検・整備のしかた	49
1. 保証書は大切に保管してください.....	16	1. 定期点検・整備の時期について.....	49
2. アフターサービスをお受けになるときは.....	16	2. 定期点検一覧表.....	50
3章 各部のなまえ	17	3. オイルの点検・補給・交換のしかた.....	51
4章 各操作部のはたらき	19	4. 各部注油のしかた.....	53
エンジンコントロール関係.....	19	5. 燃料の点検・給油のしかた.....	55
走行・作業関係.....	21	6. 吸気口の掃除のしかた.....	56
その他.....	23	7. エアクリーナーの掃除のしかた.....	57
5章 運転前・作業前点検のしかた	24	8. 燃料コシ器の洗浄・交換のしかた.....	57
1. 作業者の体調・服装について.....	24	9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた.....	58
2. 本機の点検のしかた.....	25	10. 冷却水の点検・交換のしかた.....	59
6章 運転・移動のしかた	26	11. サイドクラッチレバーの調節のしかた.....	60
1. エンジンの始動のしかた.....	26	12. 各部ベルトの点検・調節・交換のしかた.....	60
2. 暖機運転のしかた.....	28	13. ピックアップ高さの調節のしかた.....	63
3. エンジンの停止のしかた.....	28	14. 各部チェーンの調節のしかた.....	63
4. 発進・旋回・変速・停止・駐車のしかた.....	29	15. 搬送押さえの調節のしかた.....	65
5. 移動走行のしかた.....	30	16. ひもカッターの研磨のしかた.....	65
6. トラックへの積み・降ろし、あぜ越えのしかた.....	31	17. クローラの張り調節のしかた.....	66
		18. 作業機駆動ベルトけん制ワイヤーの調節のしかた.....	66
		19. ピックアップフィンガの交換のしかた.....	67
		20. シャーピンの交換のしかた.....	68
		21. ドアフックの調節のしかた.....	69
		22. ベール圧センサの調節のしかた.....	69
		23. ヒューズの点検・交換のしかた.....	70
		24. バッテリーについて.....	70

10章 不調診断のしかた..... 72

- 1. エンジンがかからないときには.....72
- 2. エンジンの馬力がでないときには.....72
- 3. 作業中にコンベアチェンが
回らなくなったときには.....72
- 4. 搬送部で異音がしたり、よく詰まるときには..73
- 5. ブザーが鳴らなくなったとき(お知らせ
ランプが点滅しなくなったとき)には.....73
- 6. 結束ができなくなったときには.....73
- 7. 適正なペールができなくなったときには.....74
- 8. 放出できなくなったときには.....74
- 9. ドアが閉まらなくなったときには.....74
- 10. ひも送り操作をしても、
結束ができないときには.....74

11章 その他..... 75

- 1. 主要諸元.....75
- 2. 主要消耗部品.....76



1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
 - ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
- ※ご購入された製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

1. 一般的な注意項目

警告

- 本機および装着している作業機の取扱説明書と、機械に貼ってある安全銘板をよく読み、十分に理解してから運転する
運転に際しては、本書の安全に関する記載事項以外にも細心の注意を払って運転してください。

- 取扱説明書および機械に貼り付けられた安全銘板の内容が理解できない人や子供には、絶対に運転させない!

- 体調が悪いとき、運転が未熟な人は、本機の運転をしない!

- ・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- ・お酒を飲んでいる人。
- ・取扱説明書の内容が理解できない人。
- ・視力不足のため、表示内容が読めない人。
- ・妊娠中の人。
- ・睡眠不足の人。
- ・18才未満の人。
- ・ハンドルを操縦する体力に自信のない人。
- ・運転が未熟な人。

は、本機の運転をしないでください。



D3037375

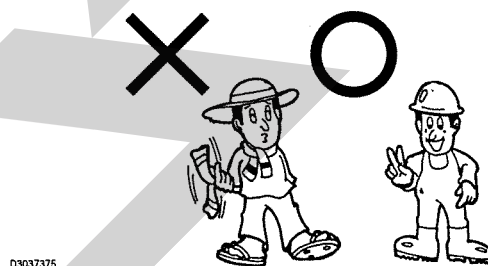
警告

- 排気ガスには十分に注意する

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。

換気をしないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

- 運転者および補助者は、運転（作業）に適した服装をする



D3037375

- ・だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、そで口はきっちり止めてください。だぶつきのある服では、機械に巻き込まれたり、操縦装置に引っ掛かって事故の原因になります。
- ・滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。滑り止めが付いていないと、滑って転倒するおそれがあります。
- ・ヘルメットを着用してください。
- ・はち巻き、首巻き、腰タオルをしないでください。タオルが機械に巻き込まれて事故の原因になります。

- 本機や作業機を他人に貸すとき、または運転させるときは、事前に取扱方法や安全な使いかたをよく説明し、必ず取扱説明書を読むように指導する



A2137302

⚠ 注意

■ 必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプは2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

守らないと、整備不良による事故で、ケガや機械の故障を生じるおそれがあります。

■ 必ず作業前の点検をする

機械を使用する前に必ず作業前の点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。

また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

2. 作業前後の確認時の注意項目

⚠ 危険

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、給油・注油を絶対にしないでください。

守らないと、燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

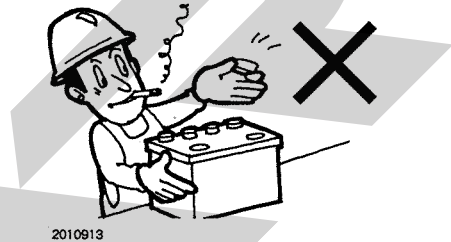
燃料に引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。

⚠ 危険

■ バッテリー点検時は火気厳禁

バッテリーの点検時、液槽キャップを開けたときは、火気（タバコ・ライターなど）を近付けないでください。

守らないと、バッテリーの液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、ヤケドや火災を引き起こすことがあります。



2010913

■ バッテリー液を体や衣服に付けないようにする

バッテリー液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

守らないと、バッテリー液は希硫酸です。衣服が破れたり、失明やヤケドをします。



1077332

⚠ 警告

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。破損したまま放置すると、火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

警告

■ **燃料を補給した後は、燃料キャップを締め、こぼれた燃料はふき取る**

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいにふき取ってください。守らないと、火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ **バッテリーを、取り外すときは (-) 側のケーブルから取り外し、取り付けるときは (+) 側のケーブルを (+) 側の端子に取り付ける**

(+) (-) を間違えると、ショートによるヤケドや火災の原因になります。

■ **バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された型式のバッテリーを使用する**

指定以外のバッテリーを使用すると、ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

■ **バッテリー液を「下限 (LOWER)」以下にしない**

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。守らないと、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



A2037549

警告

■ **点検・整備は必ず行う**

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきなどがあると、大変危険です。必ず点検調整してください。

点検しないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。



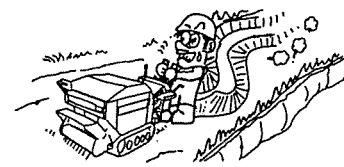
■ **点検はエンジンを停止し、平坦で安定した場所で行う**

点検・整備を行うときは、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で安定した場所で行ってください。

■ **操作レバー類は必ず点検する**

サイドクラッチレバーや、その他のレバー類に著しいガタや遊びがないか確認してください。

正常な走行ができず、交通事故を引き起こしたり、機械を破損させる原因になります。



■ **点検・整備時にはエンジン停止、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にする**

点検・整備は、エンジンを確実に停止させ、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にして、クローラに歯止めをしてから行ってください。

ロールベアラが動き出し、思わぬ事故を起こします。

警告

■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないか点検し、ある場合は新しいクローラと交換してください。守らないと、横滑りや、転倒事故の原因になります。

■ エンジンやマフラー、プーリ駆動部の周辺のゴミは取り除く

作業中は、エンジンやマフラー、プーリ駆動部に付着しているワラクズ・ゴミ・燃料などを、時々取り除いてください。また、取り除くときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、選別クラッチレバーを「切」位置にしてください。

守らないと、付着物が引火して、火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のものは、厚紙や板などを使って点検する

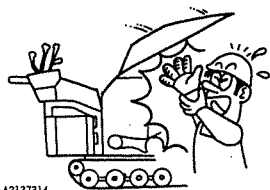
高圧噴油に手や体が、直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、直ちに医者への診断を受けてください。

守らないと、油が皮膚に侵入した場合、数時間以内に取り除かないと強度のアレルギーを起こすおそれがあります。

注意

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。



3. 運搬時の注意項目

警告

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

〈アユミ板の基準〉

- ・長さ…トラックの荷台高さの4倍以上。
- ・幅…本機のクローラ幅に合ったもの。
- ・強度…本機の質量に十分耐えられるもの。
- ・表面…すべらないよう処理してあるもの。
- ・トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。

守らないと、アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

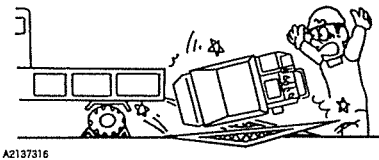
■ 運搬するときトラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板の平行や安定を確認する

アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。特に本体がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、速度にも十分に注意してください。守らないと、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。



注意

- **継ぎ目を越えるときはゆっくり走行する**
本機がアユミ板とトラックなどの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるのでゆっくり走行してください。
守らないと、バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



- **トラックに載せて走行するときは、しっかり固定する**
トラックなどに積んで走るときは、「駐車ブレーキ」をかけ、強度の十分あるロープを本機の「ロープフック部」に掛け、確実に固定してください。さらに、クローラに「歯止め」をしてください。
守らないと、機械が動いたりして、転倒事故を起こすことがあります。



- **アユミ板の上では、進路変更や停止をしない**
バランスがくずれて、転落などの事故を起こすおそれがあります。



注意

- **トラックでの輸送時には、機体の各カバーを固定する**
カバー類・折りたたみ部品などは、確実にロックして閉じ、ロープなどで固定するか、外して荷台に置いてください。
守らないと、輸送中に風圧で破損・脱落するおそれがあります。

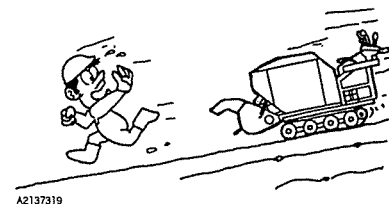
4. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目

危険

- **公道では走行禁止**
守らないと、衝突事故を起こすことがあります。



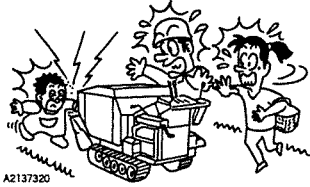
- **坂道では駐車禁止**
やむを得ず坂道の途中で駐車するときは、木片などで歯止めをして、駐車ブレーキをかけてください。
守らないと、機械が動き出し、事故の原因になります。



⚠ 危険

■ 走行中は作業クラッチを切る

守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。



⚠ 注意

■ 道路の端に、寄りすぎないように注意する

走行時は、道路の端に寄りすぎないようにください。路肩がくずれ、横倒しになって、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



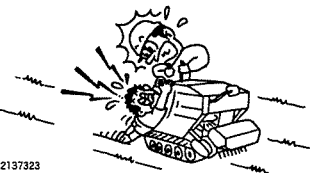
■ 登り坂の途中で変速レバーを操作しない

後退して、思わぬ事故を引き起こす原因となります。



■ 移動中・作業中は、機械に人を乗せたり近づけたりしない

守らないと、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

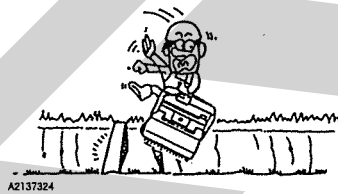


⚠ 注意

■ 段差のあるほ場への出入りはアユミ板を使用する

段差のあるほ場ではアユミ板を使用し、後進入り、前進であがり、安全に心がけゆっくり出入りしてください。また、アユミ板の上では、進路変更はしないでください。

守らないと、思わぬ事故を引き起こす原因となります。



■ 坂道、凹凸、屈曲の激しい道路では、低速で運転する

発進するときは、周囲の安全を確認してから発進してください。

傷害事故を引き起こす原因になります。



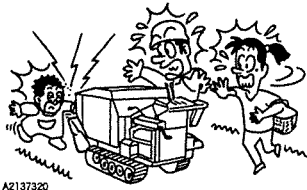
5. 作業時の注意項目

⚠ 危険

■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

守らないと、死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



A2137320

⚠ 警告

■ ピックアップ部の下にもぐったり手や足を入れない

守らないと、ピックアップ部が下がったりして、傷害事故を引き起こすことがあります。



A2137326

■ 詰まりを取り除いたり、ひも交換時は、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にする

ピックアップ部やベール部の詰まり除去や、結束装置のひも交換のときは、必ずエンジンを止め、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にして行ってください。

守らないと、傷害事故の原因となることがあります。



A2137327

⚠ 注意

■ エンジン運転中はドア周辺に立入らないでください

エンジン運転中、結束レバーを放出側にするとうちは油圧で開き、傷害事故の原因になります。



1136714D

■ 夜間作業の禁止

守らないと、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

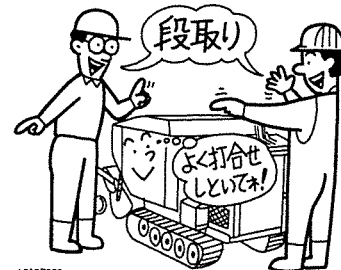


A2137328

■ 補助者とは作業の段取りを打合せする

梱包作業は組作業の場合が多いので、補助者と作業前によく打合せしてください。

守らないと、傷害事故の原因になります。



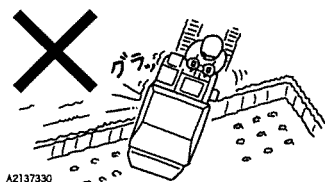
A2137329

畦畔の乗越えは、最低速度で畦畔に対し直角に渡る守らないと、バランスをくずしたりして転倒し、傷害事故を引き起こします。

▲ 注意

■ 畦畔を乗り越えるときは、最低速度で、畦畔に対して直角に渡る

畦畔を乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ず畦畔に対して直角に渡ってください。守らないと、バランスをくずし、転倒などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。



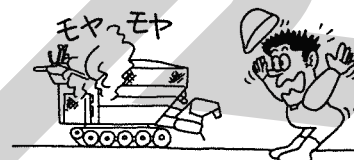
6. 作業終了後・格納時の注意項目

▲ 警告

■ 作業が終わったら点検・整備をする

作業が終了したら、必ず点検・整備を行い、掃除をしてゴミなどを完全に取除いてください。

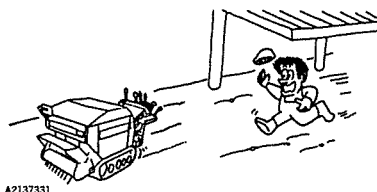
守らないと、火災の原因になることがあります。



■ 平坦な場所に保管する

保管は平らな場所を選び、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にして、駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。



■ エンジンが熱いときは、シートをかける

エンジンが過熱している間は、シートをかけるしないでください。

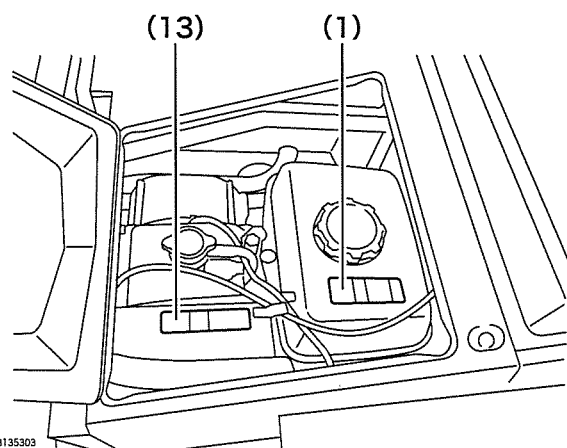
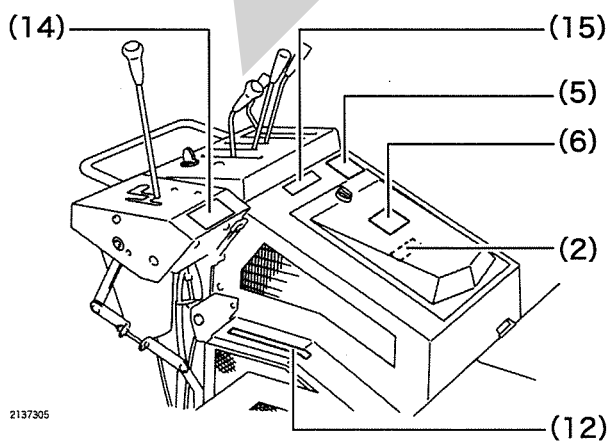
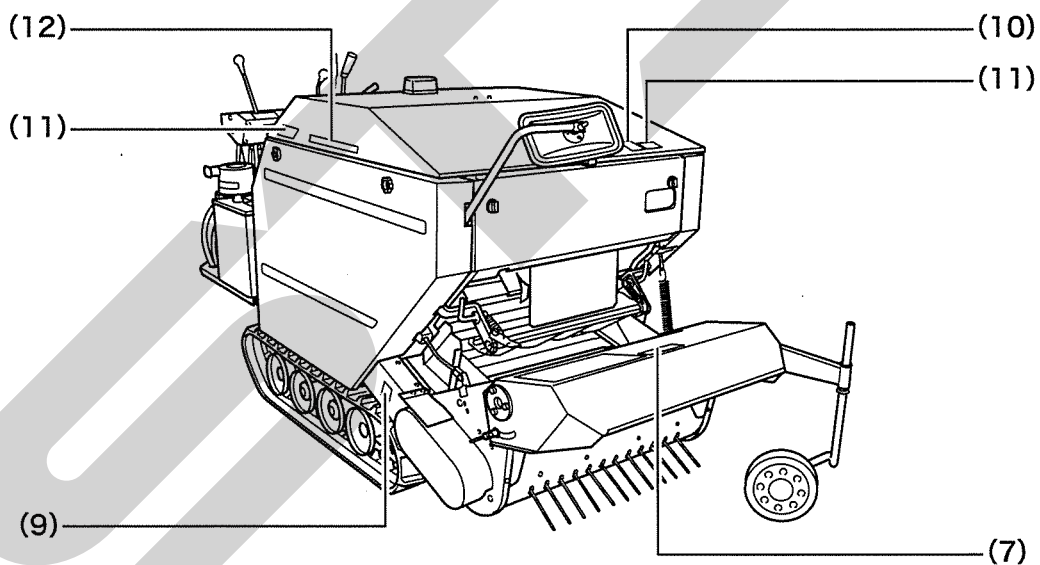
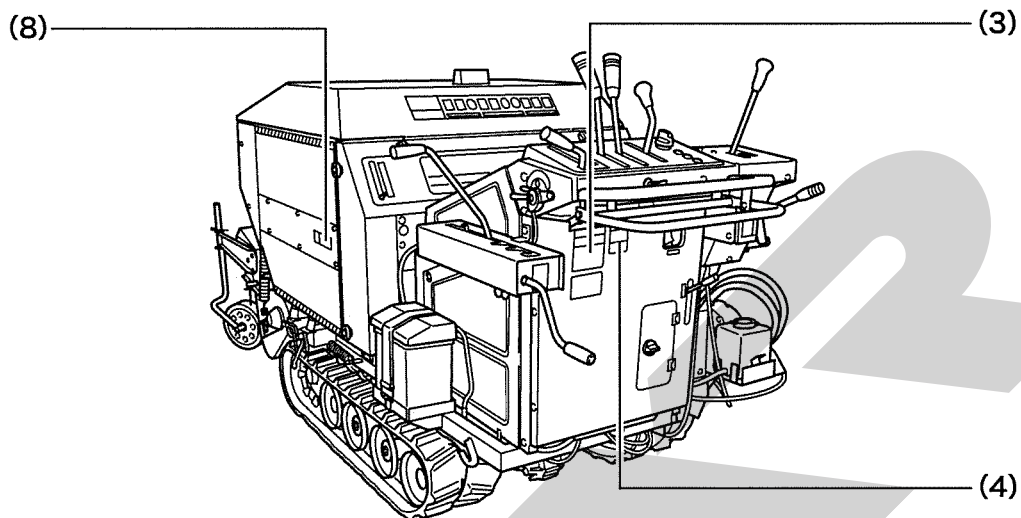
守らないと、火災の原因になることがあります。



7. 安全銘板の貼り付け位置

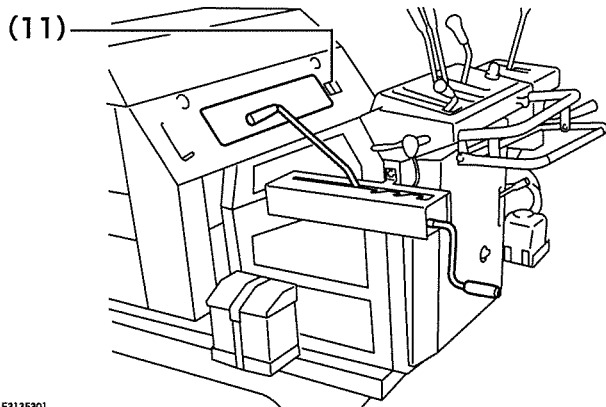
安全に作業していただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



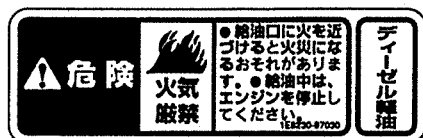
2137305

3135303



E3135301

(1) 1E8230-97030 危険(火気厳禁)

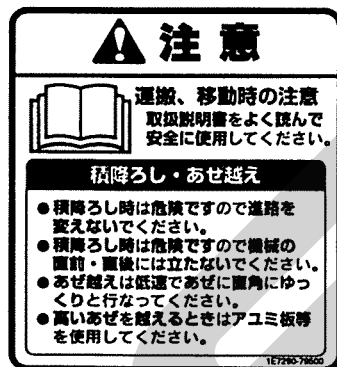


(2) 1E5120-86720 注意(マフラー)

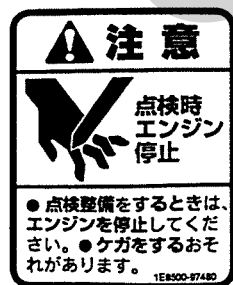


※エンジン上カバー裏面に貼り付けています。

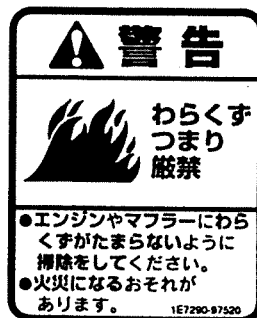
(3) 1E7290-97500 注意(移動)



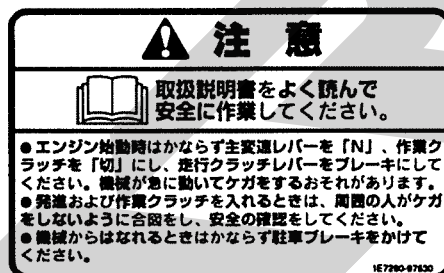
(4) 1E8500-97460 注意(エンジン停止)



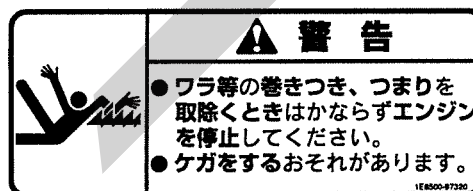
(5) 1E7290-97520 警告(フラクス)



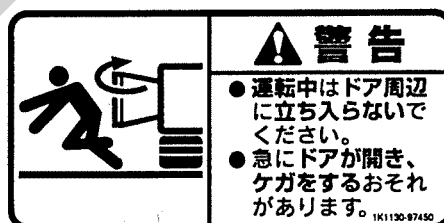
(6) 1E7290-97530 注意(取扱い)



(7) 1E8500-97320 警告(点検A)



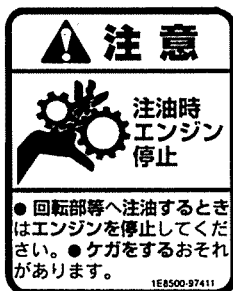
(8) 1K1130-97450 警告(ドア)



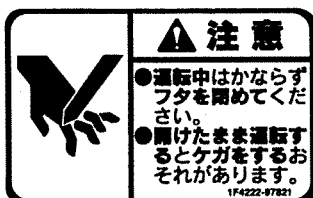
(9) 1E8510-97310 警告(点検E)



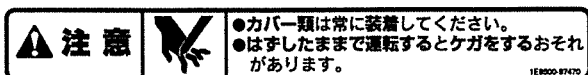
(10) 1E8500-97411 注意(注油)



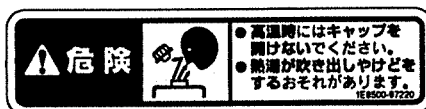
(11) 1F4222-97821 注意(ふた)



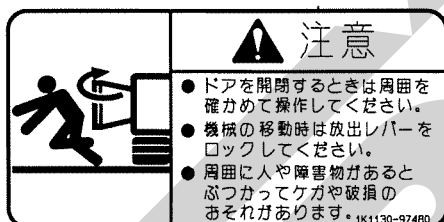
(12) 1E8500-97470 注意(ベルトカバーC)



(13) 1E8500-97220 危険(ラジエータ)



(14) 1K1130-97480 注意(開閉レバー)



(15) 1E5120-86600 警告(排気ガス)



8. 安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石鹸水を付けた布で拭き、やわらかい布で水分を拭き取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板は、お買い上げの特販店・JAに注文してください。

2章 保証とサービスについて

1. 保証書は大切に保管してください

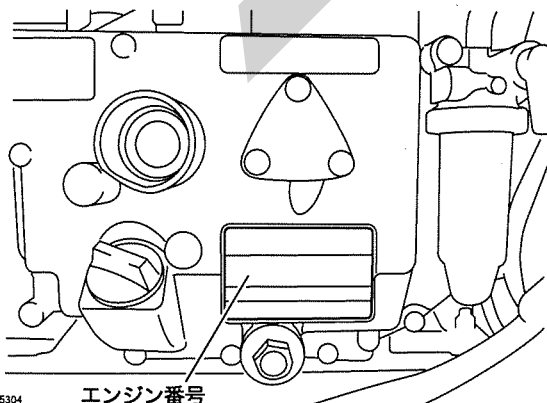
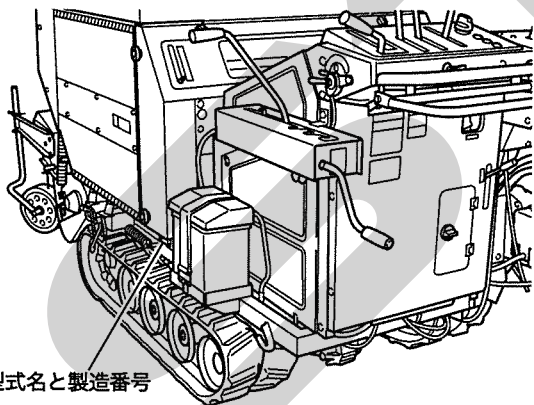
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

2. アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに72ページの「10章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特販店・JAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
(何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



※エンジンカバー左を取り外して見えています。

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ねきびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



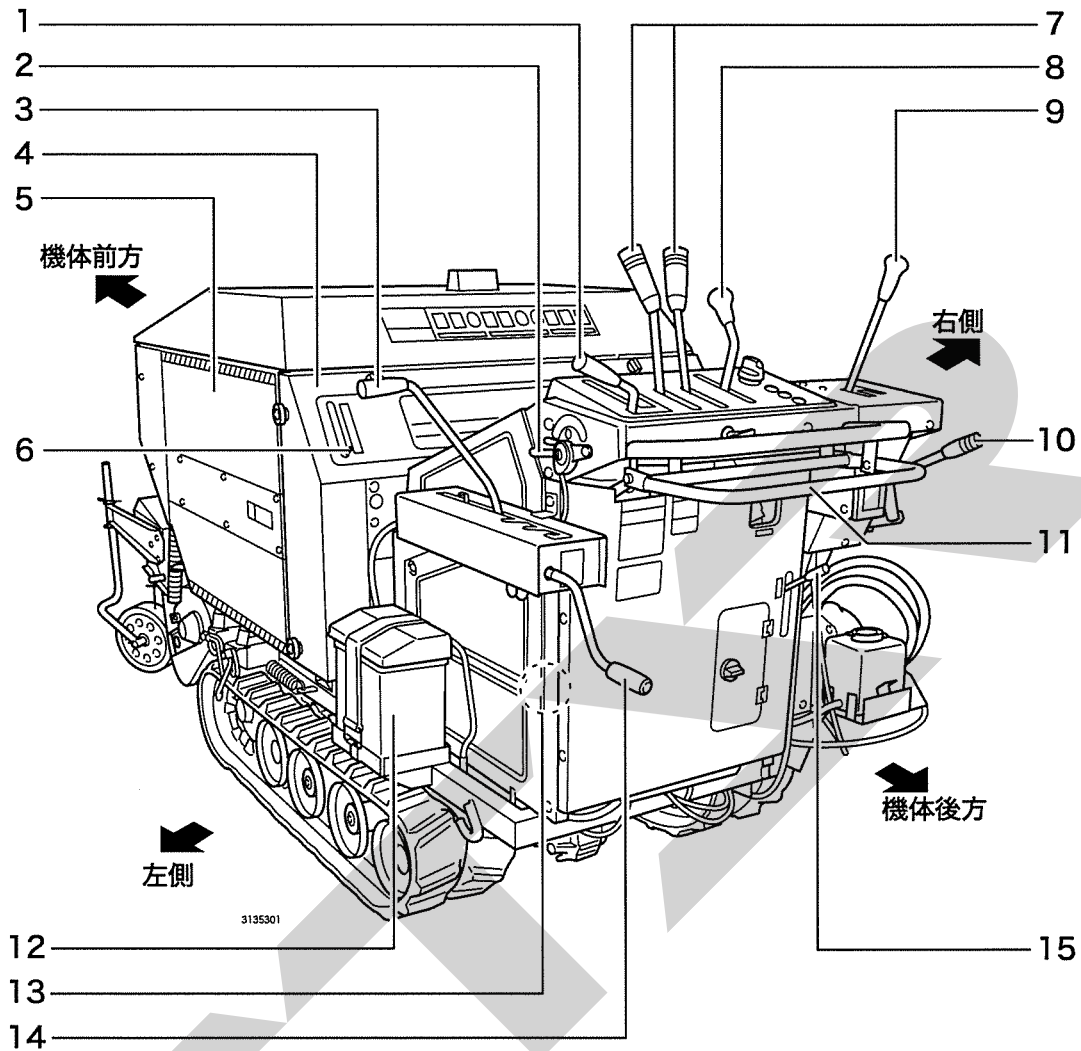
排出ガス規制について

本機は、日本陸用内燃機関協会の排出ガス自主規制に適合しています。

規制適合を維持していくためには「定期点検一覧表」(50ページ)に従って、エンジンオイル・オイルフィルタ・燃料フィルタ、およびエアクリーナーエレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。

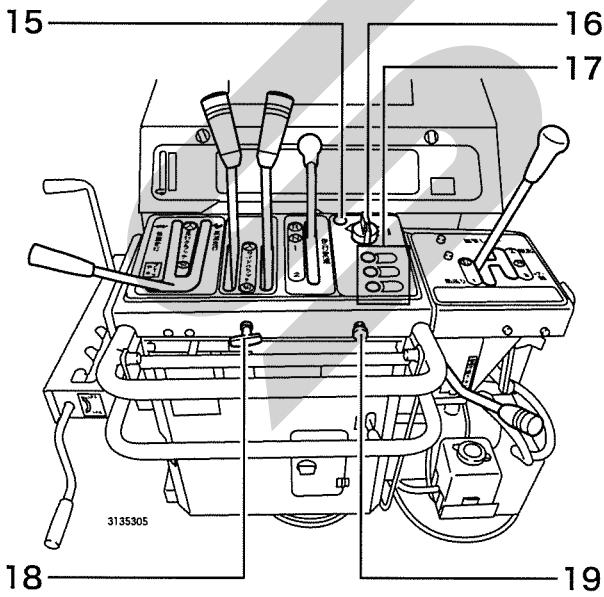
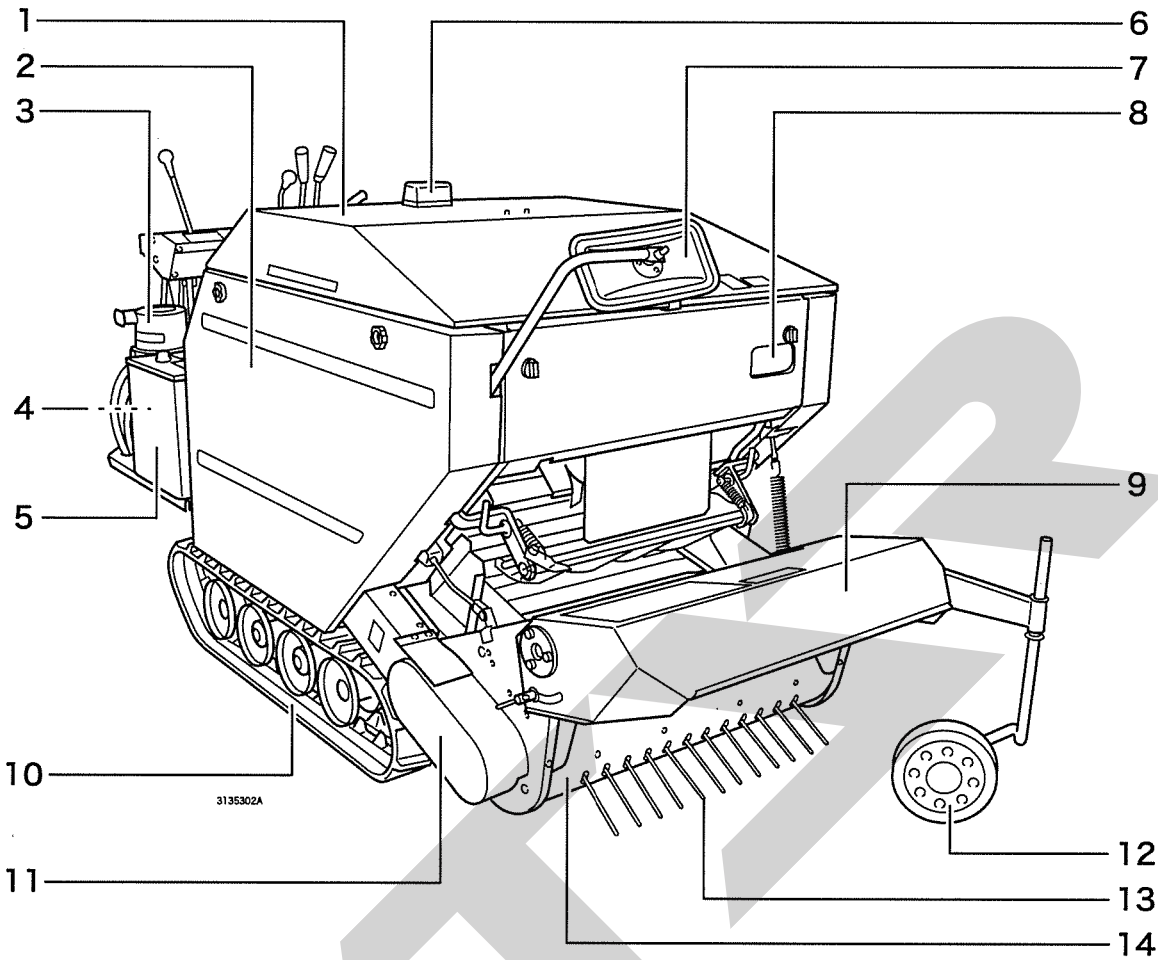
定期的なメンテナンスを怠ると、基準値をクリアできない場合があります。

3章 各部のなまえ



参照ページ

1. 走行クラッチレバー	21
2. アクセルレバー	20
3. ピックアップレバー	21
4. 後カバー	
5. ドア	
6. ベール圧センサアーム	
7. サイドクラッチレバー	21
8. 主変速レバー	21
9. 結束レバー	22
10. 作業クラッチレバー	22
11. 狭圧防止装置	23
12. バッテリ	70
13. 燃料コック	20
14. ピックアップハンドル	22
15. 注油レバー	23



参照ページ

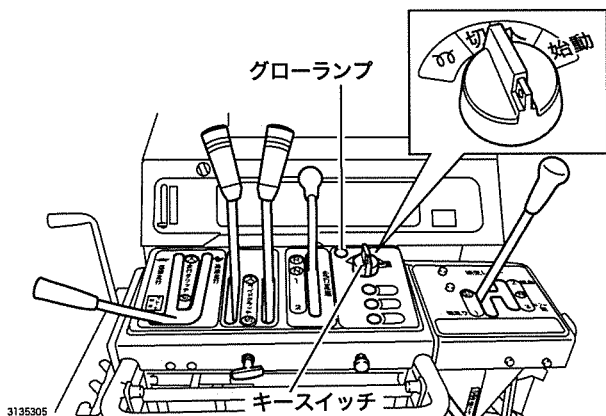
1. 上カバー	
2. 右カバー	
3. エアクリナー	57
4. 油圧パッケージ	52
5. ひもケース	
6. お知らせランプ	23
7. 作業ミラー	
8. 前照灯	
9. ピックアップ前カバー	
10. クローラ	66
11. ピックアップチェンカバー	
12. ゲージホイール	36
13. ピックアップフィンガ	67
14. ピックアップドラム	
15. グローランプ	20
16. キースイッチ	19
17. 警報ランプ	19
18. デコンプレバー	20
19. ライトスイッチ	23

4章 各操作部のはたらき

エンジンコントロール関係

(1) キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



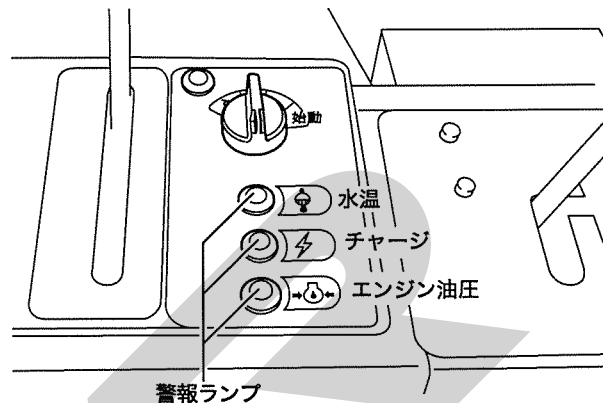
- 「切」位置……電流が流れず、キーを抜き取れる。
「入」位置……各電装スイッチに電流が流れる。
「始動」位置……セルモータが回転し、エンジンが始動する。エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る。ただし、走行クラッチレバーが「駐車ブレーキ」位置、作業クラッチレバーが「切」位置でないと、セルモータは回転しません。
- 「00」グロー……この位置にキーがあればグローラグに通電し、寒冷時での始動を容易にします。なお、「00」位置での通電は、グローランプが点灯している間（約4秒）だけにしてください。

[参考]

- キースイッチからキーを抜いたときは、防水キャップを取り付けてください。

(2) 警報ランプ

各部に異常があった場合に、異常発生箇所のランプが点灯して知らせます。



キースイッチを「入」または「始動」位置にすると、電流が流れて各ランプが点灯し、エンジンが始動するとランプが消えます。

[重要]

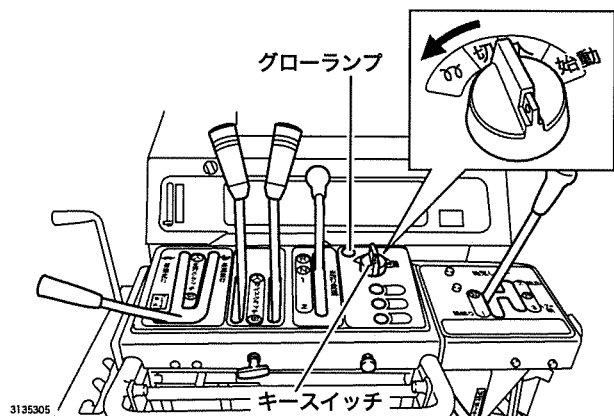
- 作業終了時は、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。

〈各警報ランプ点灯時の異常内容について〉

- 水温ランプ…エンジン冷却水の温度が非常に高くなっています。作業を中止して冷却水温を下げるため、エンジンをアイドリング状態にして表示が消えるまで、しばらく回してください。その後エンジンを停止して十分に冷えてから以下の点検をしてください。
 - ・ 冷却水量に異常がないか（水もれがないか）（59ページ参照）
 - ・ 吸気口（ラジエータ）に泥やゴミの付着がないか（56ページ参照）
 - ・ ファンベルトのゆるみがないか（62ページ参照）
- チャージランプ…バッテリーへの充電が不足しています。ファンベルトの破損や電気系統に異常が生じていないかチェックしてください。（62ページ参照）
- エンジン油圧ランプ…エンジン回転中エンジンオイルの圧力が低下しています。エンジンオイルの油量が十分かどうか確認してください。（51ページ参照）

(3) グローランプ

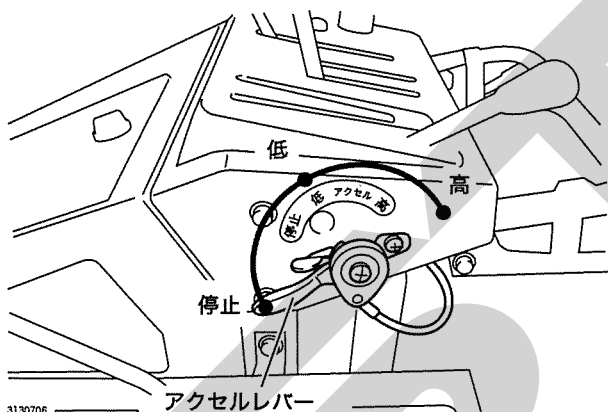
グロー作動時に点灯します。



キースイッチを「00」（グロー）位置のときに約4秒間点灯します。

(4) アクセルレバー

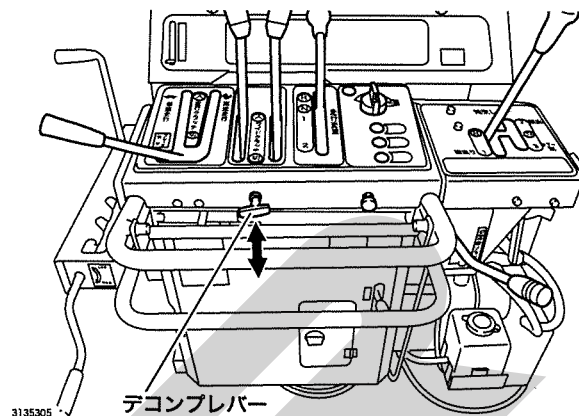
エンジン回転の上げ下げに使用します。



「高」位置……エンジン回転が上がる。
 「低」位置……エンジン回転が下がる。
 「停止」位置…エンジンが停止する。

(5) テコンプレバー

エンジンを始動するときに使用します。



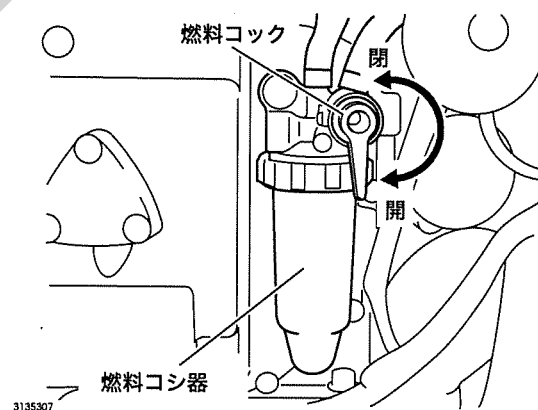
エンジン内の圧縮を抜き、エンジンの始動を容易にします。手前に引くと無圧縮の状態になります。寒冷時のエンジンの始動を容易にします。

【重要】

- 緊急時以外でのテコンプレバーでのエンジン停止はしないでください。

(6) 燃料コック

エンジンへ供給する燃料の開閉に使用します。また、燃料の空気（エア）抜きに使用します。



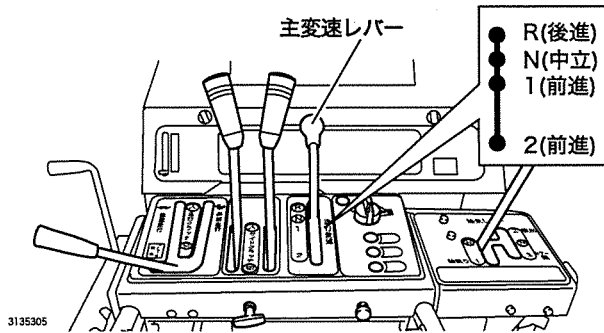
「開」位置… エンジンに燃料が供給される。（エンジン始動中）

「閉」位置… エンジンに燃料が供給されない。

走行・作業関係

(1) 主変速レバー

「前進」「後進」の進行方向と、走行速度の調節に使用します。



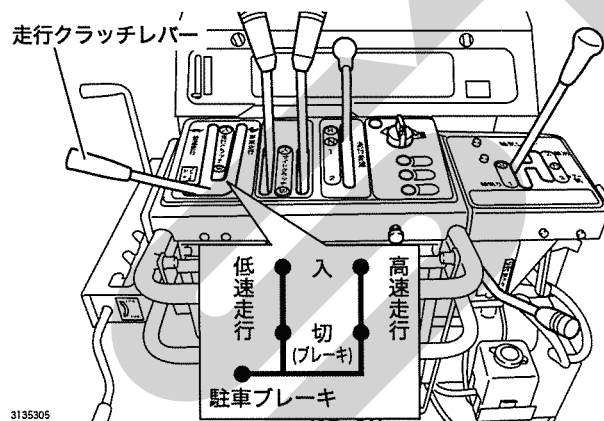
前進2段・後進1段の変速ができます。

【重要】

- 主変速レバーの操作をするときは、走行クラッチレバーを「切」位置にして、機体が完全に停止している状態で行ってください。

(2) 走行クラッチレバー

走行クラッチの「入」「切」ができます。



「入」(低速走行)位置

…エンジンの動力が走行部に伝達される。
(低速走行時)

「入」(高速走行)位置

…エンジンの動力が走行部に伝達される。
(高速走行時)

「切」位置…走行部へのエンジンの動力が断たれる。
さらにレバーを引くとブレーキがかかる。

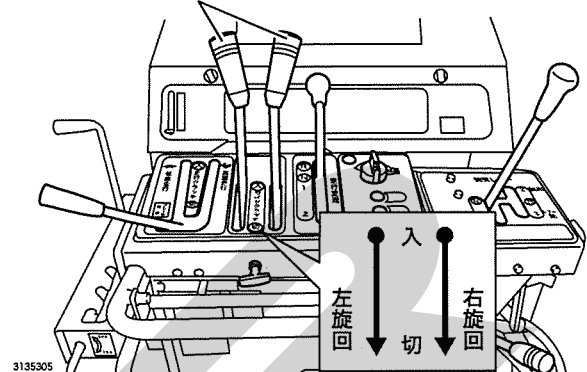
「駐車ブレーキ」位置

…ブレーキ位置でレバーが保持され、駐車ブレーキがかかる。

(3) サイドクラッチレバー

機体を旋回するときに使用します。

サイドクラッチレバー

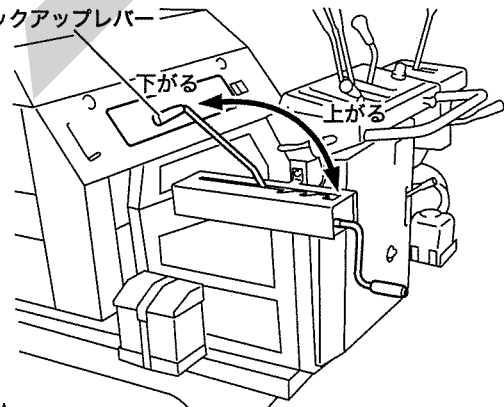


レバーを引いた側のクローラの回転が止まり、機体はレバーを引いた方向に曲がります。

(4) ピックアップレバー

ピックアップ部の昇降を、素早く(大きく)行うときに使用します。

ピックアップレバー

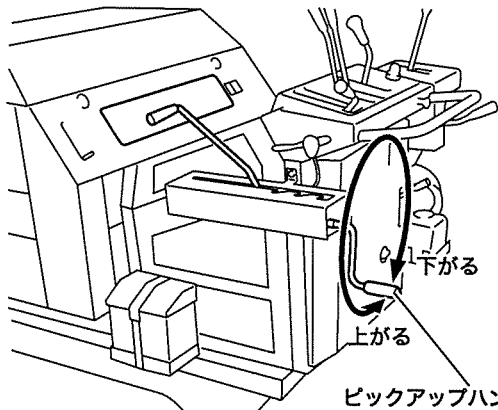


「上がる」側…ピックアップ部が上昇する。

「下がる」側…ピックアップ部が下降する。

(5) ピックアップハンドル

ピックアップ部の昇降を、少しずつ（小さく）行うときに使用します。

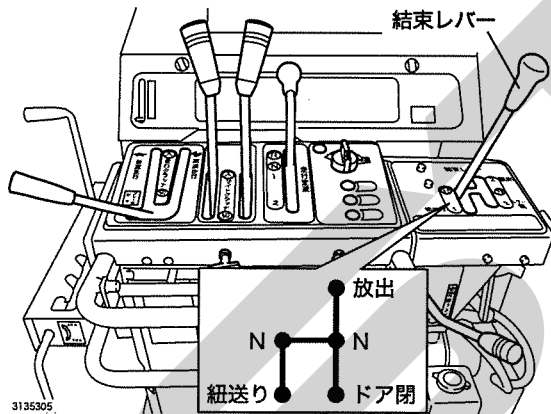


E3135301B

「上がる」側…ピックアップ部が上昇する。
「下がる」側…ピックアップ部が下降する。

(6) 結束レバー

ベールを放出するときに手順どおりに使用します。



3135305

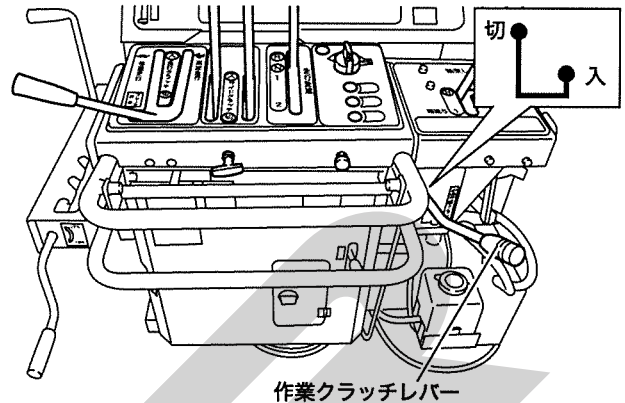
「紐送り」位置…ひもを送り出す。
「放出」位置……ドアが開く。
「ドア閉」位置…ドアが閉じる。

【重要】

- 「紐送り」位置では、結束レバーを1～2秒間保持し、ひもが送られていることを確認してから手を離してください。
- 「ドア閉」位置では、結束レバーを油圧のリリーフ音が鳴るまで保持し、ドアを確実に閉めてください。

(7) 作業クラッチレバー

梱包部（ベアラ室）とピックアップ部が駆動します。



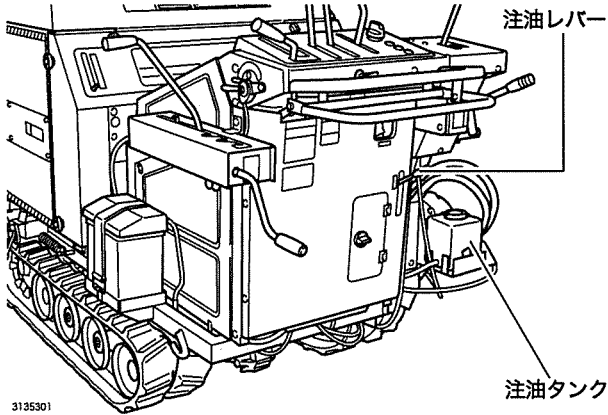
3135305

「入」位置…梱包部（ベアラ室）とピックアップ部が回転する。
「切」位置…梱包部（ベアラ室）とピックアップ部が停止する。

その他

(1) 注油レバー

集中注油するときに使用します。

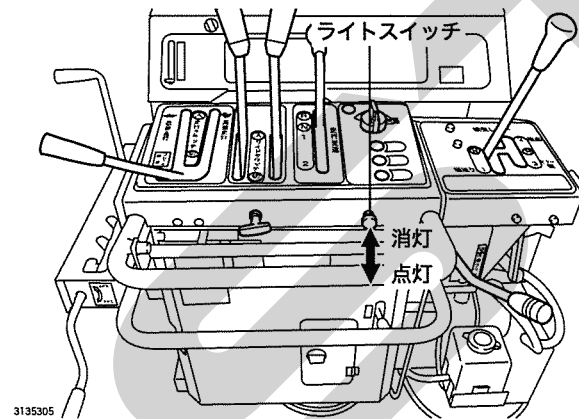


注油レバーを押し下げると、ベール室内の各部に注油されます。

作業前、作業中に行ってください。(55ページ参照)

(2) ライトスイッチ

前照灯を点灯するときに使用します。

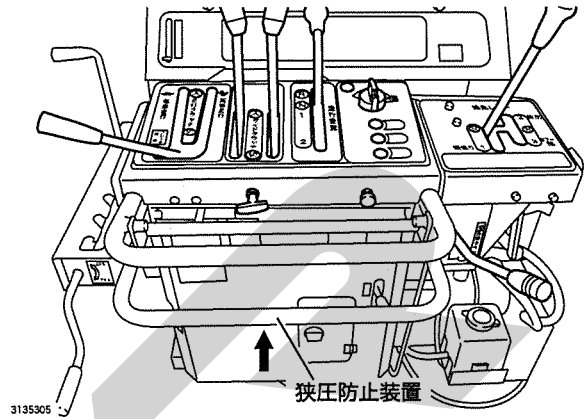


引く……前照灯が点灯する。

押し込む…前照灯が消灯する。

(3) 狭圧防止装置

狭圧防止装置が前方に押されると、走行クラッチが自動的に切れます。

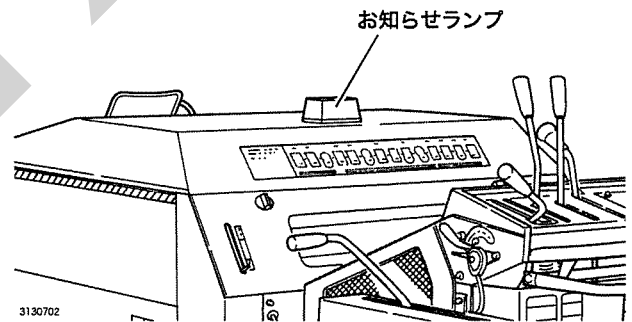


【参考】

● 狭圧防止装置では、エンジンは停止しません。

(4) お知らせランプ

規定ベール圧・紐巻き完了時にブザーと同時に点滅します。



⚠ 危険

- エンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

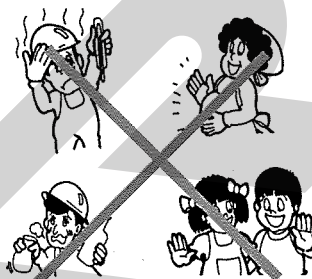
⚠ 注意

- カバーを取り外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

1. 作業者の体調・服装について

体調について

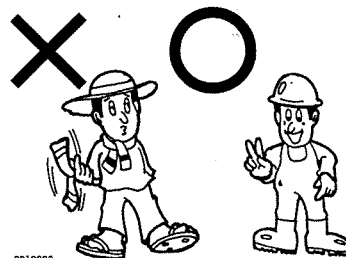
作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。



2010902

服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。



2010903

2. 本機の点検のしかた

点検は次の順序で行ってください。

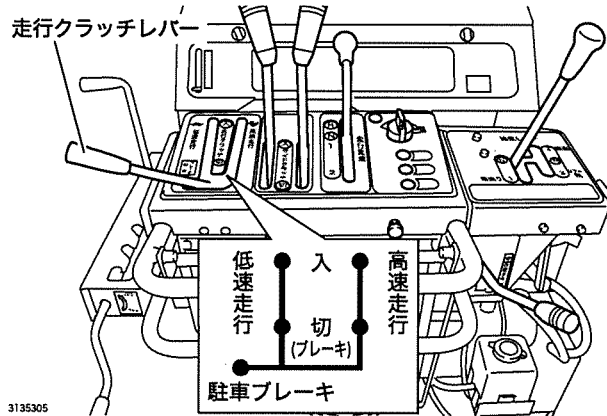
点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか.....	72~74
機械のまわりを回ってみて	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ●燃料の量と燃料もれはありませんか..... ●クローラの損傷・ゆるみはありませんか..... ●各部注油箇所の油切れはありませんか..... ●各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか.....	55 66 53~55 60~64
エンジンルームを開けてみて	●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか..... ●燃料の量と燃料もれ、オイルもれはありませんか..... ●エアクリーナーの汚れはありませんか..... ●エンジン防塵装置のほこりやゴミはありませんか..... ●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか	51 55 57 56
エンジンを始動してみても	●エンジン始動後に異音はありませんか ●排気ガスの色は正常ですか ●各作業クラッチレバー・スイッチの作動状態は正常ですか..... ●狭圧防止装置の作動状態は正常ですか.....	19~23 23

6章 運転・移動のしかた

1. エンジンの始動のしかた

セル始動のしかた

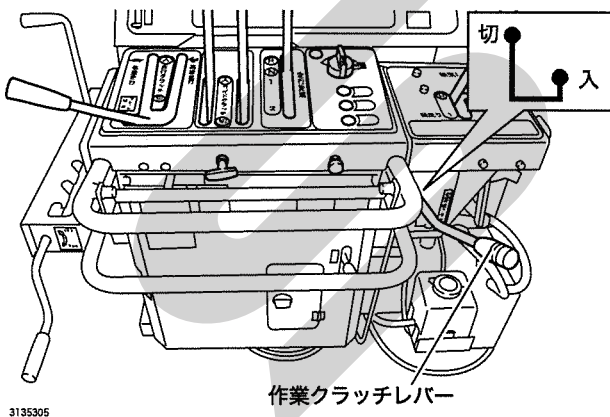
1. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。



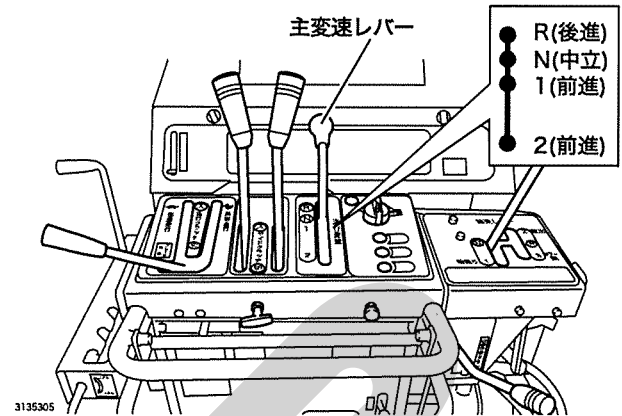
【重要】

- 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置、作業クラッチレバーを「切」位置にしないと、セフティスイッチが働き、キースイッチを「始動」位置にしてもエンジンは始動しません。

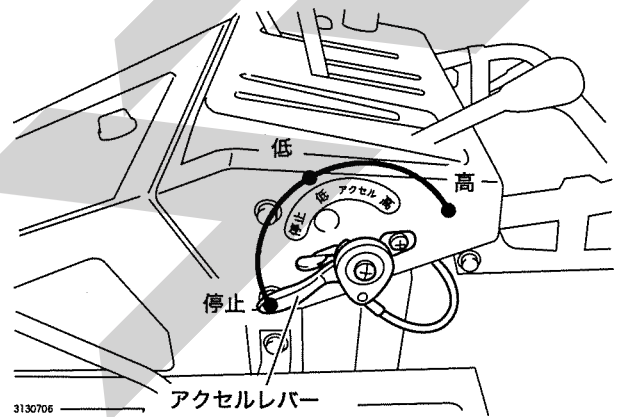
2. 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



3. 主変速レバーを「N」位置にしてください。



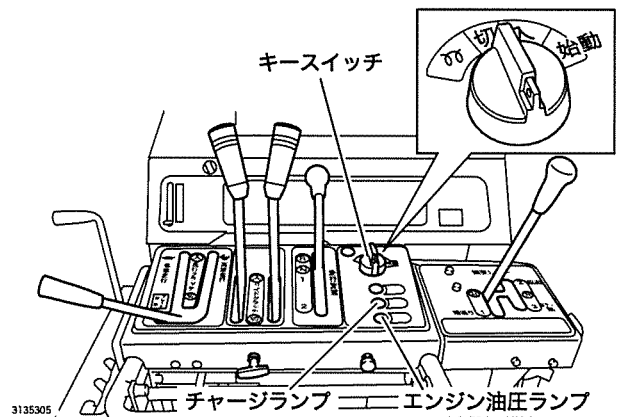
4. アクセルレバーを「高」位置にしてください。



5. 〈寒冷時のみ〉

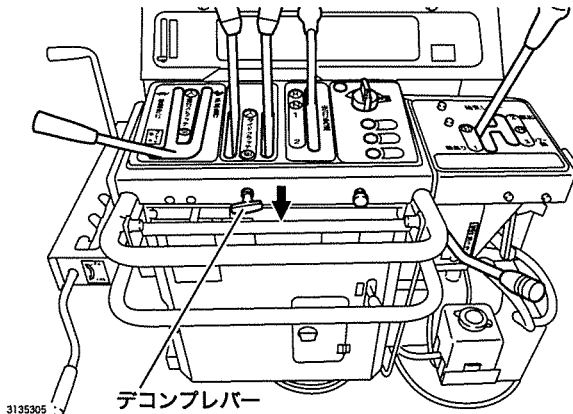
キースイッチを「00」位置にして、グローランプが点灯している間(約4秒間)保持し、グローランプが消灯してから「入」位置にしてください。

6. キースイッチを「入」位置にしてください。このときチャージランプ・エンジン油圧ランプが点灯します。

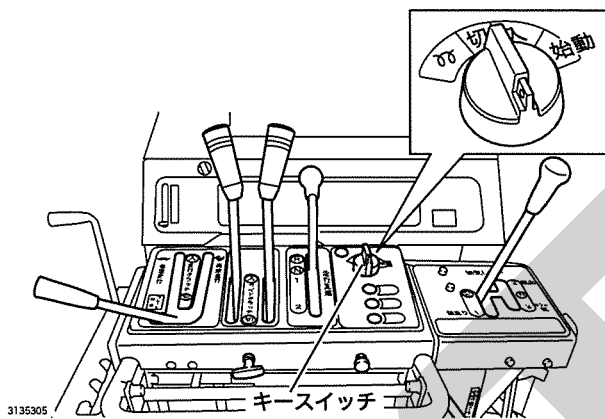


7. 〈寒冷時のみ〉

デコンプレバーを引き、保持します。

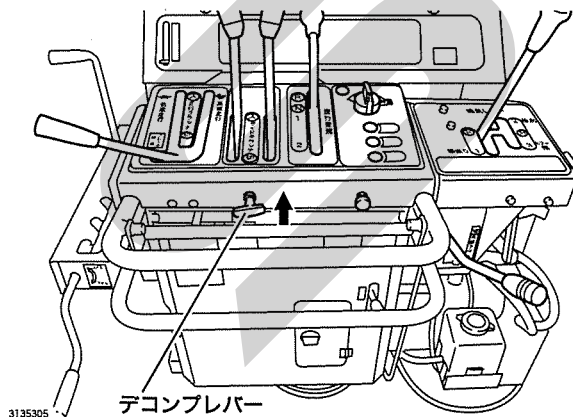


8. キースイッチを「始動」位置にしてください。



9. 〈寒冷時のみ〉

セルが勢いよく回り出したら、デコンプレバーを戻します。



10. エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

11. アクセルレバーを「低」位置にしてください。

【重要】

- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。
- セルモータの1回の運転時間は、5秒以内にしてください。もしエンジンが始動しないときは、いったんキースイッチを「切」位置にして、30秒以上経ってから、再び始動してください。
- エンジンが始動しても、チャージランプ・エンジン油圧ランプが消えないときは、特販店・JAに連絡してください。

2. 暖機運転のしかた

▲ 注意

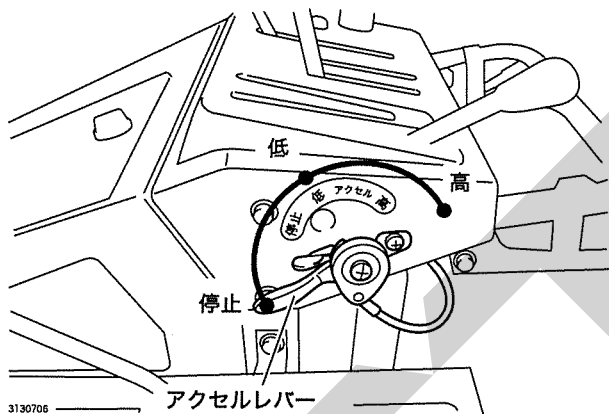
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。機械が動き出したりして、傷害事故の原因になります。

1. エンジンを始動してください。

【重要】

- 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。

2. アクセルレバーを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。

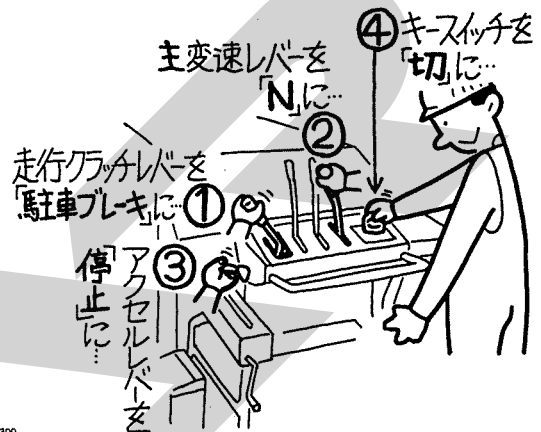


3. 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

※ 寒冷時は、暖機運転を15分以上行ってください。

3. エンジンの停止のしかた

1. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
2. 主変速レバーを「N」位置にしてください。
3. アクセルレバーを「停止」位置にしてください。エンジンが停止します。
4. キースイッチを「切」位置にしてください。



【重要】

- エンジンを停止するときは、デコンプレバーで行わないでください。

4. 発進・旋回・変速・停止・駐車 のしかた

▲ 注意

- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶってください。

発進のしかた

1. ピックアップレバーとピックアップハンドルで、ピックアップ部を最上げ状態にしてください。
2. アクセルレバーでエンジン回転を少し上げて、変速レバーを希望の速度段に入れてください。
3. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置から解除して、周囲の安全を確認後、徐々に「入」位置にして、ゆっくり発進してください。

クラッチレバーで駐車ブレーキを「解除」その後徐々に「入」にして発進…

2-2 変速レバーを希望の位置に…

アクセルレバーで回転を少し上げる 2-1

ピックアップレバーとピックアップハンドルを「最上部」に ①

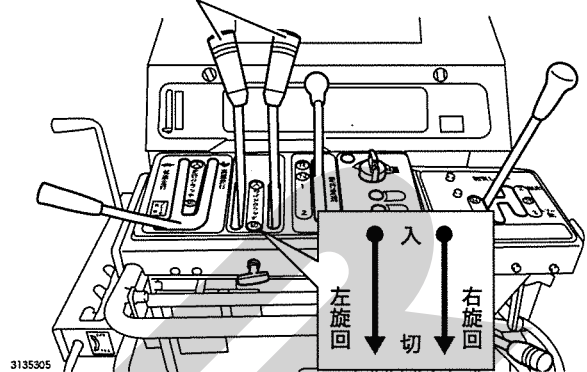
11367198



旋回のしかた

旋回したい側のサイドクラッチレバーを引きます。

サイドクラッチレバー



変速のしかた

▲ 注意

- 坂道で変速する場合は、走行クラッチレバーを必ず「駐車ブレーキ」位置にしてください。機体が停止せず、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

走行の途中で変速するときは、下記の要領で行ってください。

1. 走行クラッチレバーを「切」位置にします。ただし、坂道で変速する場合には、走行クラッチレバーを必ず「駐車ブレーキ」位置にしてください。
2. 希望の変速に入れ替えます。
3. 走行クラッチレバーを徐々に「入」位置にし、ゆっくり発進します。

【重要】

- 「前進」から「後進」、「後進」から「前進」に変速する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。

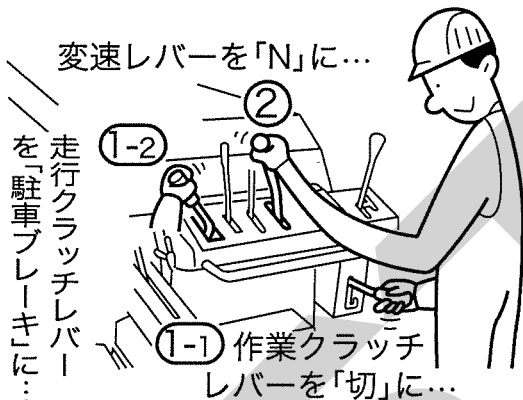
停止・駐車のしかた

注意

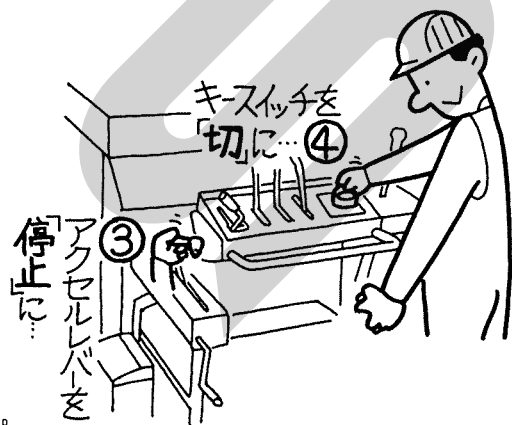
●本機から離れるときや駐車するときは、必ず走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。なお、坂道ではさらにクローラに歯止めをしてください。

機体が動いて思わぬ事故を引き起こすことがあります。

1. 作業クラッチレバーを「切」位置にし、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。
2. 変速レバーを「N」位置にします。
3. アクセルレバーを「停止」位置にすると、エンジンが停止します。
4. エンジンスイッチを「切」位置にします。



2137307



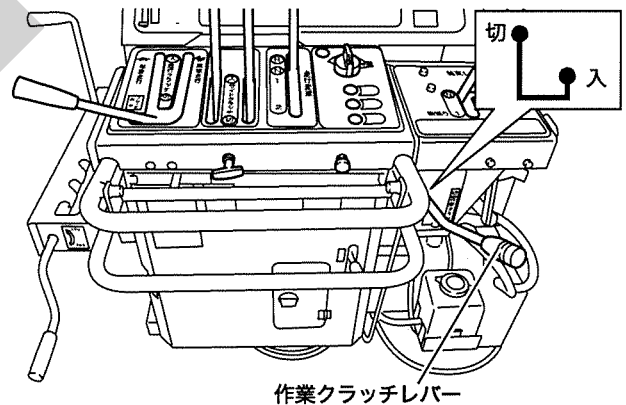
E3135310

5. 移動走行のしかた

警告

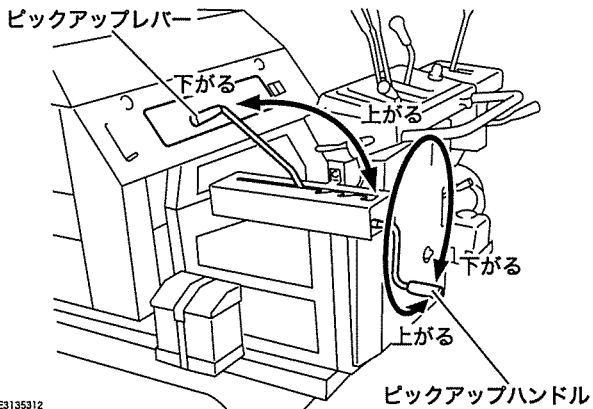
- 旋回および急な坂道（約10度以上）では、必ず速度を低速にしてください。ケガをするおそれがあります。
- 機体の上には、ワラ・物などを乗せないでください。
- 坂道で駐車するときは、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にするとともに、木片などで歯止めをしてください。
機体が動いて思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機から離れるときは、平坦で安全な場所に置き、エンジンを止め、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
- 後進するときは、後方に注意して、エンジンは低速回転、走行クラッチレバーは低速で行ってください。

1. 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



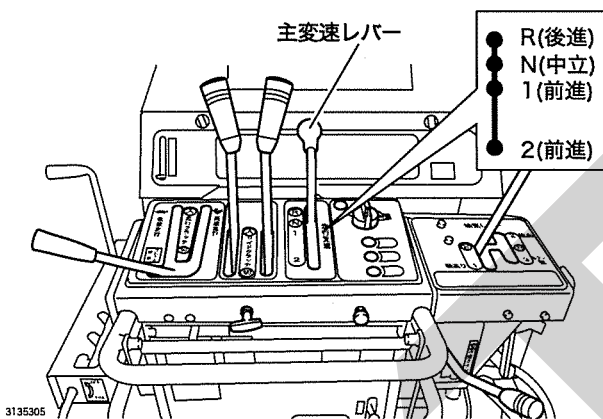
3135305

2. ピックアップレバーでピックアップを上げ、次にピックアップハンドルでいっぱいまで上げます。



E3135312

3. 主変速レバーを「1速」または「2速」に入れ、前後左右に十分注意してゆっくり発進します。

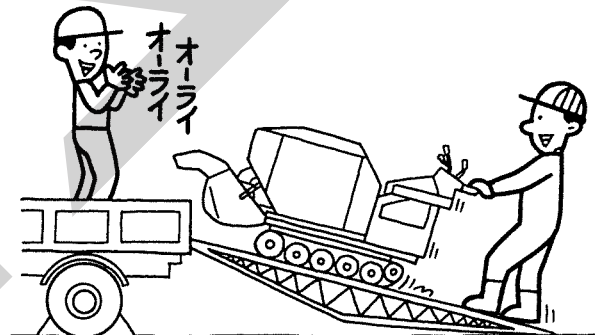


3135305

6. トラックへの積み・降ろし、あぜ越えのしかた

⚠ 警告

- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、歯止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。使用しないと、転落事故や機械を破損する原因になります。
- 積み・降ろしの機体の進行方向は、前進で積み込み、後進で降ろしてください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。



1136716A

- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- 本機の直前・直後には機械が不意に動いたときにあぶないので、絶対に立たないでください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

(1) アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上。
- 幅…30cm以上。
- 強度…1枚が800kgに十分耐えられるもの。
- 表面…すべらないよう処理してあるもの。
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。

⚠ 注意

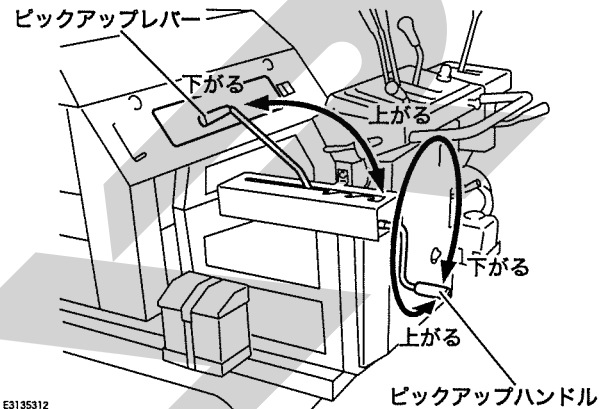
- 基準を満たしていないアユミ板を使用すると、ピックアップフィンガの角度（ピックアップドラムからの出かた）によっては、アユミ板に当たりフィンガが変形するおそれがあります。基準を満たしているアユミ板を使用し、当たらないように注意してください。

(2) トラックの準備

1. トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
2. トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
3. タイヤに歯止めをしてください。
4. トラックの荷台にアユミ板のフックを段差がでないように、確実に掛けてください。

(3) 本機の積み込みかた

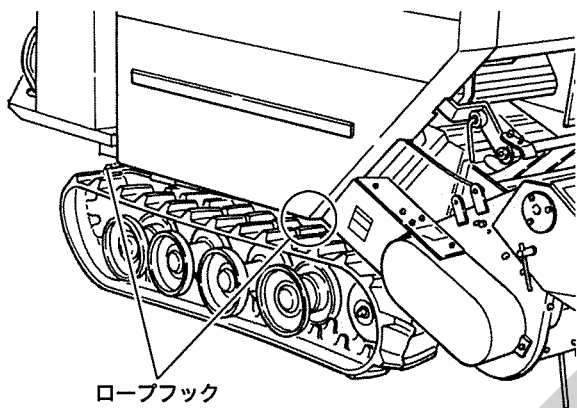
1. 本機は、移動走行と同じ状態にしてください。（30ページ参照）
2. 本機は、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。
3. ピックアップレバーとピックアップハンドルで、ピックアップ部を最上げ状態にしてください。



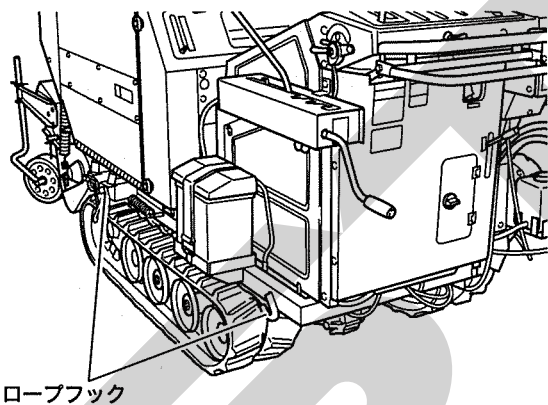
4. 本機の積み込み方向は、前進で積み込んでください。
5. アクセルレバーでエンジン回転を少し上げてください。
6. 変速レバーを「1」（前進）位置にしてください。
7. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置から解除して、徐々に「入」（低速走行）位置にして、ゆっくり前進してください。
8. 運転者は、常に走行クラッチレバーを操作できる位置にいてください。
9. 本機がトラックに積み込まれたら、走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。機体が停止します。

(4) トラックに積み込んだら

1. エンジンを停止してください。
2. ピックアップ部を荷台に接地させてください。
3. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
4. 機体左右のロープフック（4か所）に、十分強度のあるロープを掛けて、機体を確実に固定してください。



2137301



3135301

【重要】

- ロープフック以外に、ロープは掛けないでください。破損するおそれがあります。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

(5) 本機の降ろしかた

本機をトラックから降ろすときは、後進で行ってください。

1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。
3. ピックアップレバーとピックアップハンドルで、ピックアップ部を最上げ状態にしてください。
4. アクセルレバーでエンジン回転を少し上げてください。
5. 変速レバーを「R」（後進）位置にしてください。
6. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置から解除して、徐々に「入」（低速走行）位置にして、ゆっくり後進してください。
7. 運転者は、常に走行クラッチレバーを操作できる位置にいてください。
8. 本機が完全にトラックから降ろせたら、走行クラッチレバーを「切」位置にして、機体を停止してください。

(6) あぜ越えのしかた**▲ 注意**

- あぜ越えは低速で、あぜに対して直角にゆっくりと行ってください。
- 高いあぜを越えるときは、アユミ板などを使用してください。

7章 作業のしかた

1. 作業条件とほ場条件

作物の条件

本機の適応作物は、稲（麦）の長ワラ・稲（麦）の切ワラ・牧草（イタリアンライグラス類）です。コーンなどの硬い飼料では作業できません。

※ 降雨や多湿状態の作物は、梱包能率の低下だけでなく詰まりの原因にもなりますので、作物は十分乾燥させてください。

早朝・夕方は、多湿状態になりますので注意してください。

ほ場の条件

足の沈みがくる節（約4cm）までのぬかるみであれば作業できます。ただし、一度通ったクローラ跡を通らないようにしてください。

※ 作業をやりやすくするため、なるべくほ場を乾かしてください。



A3037319

能率の良い作業をするための準備

効率の良い作業をするためには、梱包作物の種類によってウインドロー、またはコンバイン作業などで、梱包しやすいように前処理を行ってください。

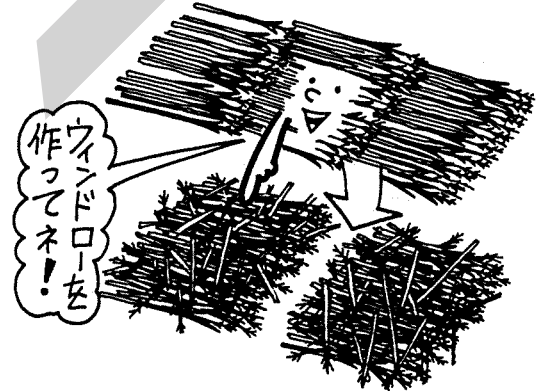
※ ウインドローとは、能率良く作業するために、ワラなどをうねのように集めたものです。

稲(麦)の長ワラを梱包する場合

3・4条刈コンバインの垂れ流し作業が最適です。



1132212B

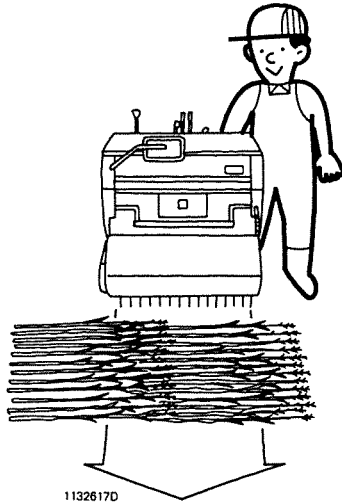


【重要】

● 2条刈コンバインの垂れ流し作業・ドロツバ作業、および稈長100cm以上などは、反転作業後にウインドローを作ってください。

あるいは、オーバーラップ部を避け、上部のワラから取り込んでください。(次ページ参照)

上部のワラから取り込む場合は、コンバインの作業方向とは逆に作業します。即ち、コンバインがほ場の外側から左廻りで順次中央に向うのに対し、ロールペーラは、外側から右廻りで中央へと進みます。そうしないと、未回収側にロールが落ち、次行程で作業ができません。



稲(麦)の切ワラを梱包する場合

切断長は5cm以上とし、ウインドローを作ってください。

【重要】

- ウインドローなしの作業は、回収率低下となります。

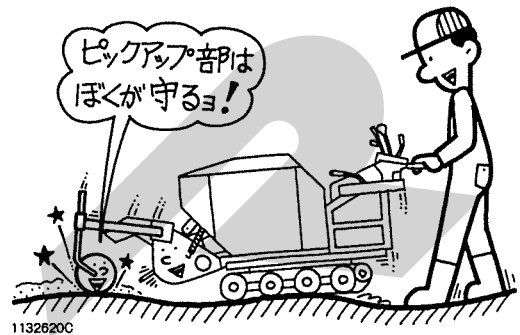
牧草(イタリアンライグラス類)を梱包する場合

反転・乾燥後、ウインドローを作ってください。



【重要】

- ウインドローの高さが40cm以上で作業をしますと、搬送詰まりが発生することがありますので注意してください。
- 凹凸の激しいほ場や石の多いほ場では、ゲージホイールを使用してください。ピックアップ部を守り、ペールへの土砂の混入を防ぎます。



寒冷時作業について

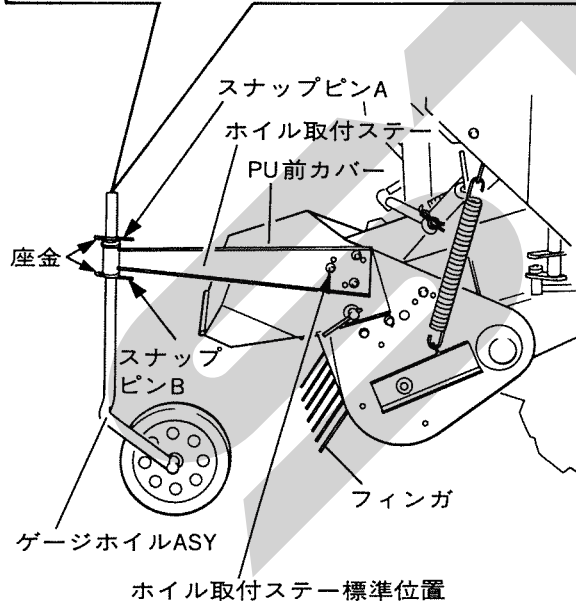
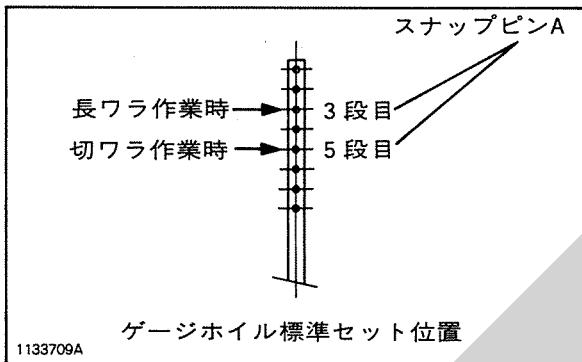
寒冷時は油温が低いため、ドアが閉まりにくい場合があります。こんなときは、作業前に2~3回ドアを開閉して、確実に閉まることを確認してから作業を行ってください。

能率の良い作業をするための準備

〈ゲージホイール使用時には〉

取り込む作物により、長ワラ作業時には上方から3段目、または切ワラ作業時には、上方から5段目にスナップピンAを差し込んでセットしたのち、スナップピンBを差し込んでゲージホイールASYを取り付けてください。

ほ場条件、作物条件により、上述の調節で不具合を生じる場合は、適宜ピン位置を変更して作業してください。なお、ピンのみで調節できない場合は、ホイール取付ステーの取付位置を回動し、穴位置を変えてください。



【重要】

- ゲージホイール使用時には、ピックアップハンドルを回して、ゲージホイールが丁度地面に接地する程度にピックアップワイヤーを調節してください。(ワイヤーをゆるめすぎると、ゲージホイールだけが凹地に入ったときに、フィンガが土をかき込んでしまいます。)

2. 作業前の準備

使用するひもについて

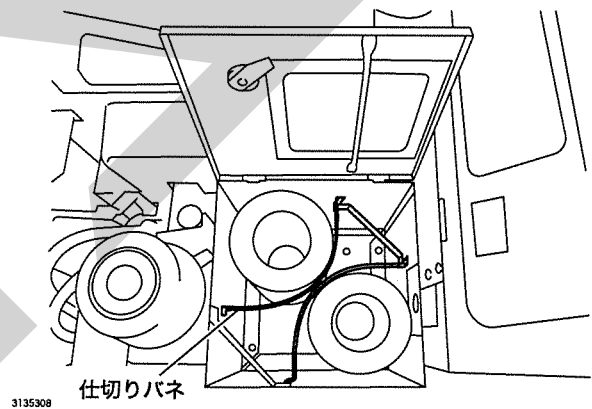
ひもはバインダ用のジュート・サイザル・PPひもの他に、コンバイン用のジャンボひもが使用できますが、いずれのひもについても、メーカー指定以外のひもは使わないでください。

【重要】

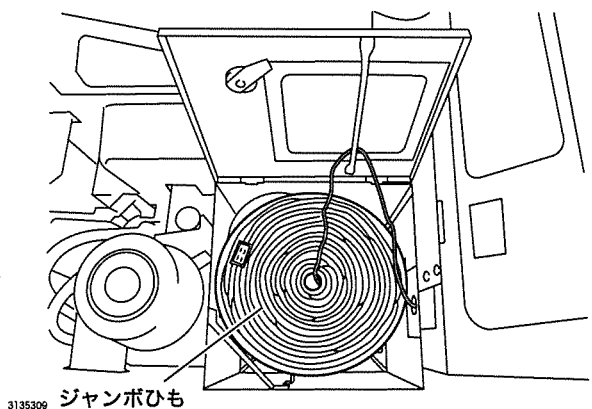
- できるだけジュートひもを使用してください。

ひもケースへひもをセットするときは、通常サイズのひもと、ジャンボひもで仕切りバネの位置が下図のように異なります。

通常サイズのひもの場合



ジャンボひもの場合

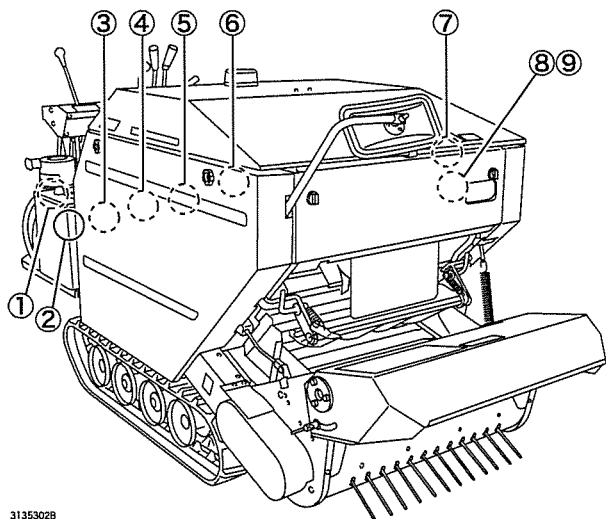


【重要】

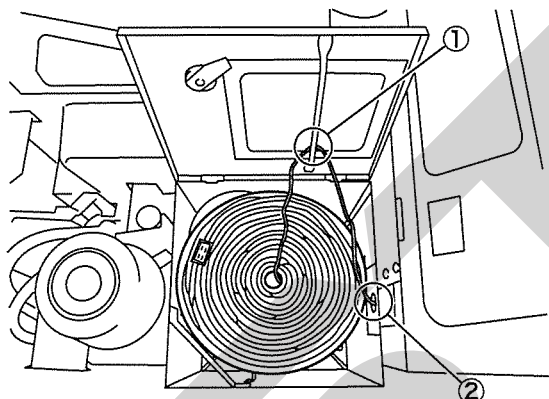
- 替えひもは、特販店で買い求めください。もし指定以外のひもを使用して、結束不具合が出た場合は保証いたしかねますのでご注意ください。

ひもの通しかた

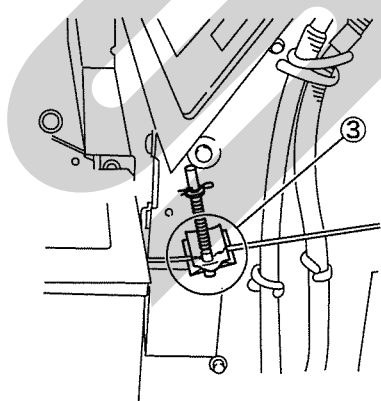
ひも受け台に結束ひもを取り付け、下図①～⑨の順に通します。次に、次ページの要領でひもブレーキ圧の調節をします。



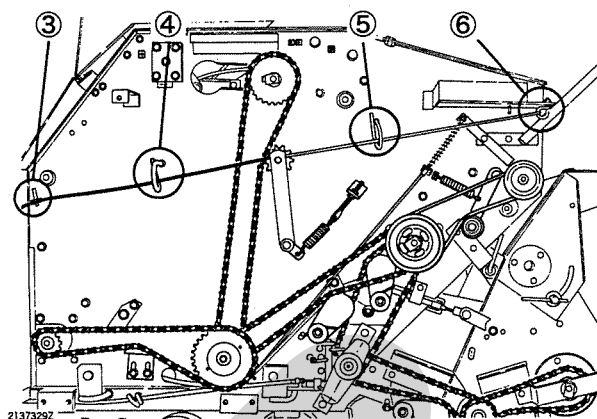
3135302B



3135309A



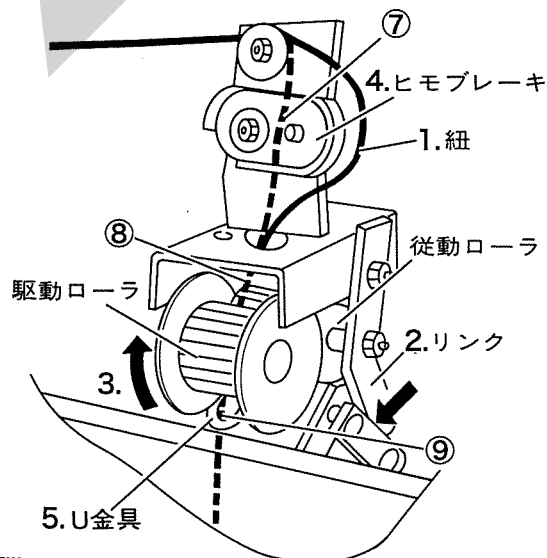
3135325



2137329Z

〈結束部⑦⑧⑨のひもの通しかた〉

1. ひもを穴の中に先に通します。
2. リンクを矢印方向に引き、従動ローラを駆動ローラに接触させます。
3. 駆動ローラを手で矢印方向に回して、ひもを送り込みます。
4. 最後にヒモブレーキにひもを通します。
5. ヒモがU金具の中を通っているか確認してください。



2137330

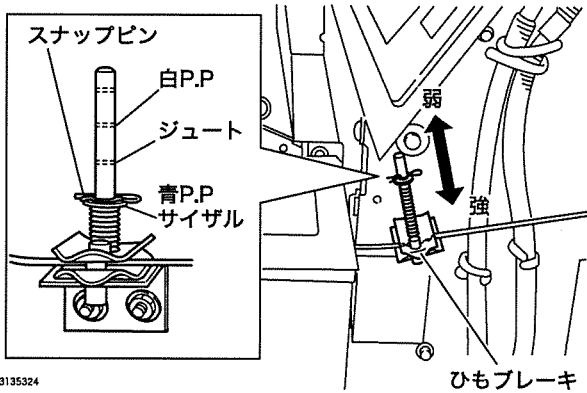
▲ 注意

- ひもを通すときは、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから行ってください。ケガをするおそれがあります。

ひもブレーキの調節のしかた

ひもブレーキは、下図のようにスナップピンを切り換えてセットしてください。

ひもによりスナップピンを下図の位置にセットしてください。



3135324

【重要】

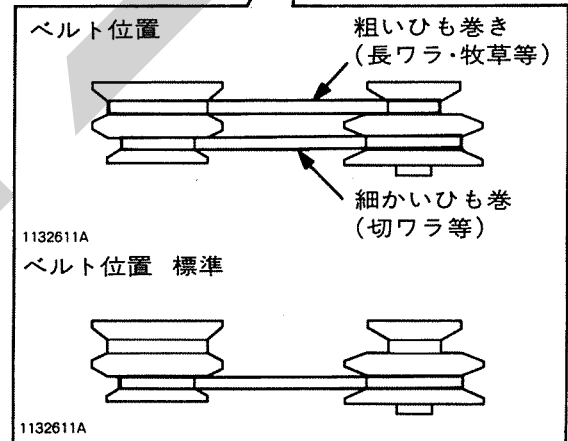
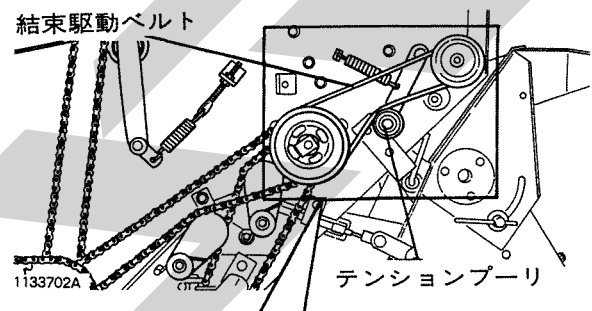
- ひもはメーカー純正ひもをご使用ください。
- ひもは絶対に濡らさないでください。

ひも巻きピッチの切り換え

標準は結束駆動ベルトを外側に取り付けてください。ヒモ巻ピッチは約10cmです。結束駆動ベルトを内側に取り付けると、ひも巻ピッチは約16cmになり、ひも使用量を少なくすることができますが、結束不良やバラケなどの原因になりますので、極力ベルトは外側に取り付けて使用してください。

〈ベルトの掛替えかた〉

下図のようにテンションプーリを下方に押し下げて、プーリへの掛替をしてください。



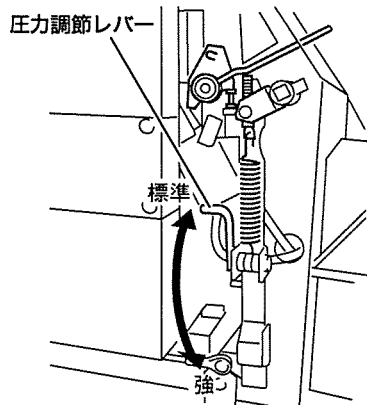
⚠ 注意

- ベルトの掛替は、必ずエンジンを停止してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

	切ワラ	長ワラ・牧草
ベルト位置	外	内
ひも巻ピッチ(cm)	10	16
結束時間(秒)	20	13
ペール1個当りひも長さ(m)	18~19	13~14

ベール加圧バネの調節のしかた

本機左側（後方）のカバーを外すと調節レバーがあります。この調節レバーによって、ベール圧の「強」・「標準」が変えられます。通常作業は標準位置で行いますが、ベールを特に固めにしたいときは、「強」側に切り替えます。



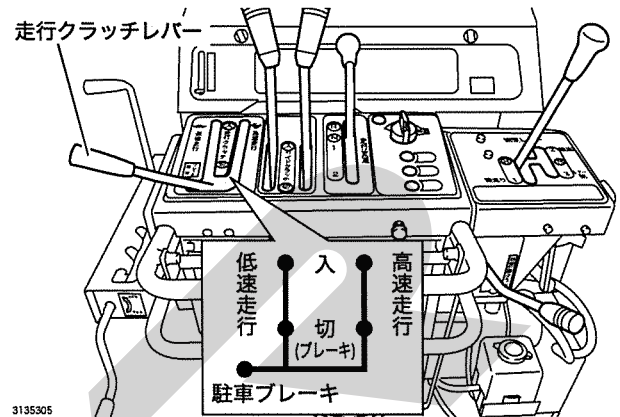
2137328

【重要】

- ベール圧を「強」にすると結束後の放出が困難となる場合があるので、極力ベール圧は「標準」で使用してください。

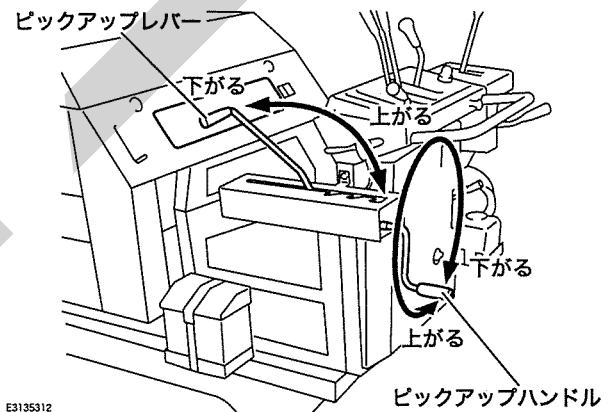
3. 本機の作動確認のしかた

1. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。

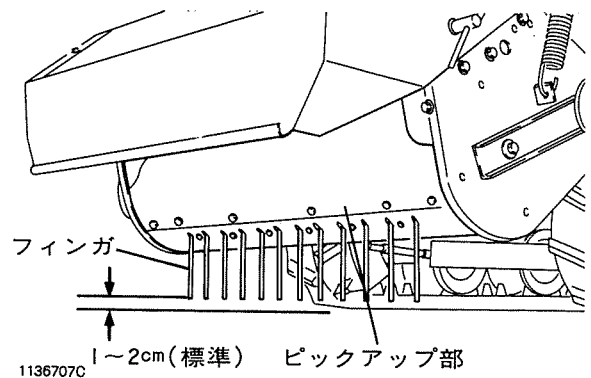


3135305

2. ピックアップレバーでピックアップを下げ、次にピックアップハンドルでピックアップのフィンガが地面に接触しない程度（1～2cm）まで下げます。

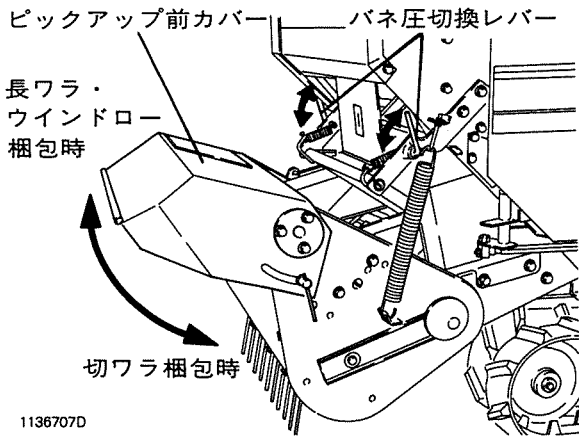


E3135312

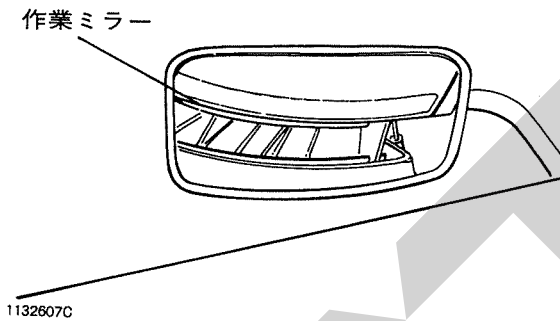


1136707C

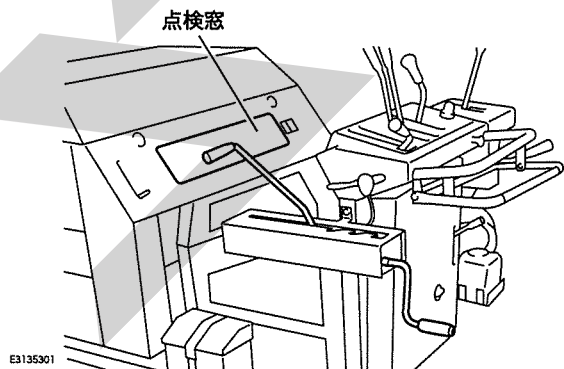
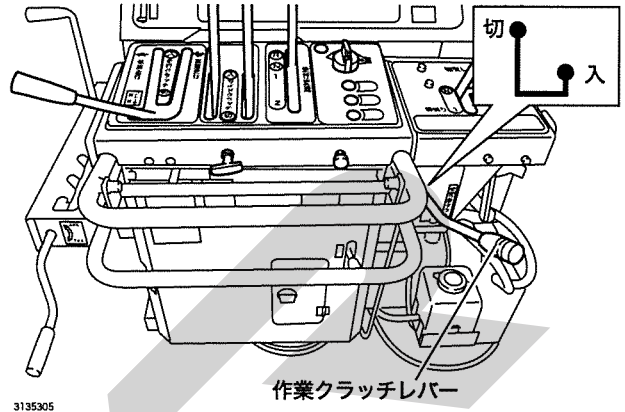
3. 切ワラを梱包するときは、バネ圧切換レバーを左右とも下側にして、ピックアップ前カバーを下方へ調節します。長ワラおよびウインドローのときは、バネ圧切換レバーを左右とも上側にし、ピックアップ前カバーを上方へ調節します。



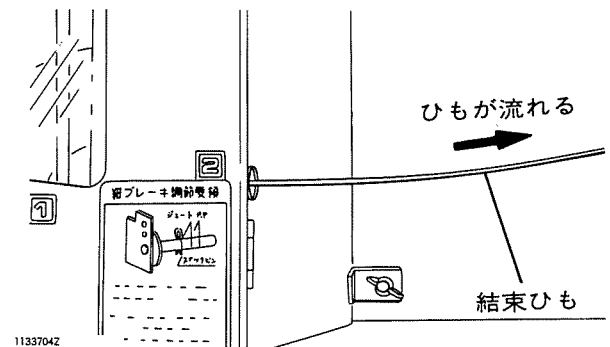
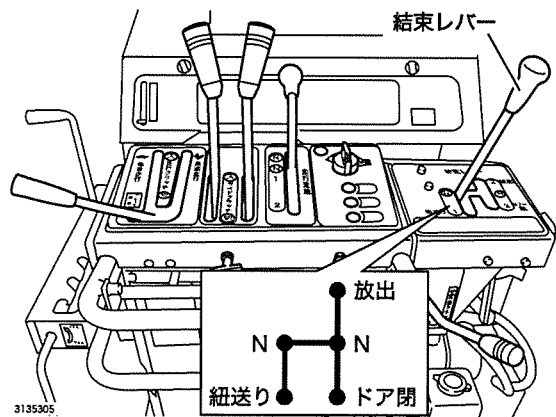
4. 作業ミラーを搬送部が見える位置に合せます。



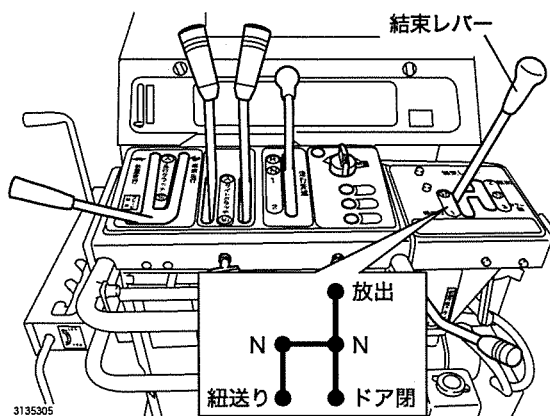
5. エンジンを始動してください。
6. 作業クラッチレバーを「入」位置にして、パイプコンベア・ピックアップ部が正常に回転しているか、点検窓から確認してください。



7. 結束レバーを「紐送り」位置にして、ひもが流れていくか確認してください。



8. 結束レバーを「放出」位置にして、ドアが開くか確認してください。またこのとき、パイプコンベア・ピックアップ部が停止しているか、点検窓から確認してください。
9. 結束レバーを「ドア閉」位置にして、ドアが閉じるか確認してください。



⚠ 注意

- ドアの開閉は、周囲に人がいないことを確認して行ってください。周囲に人や障害物があるとぶつかって、ケガや破損するおそれがあります。

4. 梱包作業のしかた

⚠ 危険

- 作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれる、あるいは旋回時の接触事故など非常に危険です。

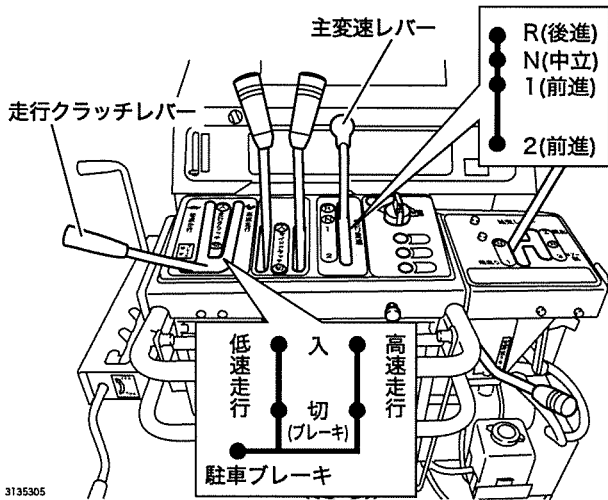
⚠ 警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で後進してください。
- エンジン回転中、回転部に手や指や身体を絶対近づけないでください。ケガをするおそれがあります。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから点検してください。
- ワラズを取り除くとき、およびワラなどが詰まった場合には、必ずエンジンを停止してから取り除いてください。
- ワラズの上に機体を止めて作業をしないでください。火災の原因になります。
- 作業をするときは、チェーンなどに十分注意して作業してください。服のそでや、手が巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
- エンジンやマフラーにワラズがたまらないように掃除をしてください。ワラズがたまると火災になるおそれがあります。
- 作業中はカバー類やふたは必ず閉めてください。ケガをするおそれがあります。
- 発進および作業クラッチを入れるときは、周囲の人がケガをしないように合図をし、安全の確認をしてください。
- 運転中はドア周辺に立ち入らないでください。急にドアが開いたときに、ケガをするおそれがあります。

【重要】

- 作業前には必ず上カバーを開き、ペール室内に異物が入っていないか確認してください。

1. 主変速レバー・走行クラッチレバーを作業条件に合った速度に入れます。



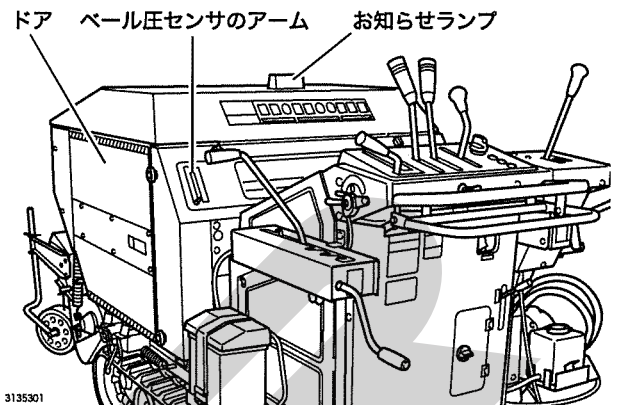
【重要】

- 主変速レバーの操作は、必ず走行クラッチレバーを「切」の位置で行ってください。
- 作業するときは、土壌条件・作物の層・湿気にも十分注意してください。

〈作業速度選定の目安〉

速度段	主変速レバー	走行クラッチレバー	作業
F1	1	低	長ワラ・牧草で特にウインドローが30cm位の場合、畦畔越え
F2		高	標準作業長ワラ・切ワラの垂れ流しの場合およびウインドローで高さ20cm位の低い場合
F3	2	低	長ワラ・切ワラの垂れ流しで層が薄い場合
F4		高	移動のみ
R1	R	低	後進
R2		高	

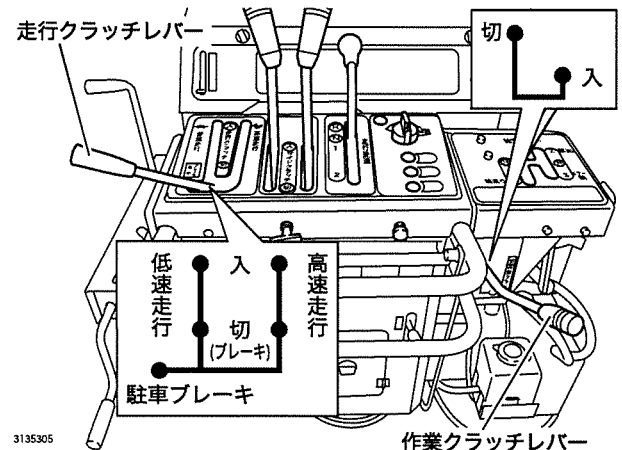
2. ドアが確実に閉まっているか確認してください。このとき、ベール圧センサのアームが下の位置にあることも確認してください。



【重要】

- ドアが確実に閉まっていないと（半ドア）、ベールが不完全になり、ひも巻きもできなくなります。よって再梱包が必要になりますので注意してください。
- ベール圧センサのアームが最初から上位置にあると、ブザーが鳴り、お知らせランプが点滅します。
- ドアの開閉は、結束レバーで行ってください。また、結束レバーでドアが確実に閉まらないときは、一度ドアを開けた後、再度閉めてください。このとき、エンジン回転は必ず高速回転で行ってください。

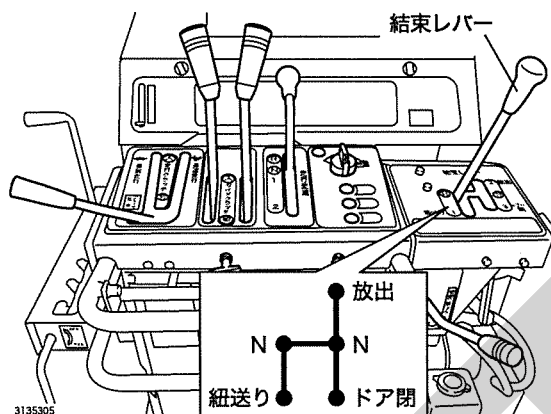
3. エンジン回転は、アクセルレバーを「高」位置にして、作業クラッチレバー・走行クラッチレバーを「入」位置にして、作業を始めてください。
※作業の要領は、44ページを参照してください。



4. 10m前後（条件によって異なる）走ると、梱包作業が終了し、ブザーが鳴り、お知らせランプが点滅します。ただちに走行クラッチレバーを「切」位置にして停止してください。

【重要】

- ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、梱包した作物が出にくくなったり（詰まり）、機械の損傷にもなりますので注意してください。
5. 結束レバーを「紐送り」位置に切り替えて、1～2秒保持した後、レバーを離してください。結束レバーは「N」位置に戻ります。



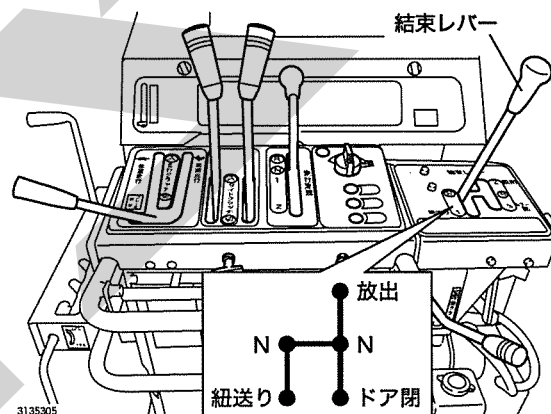
【重要】

- ひもが送られているか、ひもの流れを確認してください。（40ページ参照）
- 結束レバーを「紐送り」位置にしても、ひもが送られていない場合は、再度結束レバーを「紐送り」位置にして、1～2秒保持した後、結束レバーを離してください。
- 雨・湿気などを帯びたジュートひもは、結束ミスの原因になることがありますので、乾燥したひもを使用してください

6. ひも巻き作業が終了すると、ふたたびブザーが鳴り、お知らせランプが点滅しますので、ブザーが鳴ったら、結束レバーを「放出」位置にして、ペールを放出してください。（ペールの放出には、3～4秒ほどかかります。結束レバーは、リリース音がするまで「放出」位置で保持してください。）

【重要】

- エンジン回転は、必ず高速のままで行ってください。
7. ペールの放出ができれば、結束レバーを軽く「ドア閉」位置にしてください。（3～4秒でドアが閉じます。）



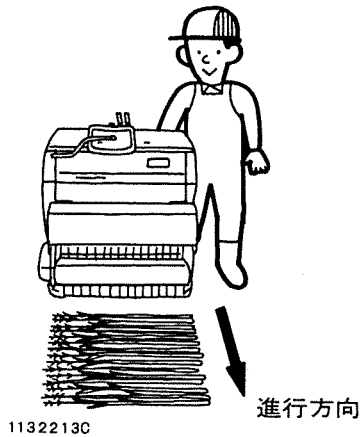
▲ 注意

- ペール放出時やドアを閉じる場合は、周囲に人がいないことを確認して行ってください。周囲に人や障害物があるとぶつかって、ケガや破損するおそれがあります。

作業の要領

〈長ワラを梱包する場合〉

1. 長ワラの中央部が進行方向と直角になる方向(ワラの横方向)で作業してください。



1132213C

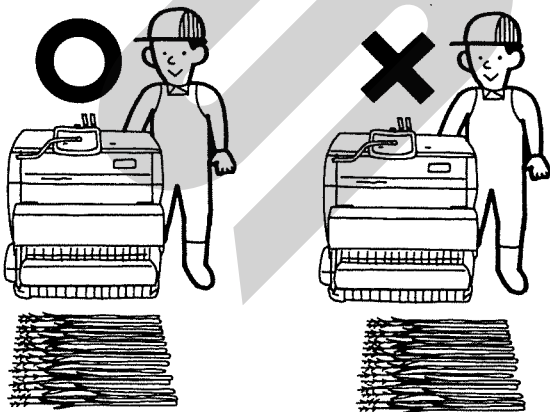
【重要】

- 長ワラをタテに供給すると、詰まりの原因になりますので注意してください。

2. 稈元側が取り込み作業幅の範囲内に入るように作業してください。特に稈長 100 cm 以上のものは注意してください。

【参考】

- オペレータは、操作レバーが集中している左側に立ち、作物を見ながら行くと作業が楽にできます。
- 取り込み状態は、作業ミラーで確認してください。



1132213C

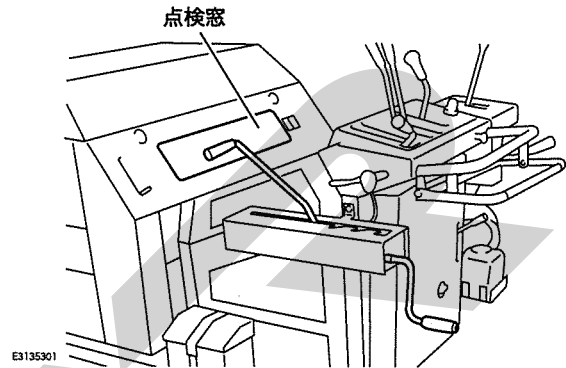
1132213C

【重要】

- 稈元側が取り込み作業幅より外に出た状態で作業しますと、詰まりの原因になります。

3. 3~4m 走行したら、点検窓より作物が回転しているか確認してください。回っていない場合は、異常がないか点検してください。

※ 2条刈りコンバインでの長ワラ垂れ流し作業の場合は、刈取り作業の逆方向にバール作業を行ってください。



E3135301

〈切ワラ・牧草などのウインドローを梱包する場合〉
作物が機体の中心にくる位置で作業してください。



1132213C3

結束ひもの交換のしかた

▲ 注意

- ひもを交換するときは、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから行ってください。ケガをするおそれがあります。

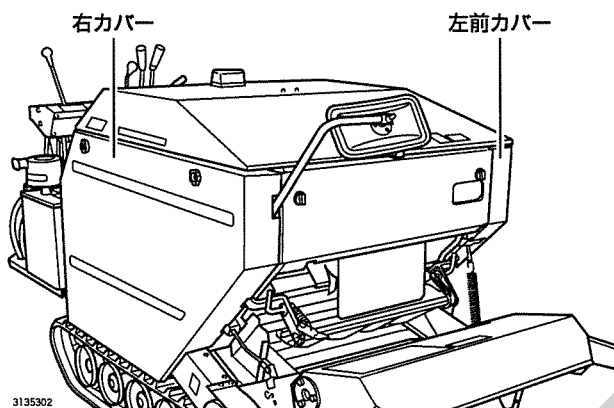
バール数45個前後(10a程度)の作業を行うと、ひもがなくなりますので早目に交換してください。

※ ひもが途中でなくなりますと、通常の作業時間より早い時点でブザーが鳴り、お知らせランプが点滅しますので、そのときはひもを新しく取り替え、もう一度ひも巻き作業を行ってください。

5. 搬送案内板の取り外しかた

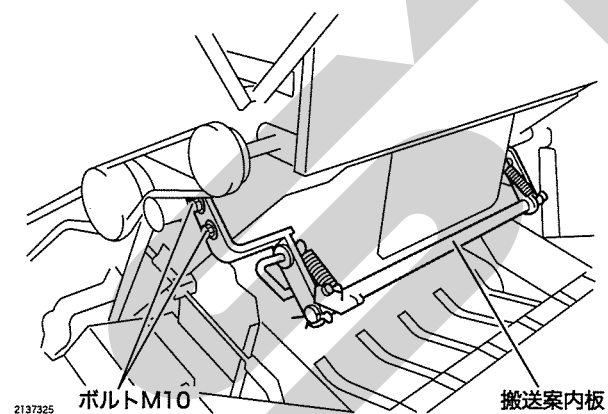
切ワラを梱包作業中にひもを送っても、ひもがトグロを巻いて結束ができないときは、以下の要領で搬送案内板を取り外して、梱包作業をしてください。

1. 右カバー（ノブボルト：2本）と左前カバー（ボルトM8：2本）を取り外してください。

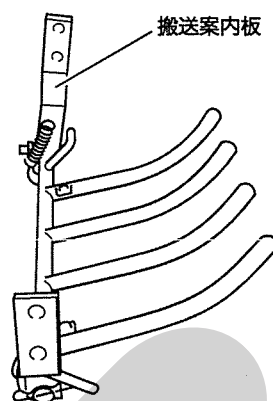
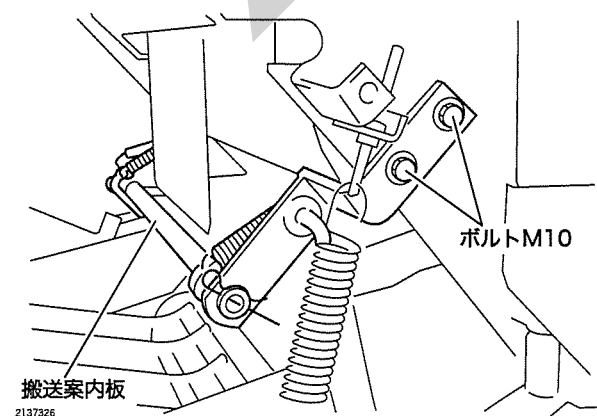


2. 搬送案内板を取り付けている、左右のボルトM10（各2本）を外して、搬送案内板を機体前方に取り外してください。

右側



左側



【重要】

- 切ワラ以外の作業をするときは、必ず搬送案内板を取り付けてください。

8章 作業後の手入れについて

警告

- 掃除する場合は、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから行ってください。回転部に巻き込まれるなど、ケガをするおそれがあります。
- エンジンが過熱している間はシートをかけないでください。火災の原因になります。

1. 作業後の手入れ

その日の内に、各部に付着した泥などの汚れを、きれいに水洗いし、水洗い後は水分をしっかりとふき取ってください。また、チェン・ワイヤー類は、注油箇所に十分注油しておきます。

【重要】

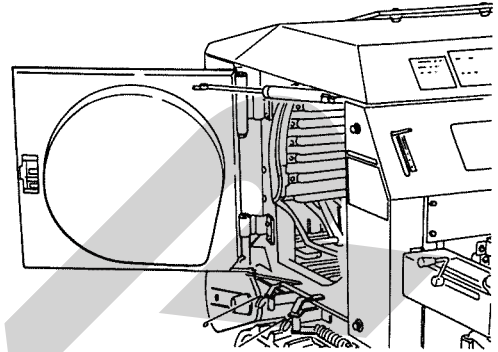
- 水洗いをするときは、エンジン部や電装品にはできるだけ水をかけないでください。故障の原因になります。

水洗いの後、水分を
ふき取って注油も忘れずにネ!



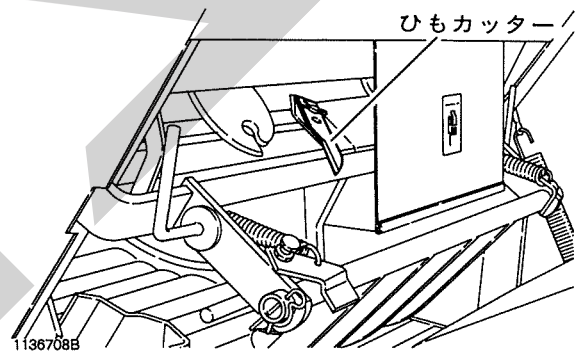
ハール室内およびピックアップドラム内の掃除のしかた

1. 搬送コンベアチェン内に引っかかっているワラなどの詰まりを掃除します。



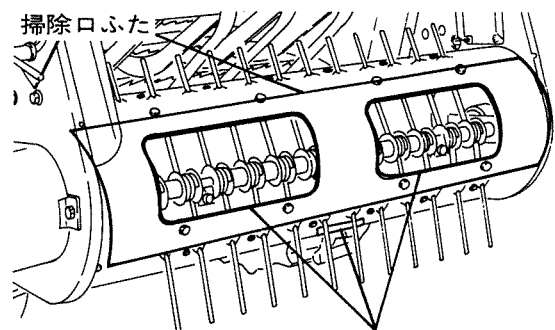
11367148

2. ひもカッターはサビないように、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗っておいてください。



1136708B

3. 特に多湿なほ場での作業後は、ピックアップドラムの掃除口ふた（2か所）を取り外して、内部の土・ワラの堆積を取り除いてください。



2137320

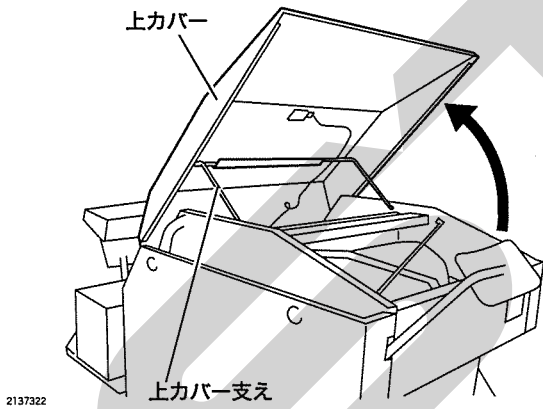
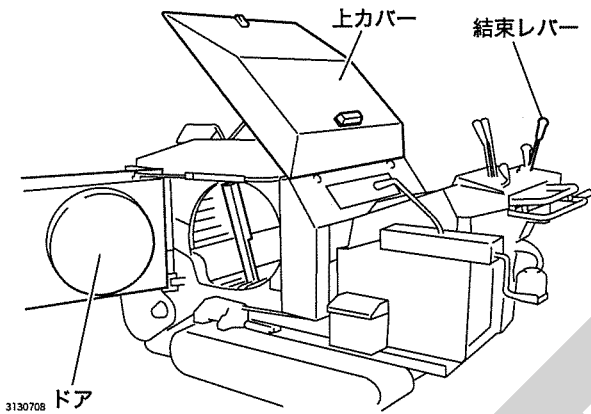
【重要】

- 掃除後はボルトを確実に締め付けてください。
- 乾田では、通常1ha前後で掃除を行ってください。

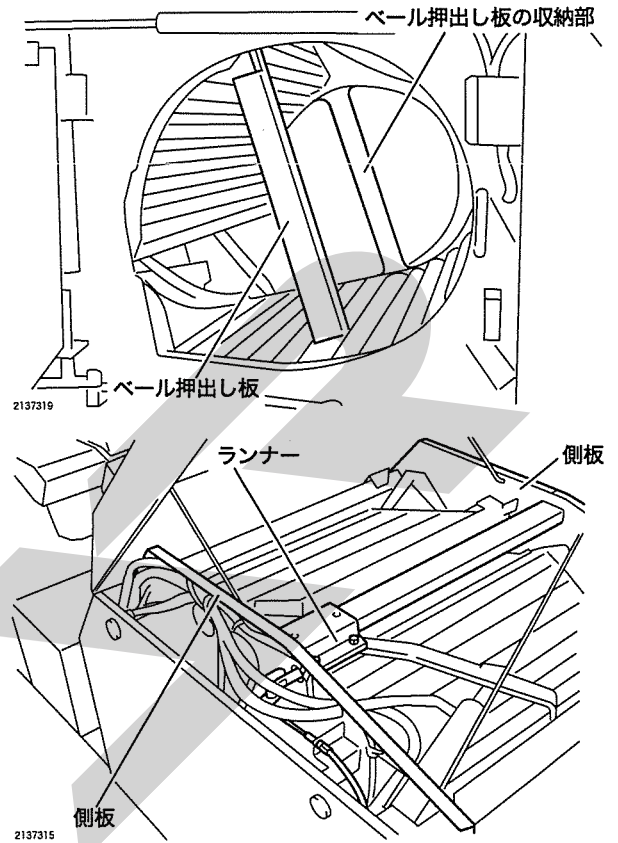
ペール押し板の収納部・ランナーと側板の間の掃除のしかた

ペール押し板の収納部や、ランナーと側板の間に作物や土砂などが溜まっている場合は、下記の要領で掃除してください。

1. 結束レバーを「放出」位置にして、ドアを開いてください。
2. エンジンを停止して、上カバーを開いて、上カバーを固定してください。



3. 下記の指示部分に溜まっている作物や土砂を取り除いてください。



2. 長期間使用しない場合の手入れ

格納のしかた

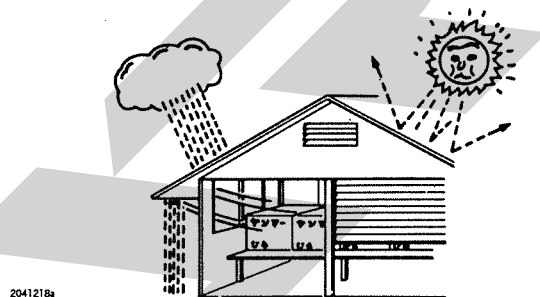
1. 外部のサビやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
2. バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保存するときは、必ず側を外してください。
3. 冷却水はドレンボルトを外し、冷却水をすべて抜き取ってください。
4. 燃料コックのレバーを「閉」位置してください。

3. ひもの保管のしかた

ひもの形がくずれてホグレが悪くなったり、ぬれてひもが弱くなると、結束ミスの原因になります。保管のときは、湿気のない風通しのよい所へ置いてください。

(1) ひもの保管場所について

ひもを保管するときは、湿気のない風通しのよい所へ置いてください。



ひもの取り扱いかた

ひもの形がくずれてホグレが悪くなったり、ぬれてひもが弱くなると、結束ミスの原因になりますので、丁寧に取扱ってください。

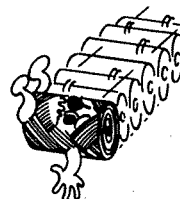
●投げないこと



●落とさないこと



●転がさないこと



●ぬらさないこと



▲ 警告

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にし、各レバーを「切」位置にして、回転部が止まってから行ってください。ケガをするおそれがあります。
- 取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻き込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。ケガをするおそれがあります。
- 室内で点検する場合は、充分換気してください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- エンジンのマフラーなど高温部にはさわらないでください。ヤケドをするおそれがあります。

【重要】

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

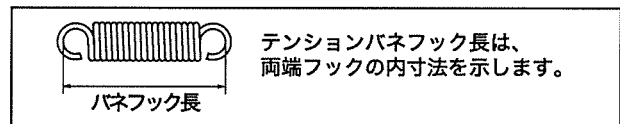
1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に、燃料パイプなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

2. 定期点検一覧表

◇:点検 ●:交換 □:調整(掃除) △:給油脂



実施項目	使用時間						参照 ページ
	毎日	20 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	300 時間ごと	
電気配線の点検	◇						—
吸気口の掃除	◇						56
部品脱落・破損箇所はないか	◇						—
各部のボルト・ナットのゆるみ点検・増締め	◇						—
燃料や各部油もれ点検	◇						—
エンジンの調子	◇						—
エンジンオイルの点検・補給・交換	◇	● (第1回目)		● (2回目以降)			51
エンジンオイルフィルタの洗浄・交換		□ (第1回目)		□ (2回目以降)	●		51
エアクリーナーエレメントの掃除・交換	□					●	57
燃料フィルタの点検・洗浄・交換				□		●	57
冷却ファン吸気口の掃除	□						56
油圧パッケージの油量	◇						52
バッテリー液量	◇						70
ヒューズの交換							70
ミッションオイルの点検・補給・交換			● (第1回目)	● (2回目以降)			52
各部の給油脂	△						53~55
サイドクラッチレバーの調節		◇ (第1回目)	◇				60
走行クラッチレバーの調節		◇ (第1回目)	◇				60
作業クラッチレバーの調節		◇ (第1回目)	◇				61
各ベルトの調節		◇ (第1回目)	◇				62
ピックアップドラム駆動チェーンの調節		◇ (第1回目)	◇				63
カウンタチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				63
結束ランナーチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				64
上部パイプコンベアチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				64
下部パイプコンベアチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				64
搬送押さえの調節			□				65
ひもカッターの研磨				□			65
クローラの張りの調節		◇ (第1回目)	◇				66
集中注油タンクの油量の補給	◇						55
ピックアップフィンガの変形	□						67
ピックアップフィンガの交換							67
ピックアップ高さの調節							63
シャーピンの交換							68

3. オイルの点検・補給・交換のしかた

エンジンオイルの交換のしかた

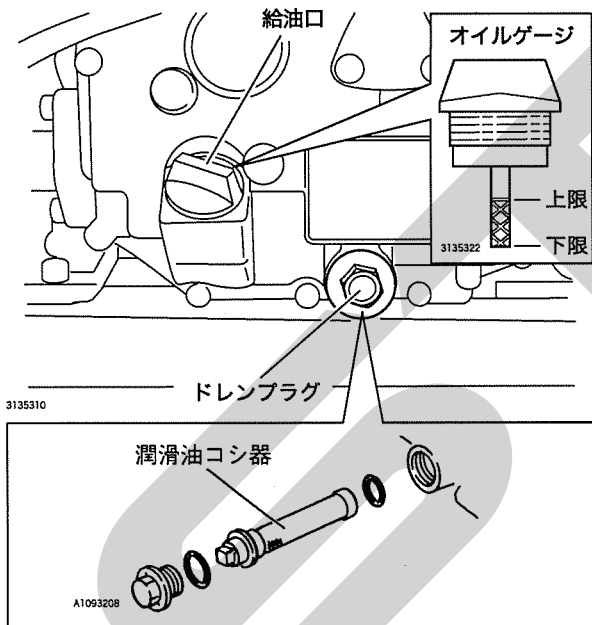
▲ 注意

- エンジンが高温のときは交換しないでください。
ヤケドするおそれがあります。

〈交換のしかた〉

1. エンジンカバー左を取り外してください。
2. エンジンクランク室の給油口（オイルゲージ）を外してから、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。

※ エンジンが温かいうちに行うと、容易に抜くことができます。



3. ドレンプラグ（排油口）内部にある潤滑油コシ器を取り外し、洗油で洗ってください。
4. 給油は、エンジンオイルを給油口から入れます。

5. 検油は、オイルゲージを抜いて、油をふきとり、もう一度オイルゲージを差し込んでから抜き出し、オイルゲージの上限と下限の間に油がついていれば規定量とみなしてください。
(オイルゲージはねじ込まないでください。)

オイル	交換時期	規定量
スーパーオイルテラックス 10W-30(CC級) スーパーロイヤルオイル 10W-30(CD級) 15W-40(CD級)	第1回目は 20時間目 2回目以降は 100時間ごと	1.8L

【重要】

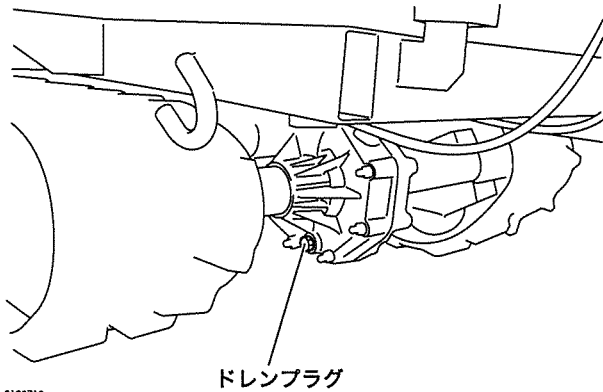
- 給油・検油は、本機が傾斜状態であると過不足が生じますので、必ず水平状態で行ってください。
- オイルの補給や交換時は入れすぎないように注意してください。
- 補給時などこぼれたオイルはきれいに拭きとってください。
- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

走行ミッションオイルの交換のしかた

1. ミッションケース下部にあるドレンプラグを外し、汚れたオイルを抜きます。

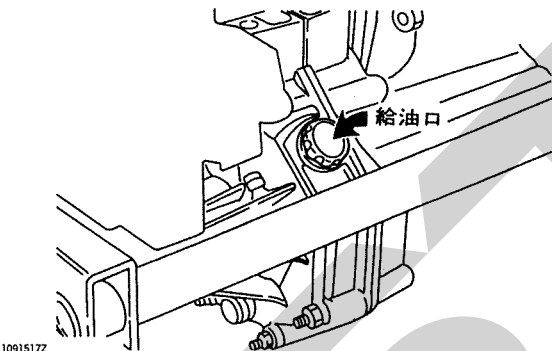
【参考】

- ミッションが温かいうちに抜くと、容易に抜くことができます。



3130710

2. 給油は規定量入れます。



1091517Z

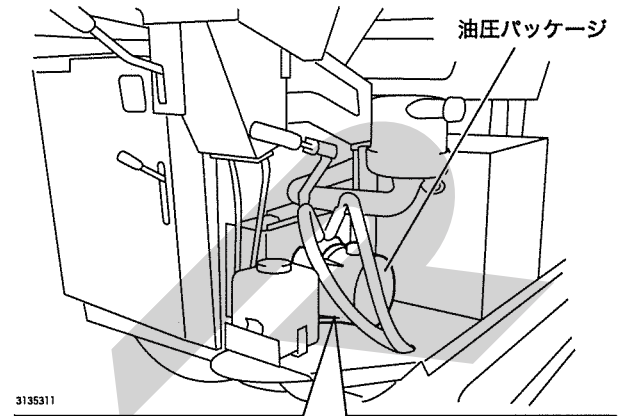
推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番 (GL-3級)	第1回目は50時間目。 2回目以後は、100時間ごと または1シーズンごと。	1.5L

【重要】

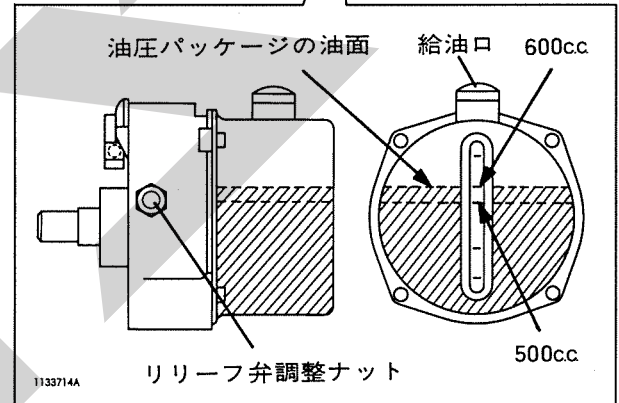
- 給油・検油は、本機が傾斜状態であると過不足が生じますので、必ず水平状態で行ってください。
- オイルの補給や交換時は入れすぎないように注意してください。
- 補給時などこぼれたオイルはきれいに拭きとってください。
- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

油圧パッケージについて

油圧パッケージは、シリンダを作動させるためのオイルです。給油時は、清浄なオイルにゴミを混入させないように、給油口より規定量入れてください。



3135311



1133714A

推奨オイル	規定量
スーパーハイドロオイル#56 または 耐摩耗性油圧作動油VG56相当品	0.6L

【重要】

- 油量点検はドア「閉」状態で行ってください。
- リリーフ弁調整ナットは、出荷時80kg/cm²に調整されていますので、絶対に回さないでください。リリーフ弁調整ナットを回すと、ボールが出なくなるなどの故障の原因となります。

4. 各部注油のしかた

⚠ 注意

- 回転部などへ注油をするときは、必ずエンジンを停止し、各部が完全に停止してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

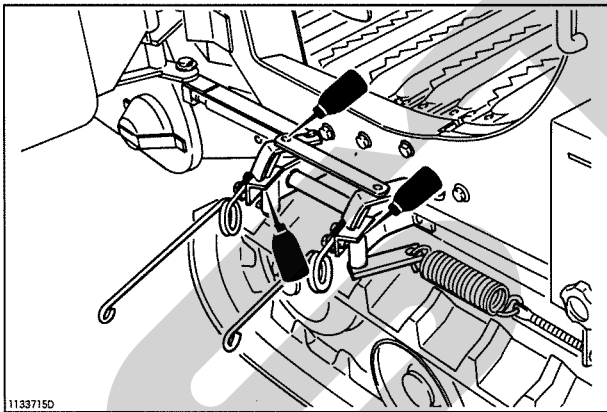
【重要】

- 牧草の場合は、食品用の潤滑油を使用してください。
ユウキオイル
(コードNoOIL-30351000)
- 燃料・オイルの補給や交換時は、入れすぎないように注意してください。

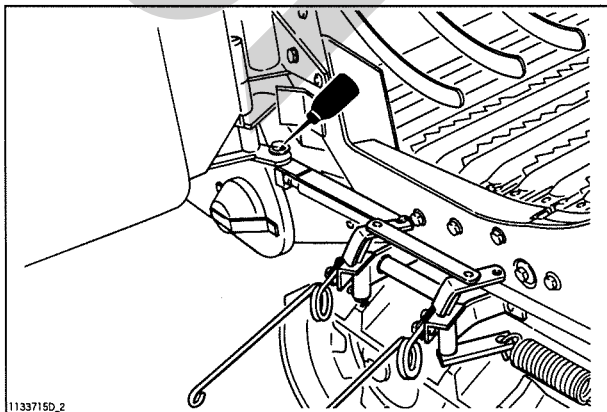
〈凡例〉

注油:  給脂: 

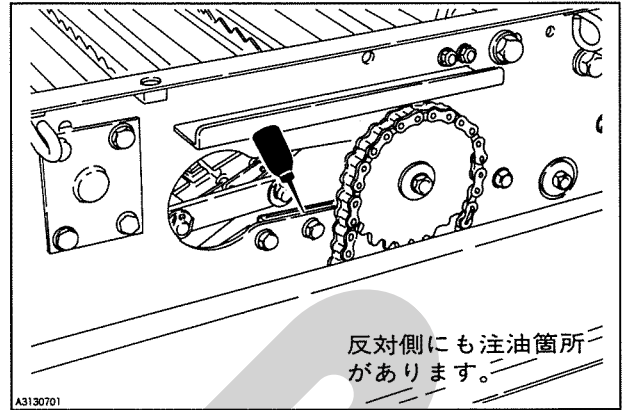
ボールキックの支点



ドア開閉リンクの支点

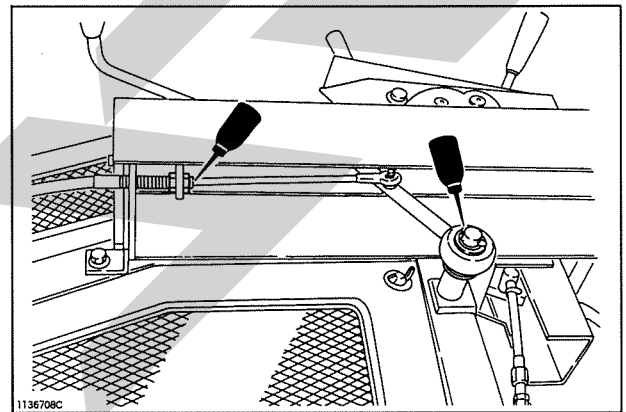


下部パイプコンベア回転部



反対側にも注油箇所があります。

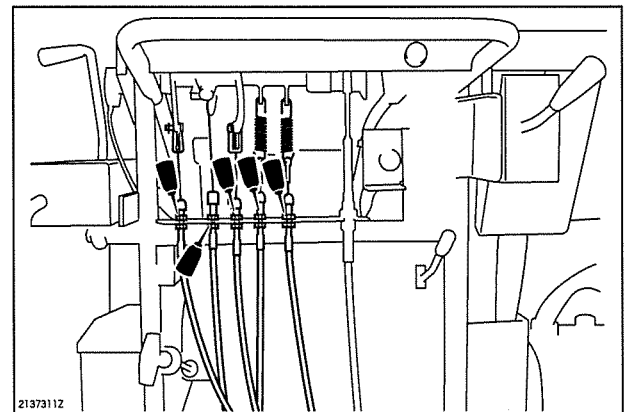
ピックアップハンドル



走行クラッチレバー支点

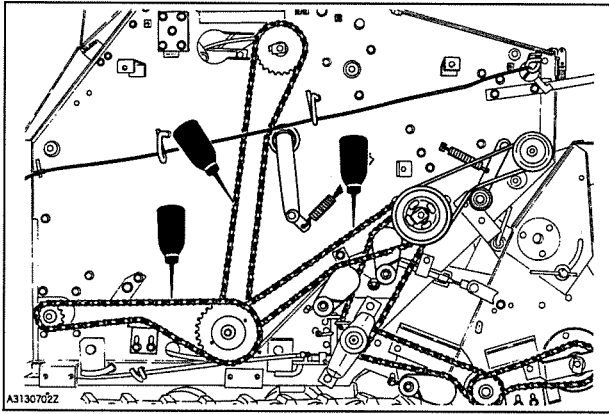
サイドクラッチレバー支点

各ワイヤー摺動部

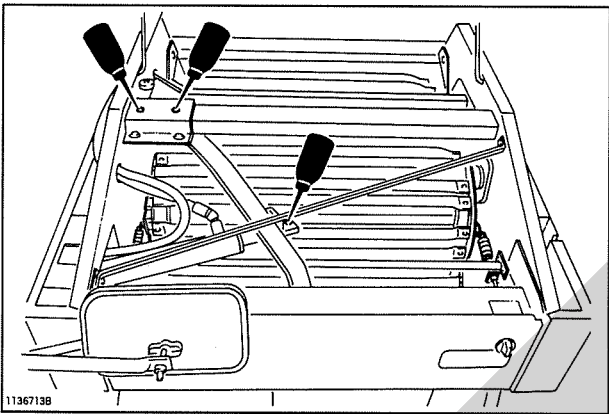


※図は、狭圧防止装置を外しています。

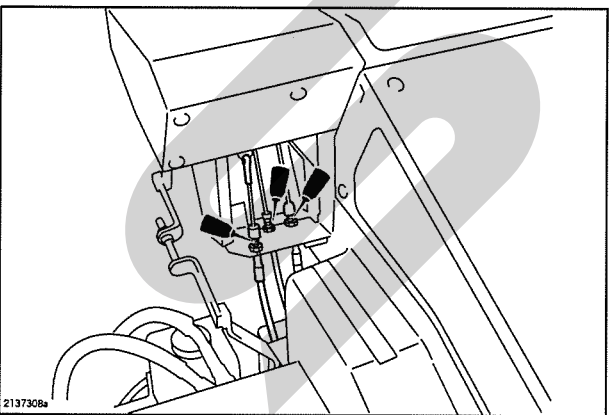
ベアラ駆動チェン



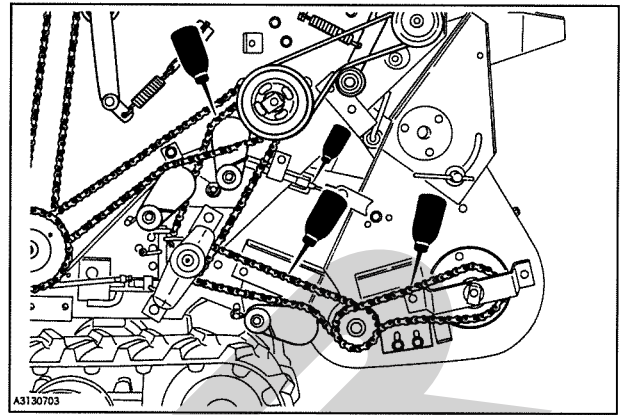
ペール取出部



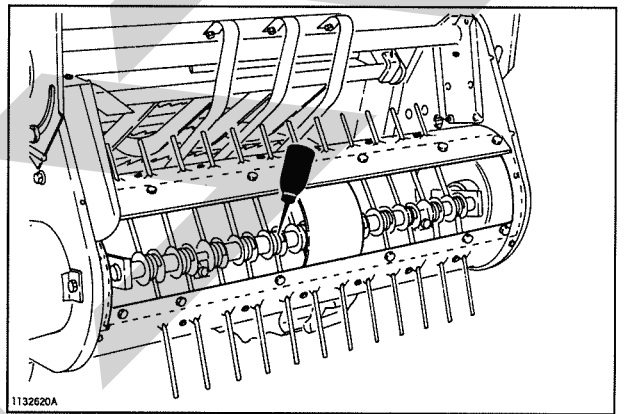
作業クラッチワイヤー
安全カバーワイヤー
ひも送りワイヤー



ピックアップワイヤー
ピックアップチェンなど

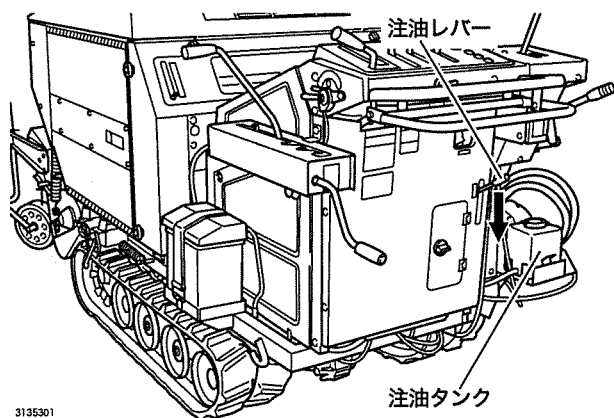


フィンガ軸部



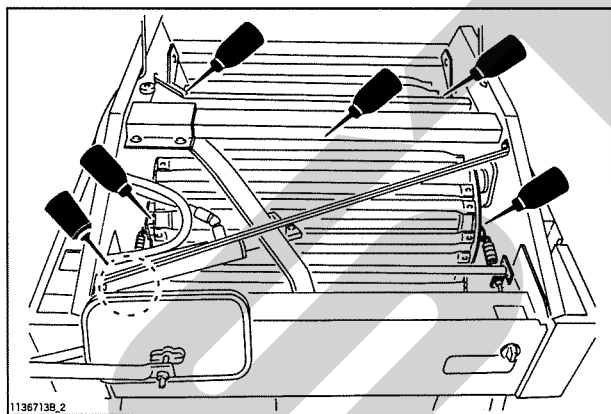
集中注油装置

注油レバーを押し下げると、上部パイプコンベアチェン・下部パイプコンベアチェン・ベール取出しレール・結束チェンに注油されます。レバーは、作業前に3～5回程度操作してください。また、作業中にも適宜注油してください。



3135301

上部パイプコンベアチェン
下部パイプコンベアチェン
ベール取出しレール



1136713B_2

【重要】

- オイルは、新しいエンジンオイル30番、または食品用の潤滑油を使用してください。ミッションオイルや廃油などを使用しますと、確実な注油ができなかったり、注油ノズルが詰まったりすることがあります。
- 作業中にも集中注油装置で適宜注油してください。作業中に油が切れると、故障やチェンやレールの耐久性が低下し、摩耗が早くなります。

5. 燃料の点検・給油のしかた

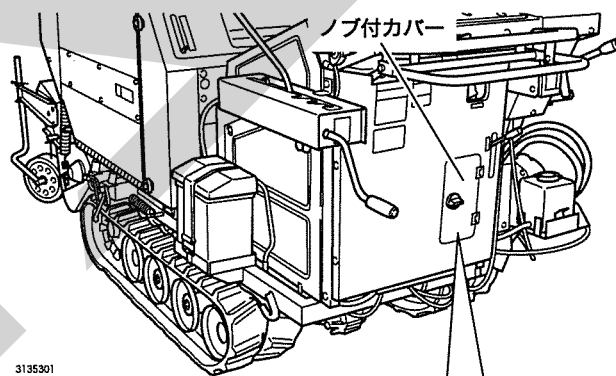
⚠ 危険

- 給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。
- 給油中はエンジンを停止してください。

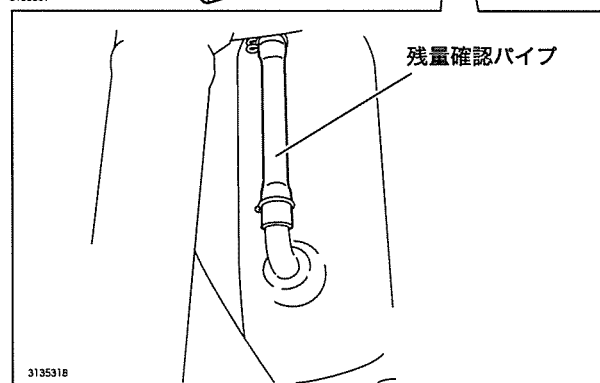
⚠ 警告

- 燃料補給時はくわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭きとってください。

1. エンジン後カバーにある、ノブ付カバーを開いて、燃料タンクの残量を調べてください。



3135301



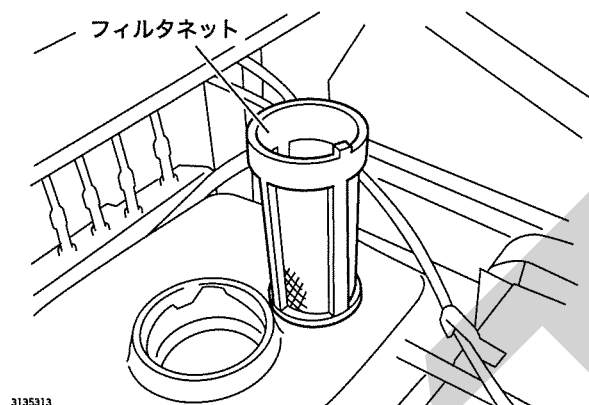
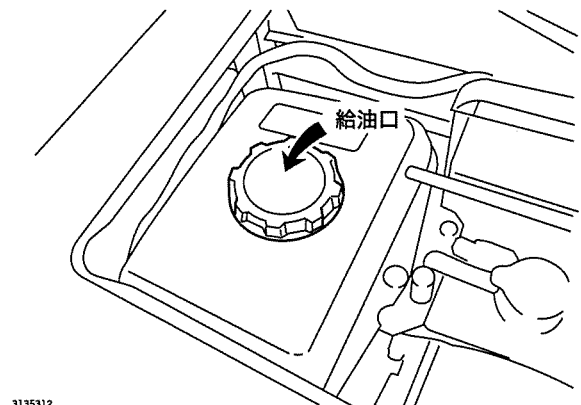
313531B

2. 不足している場合は、燃料キャップを外して、補給してください。

【重要】

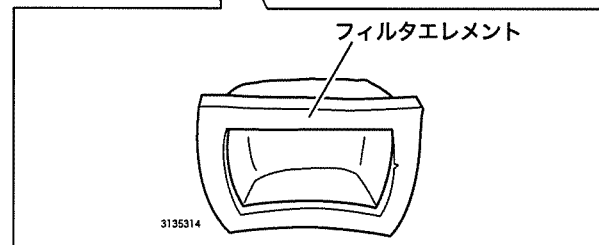
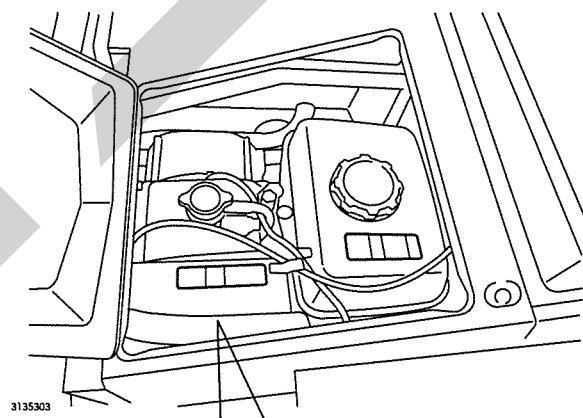
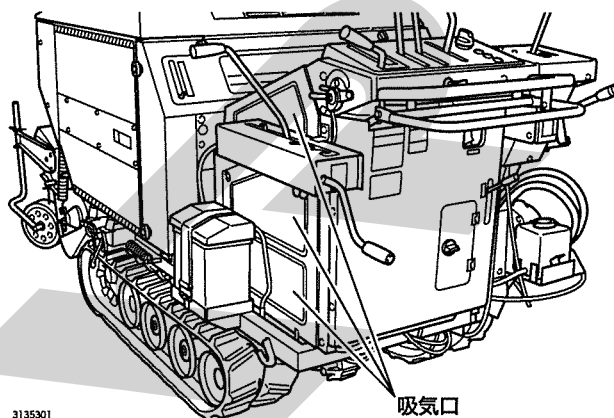
- 給油するときは、ゴミが入らないように注意してください。また、フィルタネットを外さないでください。

3. フィルタネットに、ゴミが詰まっていないか点検してください。ゴミがあれば取り除いてください。
4. 補給後、燃料キャップを確実に締めてください。



6. 吸気口の掃除のしかた

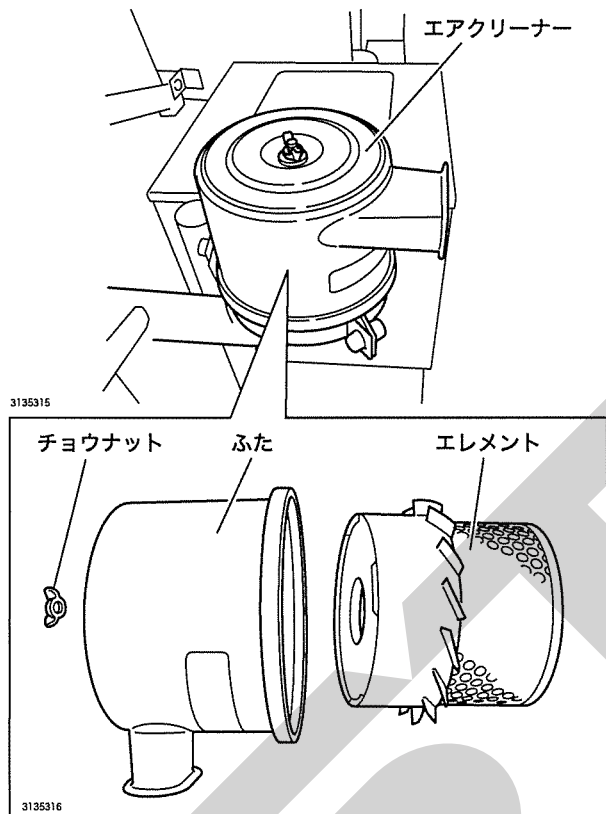
吸気口にゴミやワラクズなどが堆積・付着しますと、冷却風の通りが悪くなり、エンジンの焼付をおこすことがあります。ゴミ・ワラクズの堆積・付着にはいつも注意し、1日2~3回掃除してください。また、内部のフィルタエレメントもゴミが付着しますので、掃除してください。



7. エアクリーナーの掃除のしかた

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩擦を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。

1. エアクリーナーのチョウナットをゆるめてふたを外し、内部のエレメントを取り出します。



2. エレメントに圧縮空気を内部から吹きつけ、ゴミ・ホコリを取り除きます。

交換時期	300時間ごと
------	---------

【重要】

- 汚れたまま使用していると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

8. 燃料コシ器の洗浄・交換のしかた

燃料コシ器は、燃料中のゴミによる目詰まりで燃料が流れなくなります。

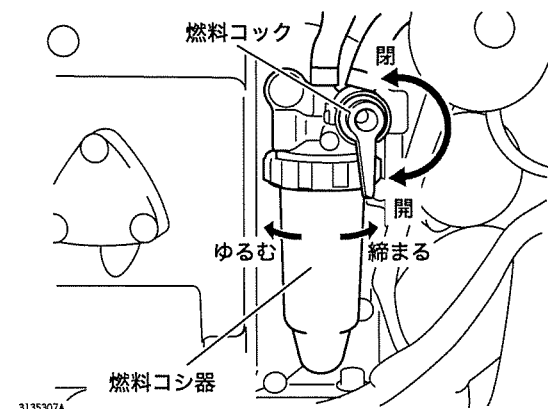
100時間ごとにエレメント（フィルタ）の洗浄を行ってください。

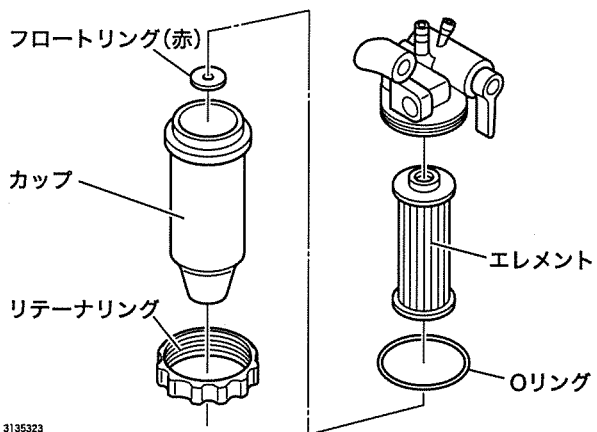
透明なカップの中のフロートリング（赤い浮き輪）が浮き上がっていたら、その都度分解して、内部の洗浄をしてください。

エレメントはろ紙式です。目詰まりが少ない間は洗浄できますが、定期的に新品と交換してください。

〈洗浄・交換のしかた〉

1. 燃料コックを「閉」位置にしてください。
2. リテーナリングをゆるめ（左回し）、カップを外してください。
3. エレメントを下に抜き出してください。
4. 洗浄缶を準備して、エレメントの表面およびカップの内面を、きれいな燃料で洗い流してください。エレメントの汚れが著しいときや破損があれば、新品と交換してください。
5. エレメントを元通りに取り付け、カップをかぶせてリテーナリングを締めて（右回し）、元通りに組み立ててください。
6. 燃料コックを「開」位置にしてください。
7. 燃料コシ器の分解により、燃料系統に空気（エア）が入っていますので、「燃料の空気（エア）抜き」のしかた（58 ページ）を参照して、空気（エア）抜きを行ってください。





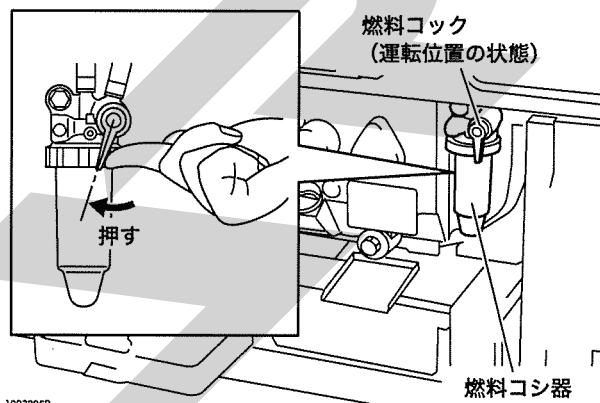
3135323

エレメントの交換時期	300時間ごと
------------	---------

9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。以下の要領で空気抜きをしてください。

1. 燃料を満タンにしてください。
2. 燃料コシ器の燃料コックを、矢印方向に約15秒間保持してください。自動的に燃料コシ器内の空気抜きが行われます。



10632066

3. 指を離すと、燃料コックは元の位置に戻ります。

10. 冷却水の点検・交換のしかた

⚠ 危険

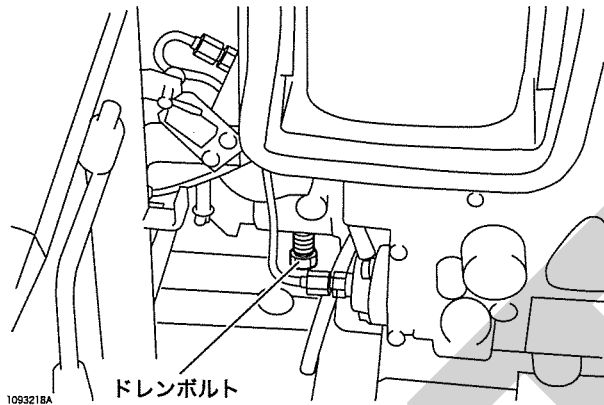
- 高温時にはキャップを開けないでください。熱湯が吹きだしやけどをするおそれがあります。

〈点検のしかた〉

ラジエーター内の残量を調べ、不足している場合は給水口の口元まで入れてください。

〈交換のしかた〉

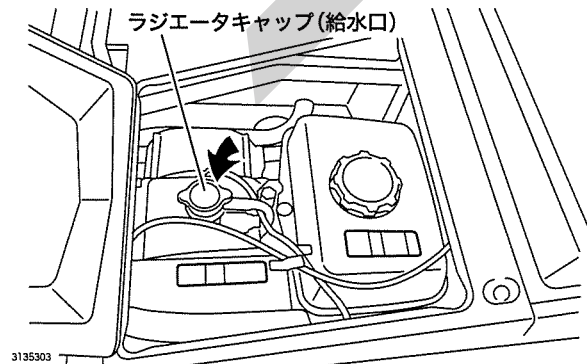
1. ドレンボルトを外し、冷却水をすべて抜きます。



2. 水道水でゴミや錆が出なくなるまでラジエーター内部を洗います。

※ ラジエーター洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエーター内はあっというまにきれいになります。

3. ドレンボルトを取り付け、給水口から水道水をあふれるまで入れます。
4. 不凍液を別の容器に必要量を入れて、水道水と良く混合させて給水してください。



推奨不凍液	交換時間	規定量
スーパーフリーズ	1年ごと	1.25L

〈不凍液〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時には、不凍液が入っておりますが、冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。不凍液の混合比は、外気温や不凍液のメーカーによって多少異なりますのでメーカーの取扱書等の指示に従ってください。

内容	凍結温度							
	-5	-10	-15	-20	-25	-30	-35	-40
スーパーフリーズ (%)	15	25	30	35	40	45	50	55
水道水 (%)	85	75	70	65	60	55	50	45

【重要】

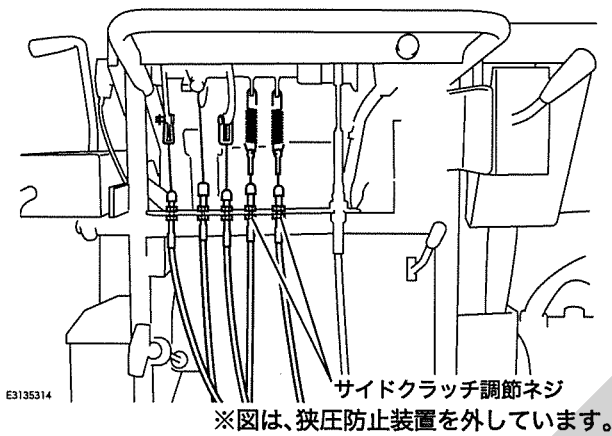
- 新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、水道水だけを入れてください。
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

11. サイドクラッチレバーの調節のしかた

サイドクラッチレバーを操作したとき、左右とも確実に切れるように調節します。

〈調節のしかた〉

サイドクラッチ調節ネジで遊び量を10～30mmに調節してください。



遊び量10～30mm

サイドクラッチレバー

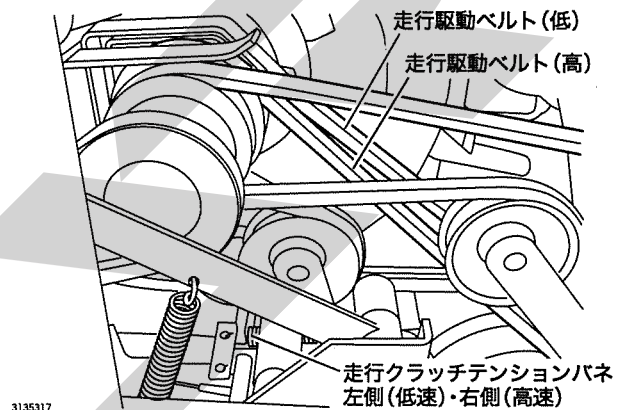
1091003C

12. 各部ベルトの点検・調節・交換のしかた

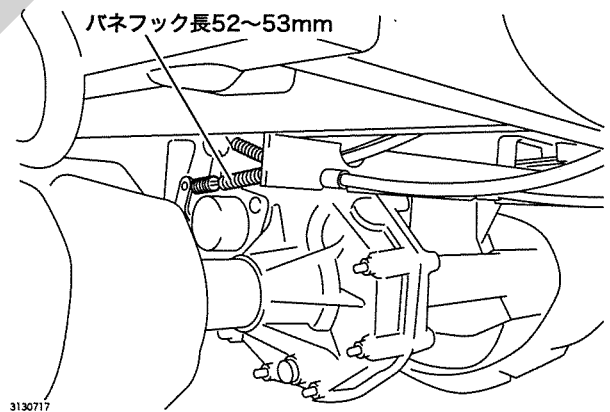
走行クラッチレバー (走行駆動ベルト・駐車ブレーキ)

〈点検のしかた〉

走行クラッチレバーが「入」(低速走行)、および「入」(高速走行)位置のとき、テンションバネのバネフック長を測り、84～86mmになっているか確認してください。



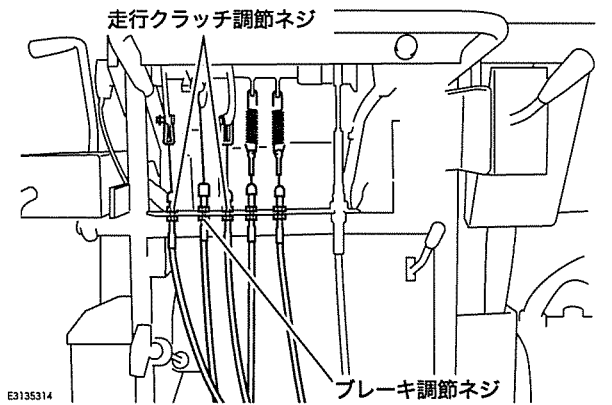
また、「駐車ブレーキ」位置で、テンションバネのバネフック長を測り、52～53mmになっているか確認してください。



バネフック長52～53mm

〈調節のしかた〉

各々のワイヤー調節ネジで調節します。



※図は、狭圧防止装置を外しています。

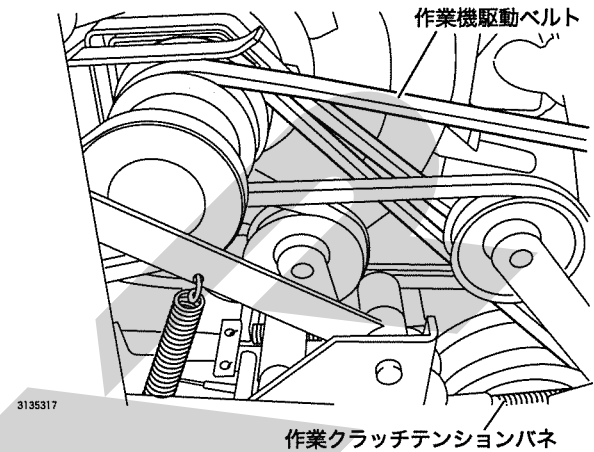
ミッション駆動ベルト

使用ベルト	特B45H(25123-004501)
-------	---------------------

作業クラッチレバー(作業機駆動ベルト)

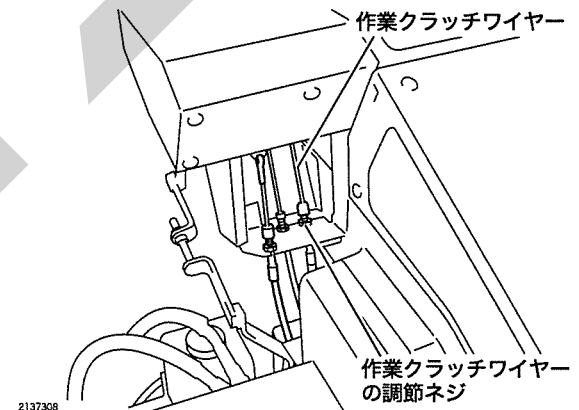
〈点検のしかた〉

作業クラッチレバーが「入」位置のとき、テンションバネのバネフック長を測り、87.2～89.2mmになっているか確認してください。



〈調節のしかた〉

作業クラッチワイヤーの調節ネジで調節します。



使用ベルト	特B47H(25123-004701)
-------	---------------------

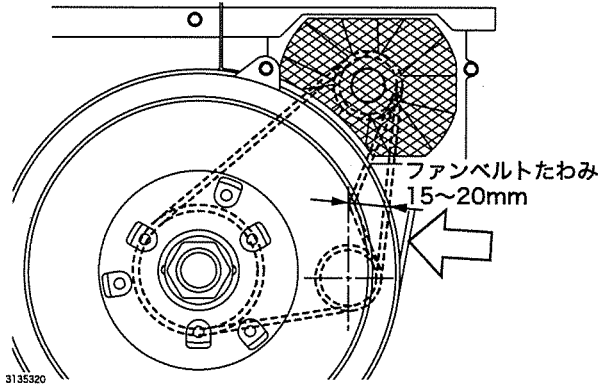
【重要】

- 作業機駆動ベルトの調節は、作業機駆動ベルトけん制ワイヤーの調節(66ページ参照)を行った後に行ってください。

ファンベルト

〈点検のしかた〉

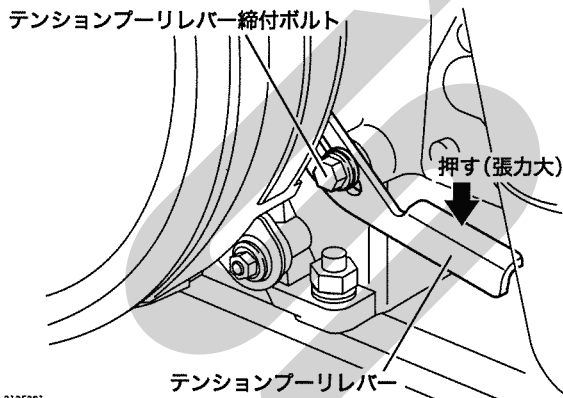
ベルトの中央を指で押した（49N（約5kgf））とき、たわみ量が15～20mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

1. テンションプーリレバーの締付ボルトをゆるめてください。
2. テンションプーリレバーを上下に移動して、ベルトの張りを調節してください。
3. 締付ボルトを締め付けて、テンションプーリレバーを固定してください。

テンションプーリレバー締付ボルト



3135321

【重要】

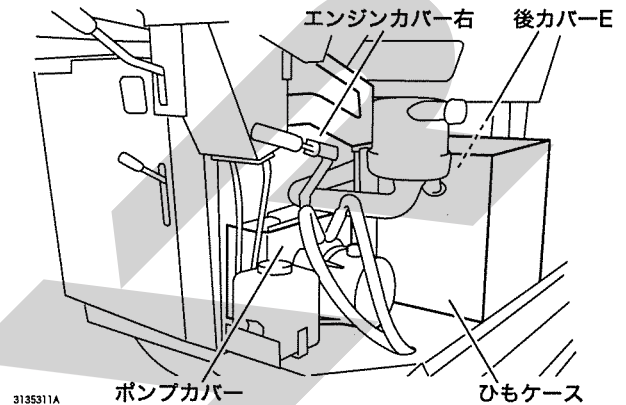
- ベルトには、油類が付かないようにしてください。ベルトが滑ったり、伸びやすくなります。
- ベルトの張りが弱くなると、ベルトが滑ってラジエータファンが回らなくなり、エンジンが過熱します。また電気始動では、ファン内部に組み込まれたダイナモが発電できなくなります。反対に強すぎるとベルトの傷みを早めたり、軸受けを破損したりします。

各ベルトの交換

油圧シリンダベルト、ミッション駆動ベルト、カウンタベルト、作業機駆動ベルトが損傷した場合は、次の手順で交換してください。

〈交換のしかた〉

1. ひもケース・エンジンカバー右・ポンプカバー・後カバーEを取り外します。

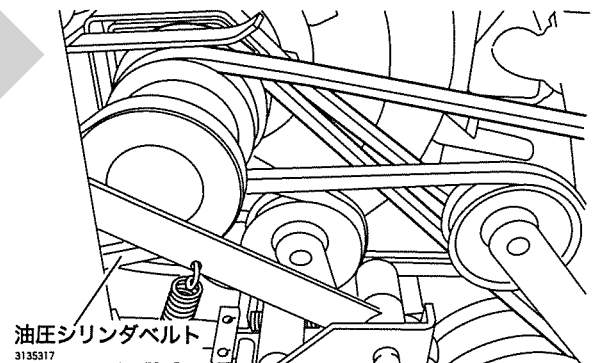


3135311A

2. 各ベルトを以下の要領で取り外し、交換してください。

● 油圧シリンダベルトの場合

- 1) そのまま取り外してください。



3135317

● 作業機駆動ベルトの場合

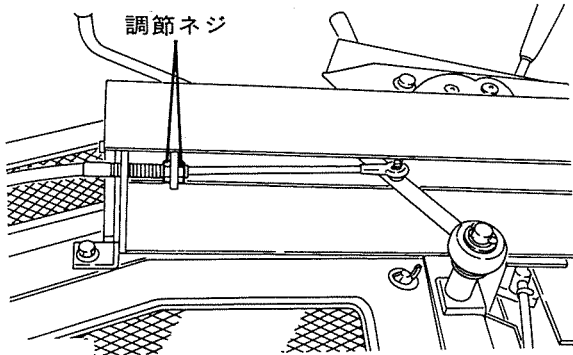
- 1) 油圧シリンダベルトを取り外してください。
- 2) 作業機駆動ベルト押えとエンジンベルト押えを外して、作業機駆動ベルトを取り外してください。

● 走行駆動ベルトの場合

- 1) 油圧シリンダベルトとカウンタベルト、および作業機駆動ベルトを取り外してください。
- 2) ボルトM8×25（4本）を外して、カウンタプーリを取り外してください。
- 3) ミッションベルト押えを外して、ミッション駆動ベルト取り外してください。

13. ピックアップ高さの調節のしかた

ワイヤーの伸びなどによって、上下目盛りと指針にズレが生じたときに調節ネジで調節します。



113670BC_2

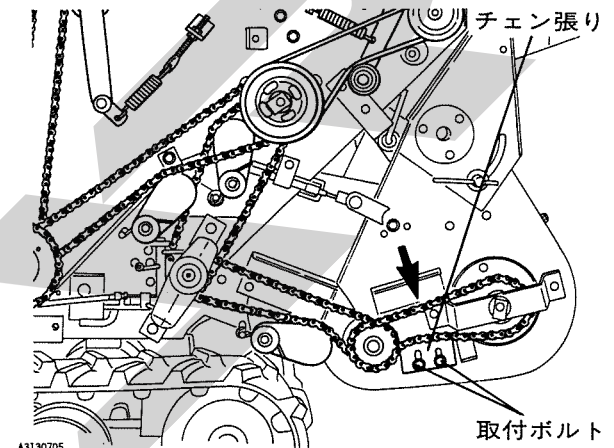
14. 各部チェーンの調節のしかた

ピックアップドラム駆動チェーン

ピックアップカバーを取り外し、チェーン中央部を指で軽く押えたときのたわみ量を4~8mmにします。

〈調節のしかた〉

チェーン張りの取付ボルトをゆるめて、チェーンを押し方向に上げて締めます。



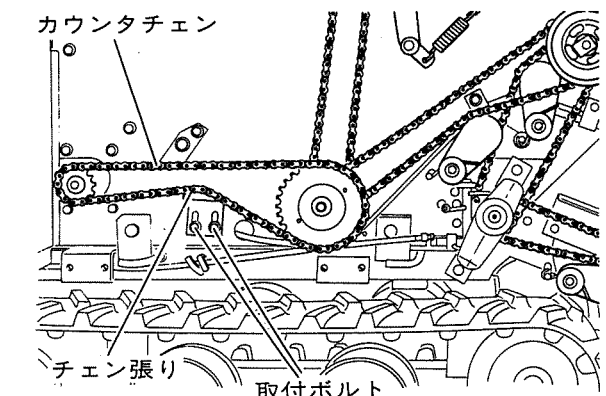
A3130705

カウンタチェーン

右カバーを取り外し、チェーン中央部を指で軽く押えたときのたわみ量を4~8mmにします。

〈調節のしかた〉

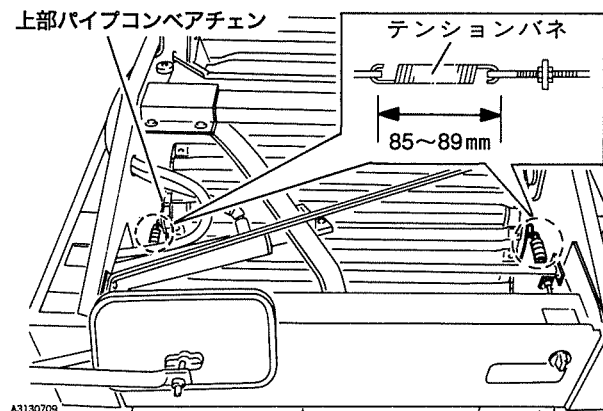
チェーン張りの取付ボルトをゆるめて、チェーンを押し方向に上げて締めます。



A3130706

上部パイプコンベアチェン

上カバーを開き、左右のテンションバネのバネフック長が85～89mmになるように調節します。

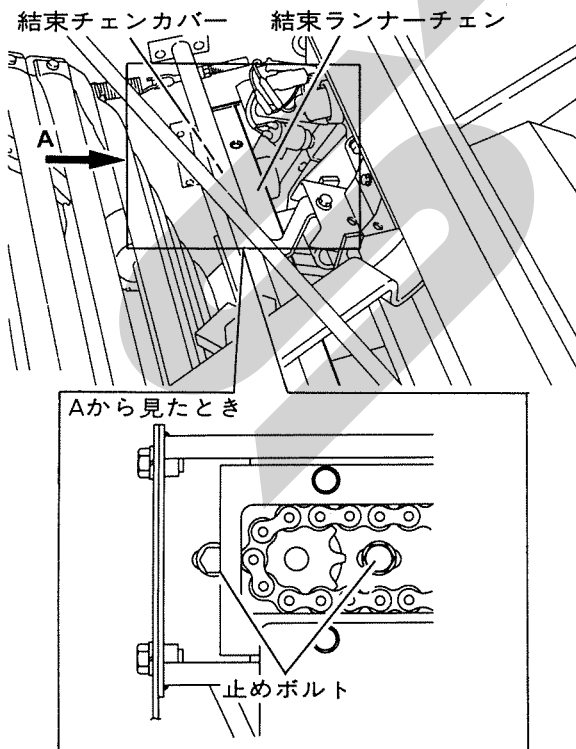


結束ランナーチェン

結束チェンカバーを取り外し、チェン中央部を指で押したときのたわみ量を4～8mmにします。

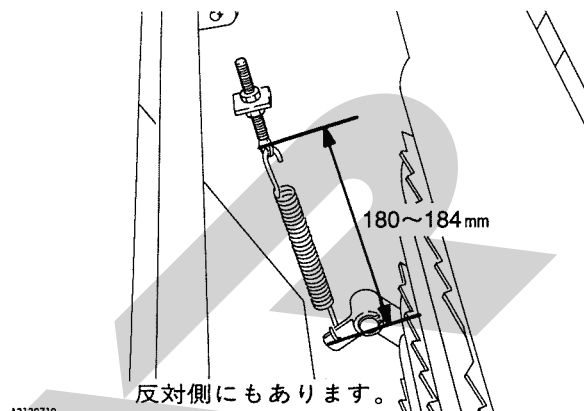
〈調節のしかた〉

従動側プロケットの止めボルトを少しゆるめて、外側へチェンを張って締め込みます。



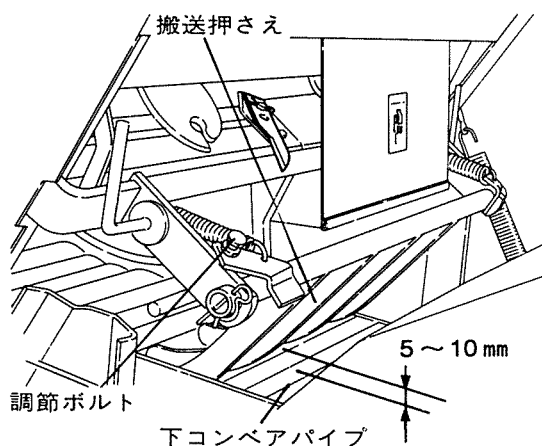
下部パイプコンベアチェン

後カバーを開き、ドアを締めた状態でベアラフレームの左右内側にある調節ナットで、テンションバネのバネフック長を180～184mmになるように調節してください。



15. 搬送押さえの調節のしかた

下コンベアパイプと搬送押さへのすき間が、5～10mmになるように、調節ボルトで調節します。



11367088

16. ひもカッターの研磨のしかた

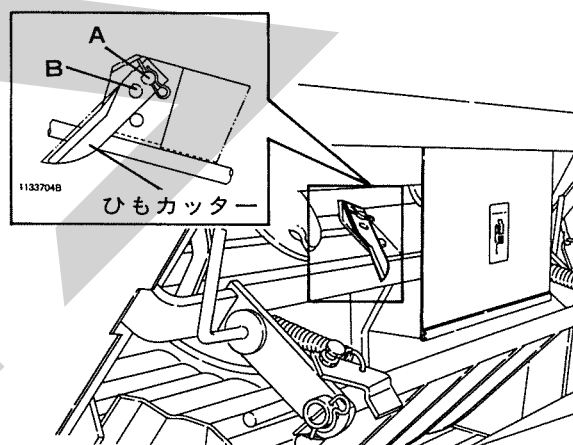
⚠ 注意

- カッターの点検・研磨をするときは、厚手の手袋を着用し、絶対に刃先にさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

カッターが磨耗しますと、ひもが切れにくくなります。

カッターは出荷時には、A位置に取り付けられていますので、ひもが切れにくくなったらB位置に変更してください。

またB位置においてもひもが切れにくくなった場合は、取り外して研磨してください。



11367088

〈カッターの取り外しかた〉

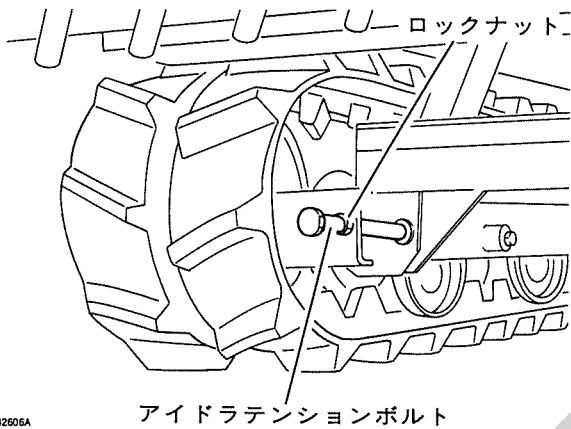
スナップピンを抜き取りカッターを取り外してください。

17. クローラの張り調節のしかた

クローラの中央部を両手で引っ張り上げて（20～30kg）、7～10mm程度上がるように調節します。

〈調節のしかた〉

アイドラテンションボルトのロックナットをゆるめ、内側のボルトを回してクローラの張り調節をします。

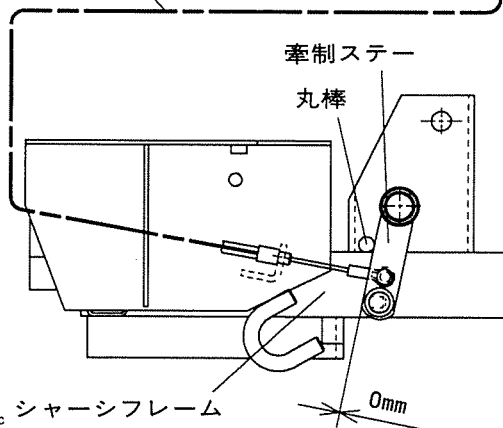
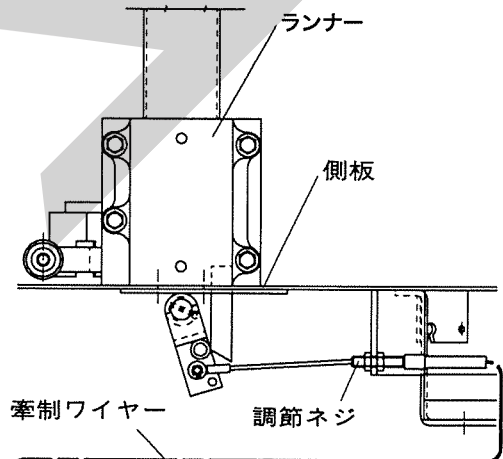
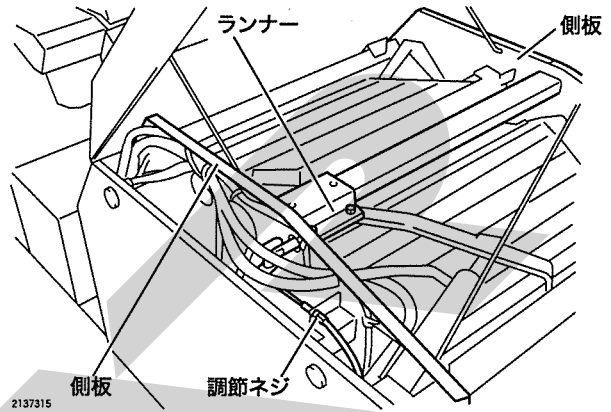


【重要】

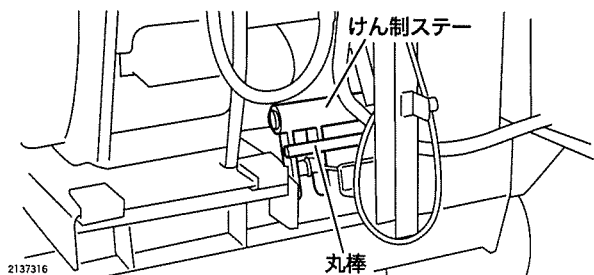
- 調節は平坦な場所で行ってください。！張りすぎ、ゆるめすぎはクローラの耐久力を損みますので注意してください。

18. 作業機駆動ベルトけん制ワイヤーの調節のしかた

上カバーを開き、ランナーが側板に接した状態でけん制ステーと丸棒が接する（すき間が0）ように調節します。



2130206C

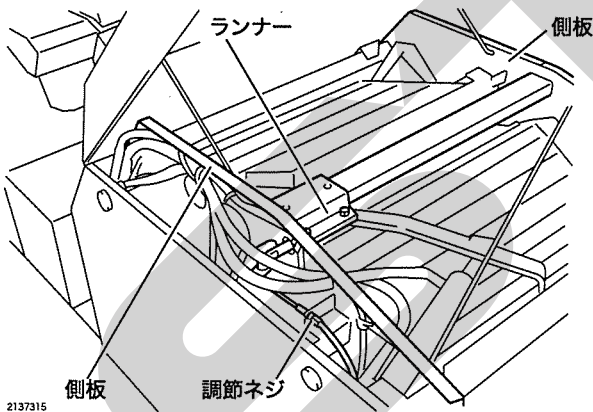
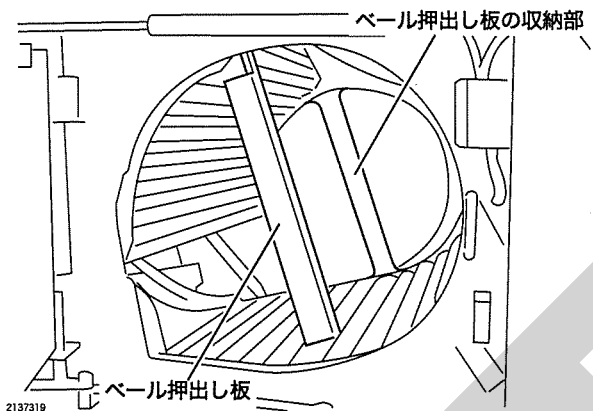


〈調節のしかた〉

けん制ワイヤーの調節ネジで調節します。

【重要】

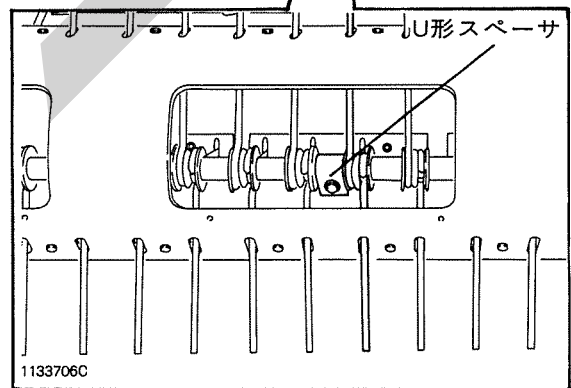
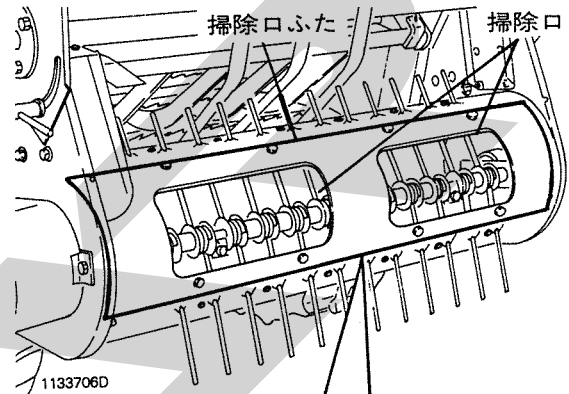
- けん制ワイヤーの張りすぎは、ワイヤーの耐久性低下、ゆるめすぎは作業時のベルトスリップになりますので注意してください。
- ベール押し板の収納部や、ランナーと側板の間に作物や土砂などがかみ込むと、ランナーが所定の位置まで戻らなくなり、ベルトのスリップでパイコンベア・ピックアップ部が回転しなくなりますので注意してください。



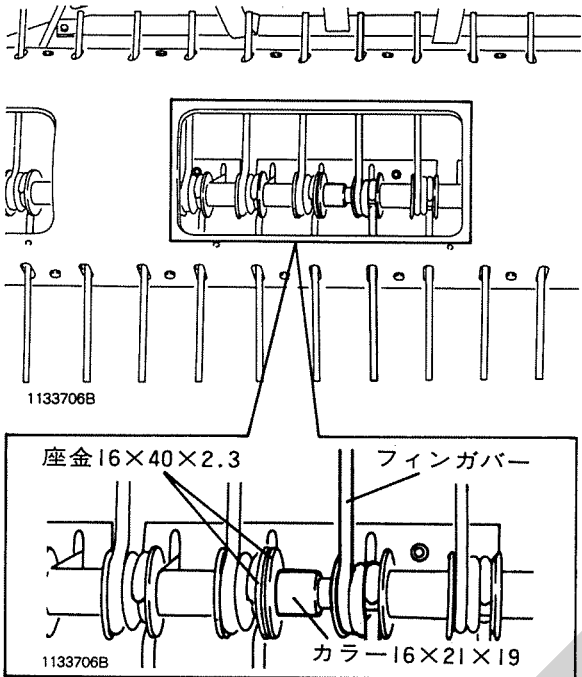
19. ピックアップフィンガの交換のしかた

フィンガが磨耗したり曲った場合は、交換してください。

1. ドラムの掃除口ふたを外します。
2. U形スペーサを外します。

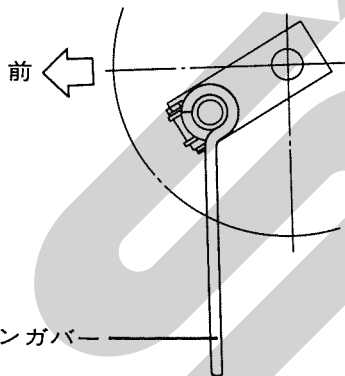


3. 座金16×40×2.3およびカラー 16×21×19を横にずらします。
4. フィンガカバーを外します。



【重要】

- フィンガ組付時は、切欠部が前方になるように取り付けてください。



1132611B

- 掃除口のボルトは、確実に締め付けてください。

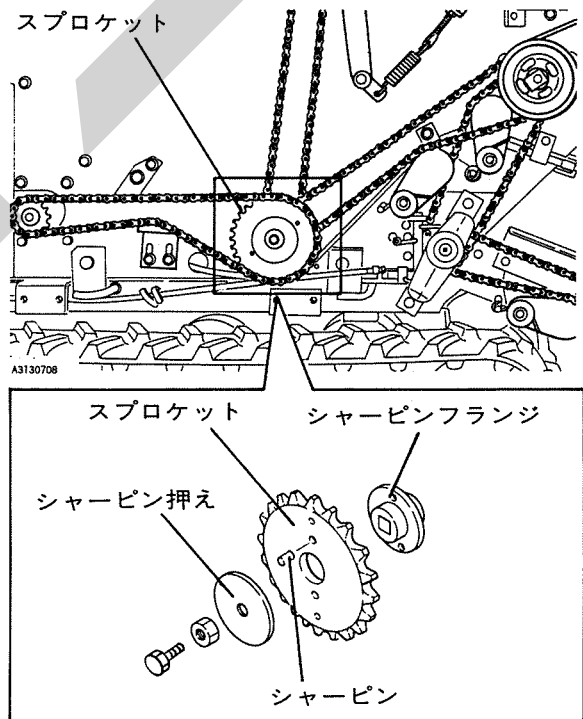
20. シャーピンの交換のしかた

ベールに異物がかみ込んだり、ピックアップに急な負荷がかかったとき、各部の保護・安全のためにシャーピンが切れ、作業機部が回らなくなります。シャーピンが切れたときには、以下の要領で交換してください。

※シャーピンは、工具袋の中に予備品が5個入っています。

〈交換のしかた〉

1. シャーピン押えを外し、スプロケットおよびシャーピンフランジを軸から取り出します。
2. 切れたシャーピンを抜き出します。
3. シャーピンフランジとスプロケットの穴位置を合わせ、1個だけシャーピンを入れます。
4. 軸に、再びシャーピンフランジとスプロケットを取り付け、ボルトで締めます。

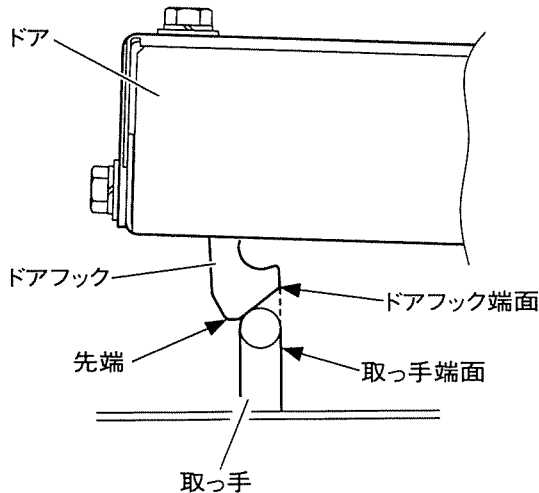


【重要】

- 穴は2つありますが、シャーピンは1個だけ使用してください。

21. ドアフックの調節のしかた

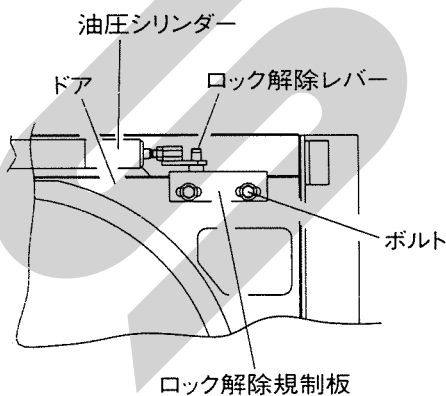
ドアの閉まりが悪いときは、ドアフック先端が取っ手に当たらないように調節します。



2137334

〈調節のしかた〉

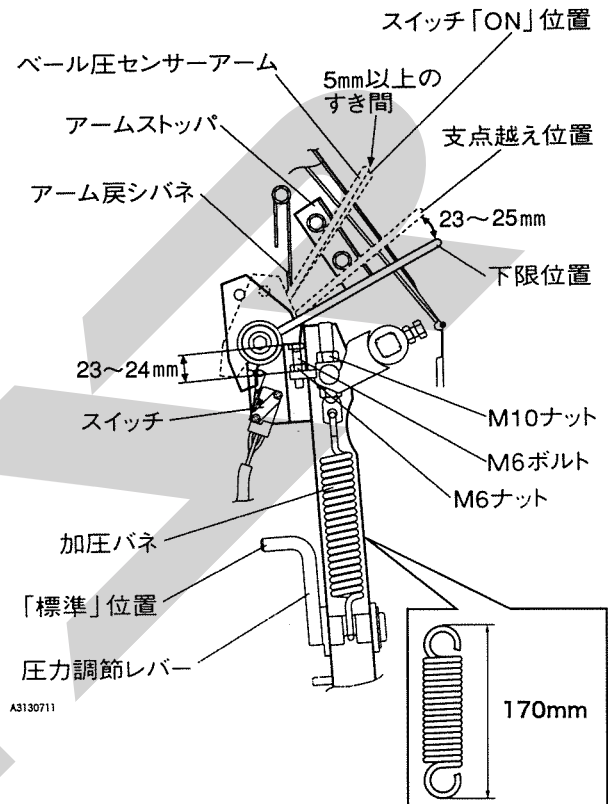
1. 油圧シリンダを、ロック解除レバーから外し、ロック解除規制板の固定用ボルト（2個）をゆるめます。
2. ロック解除規制板を左右方向に動かして、ドアフック端面と取っ手端面が同一面になるように調節して、ボルトで固定します。
3. 油圧シリンダを元通りに取り付けてください。



2137335

22. ベール圧センサの調節のしかた

作物が満杯になっても、ベール圧センサアームが上にあがらないときや、ブザーが鳴らない、およびお知らせランプが点滅しないときは、以下の要領で調節してください。



A3130711

〈調節のしかた〉

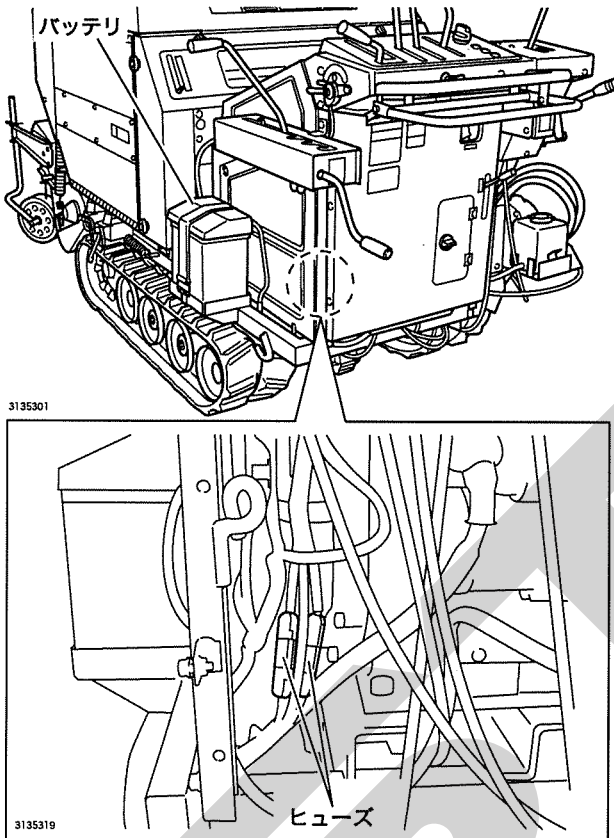
1. 圧力調節レバーが標準位置で、加圧バネの寸法（フックの外寸法）が176mmになるようにM10ナットで調節します。
2. M6ボルトの出代を23～24mmにして、M6ナットで固定します。
3. ベール圧センサアームを矢印方向に動かして、下限位置から支点越え位置が23～25mmの範囲内であれば正常です。範囲外の場合は、M6ボルトの出代で調節してください。
4. ベール圧センサアームを矢印方向に動かして、スイッチが「ON」した位置より5mm以上のすき間を持たしてアームストッパを固定します。
5. アーム戻シバネは、スイッチが「ON」した位置で、ベール圧センサアームに接触するように固定します。

23. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。

ヒューズが切れたときは、エンジンルーム内部のヒューズホルダーを外し、ヒューズ（10・20A）を交換します。

（警告…10A、バッテリー…20A）



24. バッテリーについて

⚠ 危険

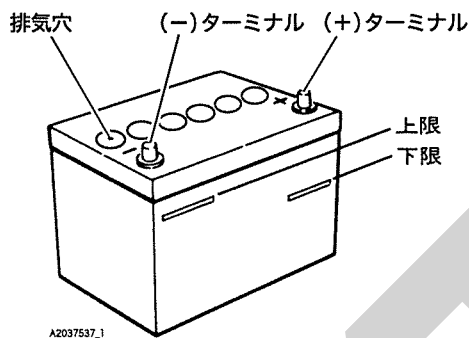
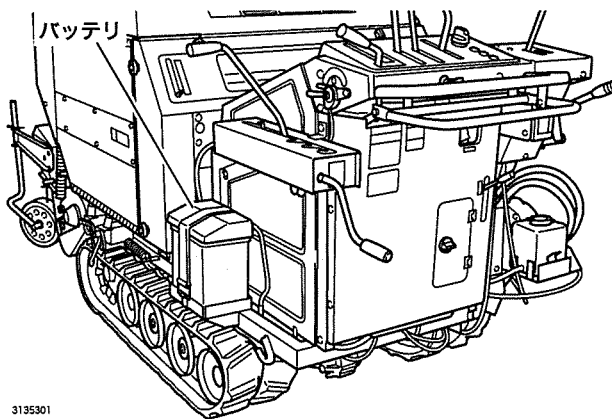
- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- バッテリー液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリー端子を取り付けるときは、側を先に取り付け、取り外すときは側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。
- バッテリーや配線に付着しているワラクスやゴミは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。取り除かないと火災の原因になります。
- バッテリーの寿命がなくなり、新品のバッテリーと交換する場合には、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。配線やヒューズを損傷するだけでなく、火災の原因にもなります。
- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴が小ボコリなどでふさがれると、破損や火災の原因になります。

バッテリー液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



指定バッテリー

40B19L

【重要】

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず指定のバッテリーを使用してください。

補充電について

寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなったり、ライトが暗くなってきたら、補充電を行います。

また、エンジンを2週間以上運転しないと、バッテリーが放電してセル始動ができない場合があります。このときにも、補充電をしてください。

〈補充電のしかた〉

充電は、バッテリーの (+) を充電器の (+) に、バッテリーの (-) を充電器の (-) に接続して行いますが、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。

なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。



【重要】

- バッテリーのターミナル部にはグリスを塗布しておいてください。
- バッテリーのターミナルのゴムブーツは、必ず取り付けおいてください。
- 取り付けのとき、ターミナル接触部は布などで油などをふきとってください。
- バッテリーの充電は、本機に装着したままで行うと、電装品の損傷のほかに、配線などをいためることがあります。充電時は必ず本機から取り外して行ってください。また、急速充電もできるだけ避けてください。(バッテリーの寿命を短くします。)
- バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの上限を超えるほど入れますと、使用中に液もれし、本機を腐蝕させることがありますので、補給するときは液面レベルの上限を超えないよう注意してください。
- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

10章 不調診断のしかた

警告

●機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄りの特販店・JAへ連絡してください。

1. エンジンがかからないときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。	55
エンジンの始動手順が間違っていないですか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	26・27
燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水が溜まっていれば、燃料コシ器を外して水抜きをしてください。	57
燃料に空気が入っていませんか。	燃料の空気(エア)抜きをしてください。	58
キースイッチを「入」位置にして、チャージランプ・エンジン油圧ランプが点灯しますか。	点灯しない場合は、バッテリー部のヒューズホルダーを外し、ヒューズが切れていないか確認してください。	70
バッテリーがあがっていませんか。	バッテリーを点検し、補充電してください。	70・71
バッテリーターミナル部の締め付けがゆるんでいませんか。	増締めしてください。	70・71
セルモータは回転していますか。	走行クラッチレバーが「駐車ブレーキ」位置、作業クラッチレバーが「切」位置になっているか確認してください。	26

2. エンジンの馬力がでないときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
エアクリーナーにゴミが詰まっていますか。	エレメントの掃除をしてください。	57
エンジン防塵フィルタにゴミが溜まっていますか。	きれいに掃除してください。	56
吸気ダクトの網目にゴミが詰まっていますか。	きれいに掃除してください。	56
エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	51
エンジンの圧縮がないではありませんか。	シリンダヘッドボルトを締め付けてください。ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、購入先に相談してください。	—

3. 作業中にコンベアチェンが回らなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ベール押し出し板の収納部やランナーと側板の間に作物や土砂などが溜まっていますか。	ベール押し出し板の収納部や、ランナーと側板の間の作物や土砂を取り除いてください。 また、次の順序で、ワイヤーの調節を行ってください。 ①作業機駆動ベルトけん制ワイヤー ②作業クラッチワイヤー	47 66 61

4. 搬送部で異音がしたり、よく詰まるときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ドアが完全に閉まっていますか。	完全に閉めて作業をしてください。	42
エンジン回転数が低くありませんか。	アクセルレバーでエンジン回転を上げてください。	42
搬送押さえが下部コンベアパイプに接触していませんか。	正しく調節してください。	64
上部・下部パイプコンベアチェーンの張りは適正ですか。また、油切れしていませんか。	張り調節および注油をしてください。	55・64
コンベアパイプのナットがゆるんでいませんか。	確実に締め付けてください。	—
ピックアップフィンガが曲がっていませんか。	修正または交換してください。	67・68
走行速度が速すぎませんか。	適正速度で作業してください。	42
作業方向は正しいですか。	正しい方法で行ってください。	35
バネ圧切換レバー・ピックアップ前カバーは正しい位置ですか。	正しく調節してください。	40

5. ブザーが鳴らなくなったとき(お知らせランプが点滅しなくなったとき)には

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ベール圧センサのスイッチが「ON」になっていますか。	ベール圧センサの調節のしかたに従って調節してください。	69
ワイヤーハーネスが外れていませんか。	確実につないでください。	—
ブザー、またはお知らせランプのアースが外れていませんか。また、アースのボルトがゆるんでいませんか。	確実にアースできるように締め付けてください。	—
キースイッチは「入」位置ですか。	キースイッチを「入」位置にしてください。	19

6. 結束ができなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
作物の供給量は適正ですか。	ブザーの音を聞く、またはお知らせランプの点滅を見て作業してください。	41~43
ひもブレーキ圧は適正ですか。	調節してください。	38
ひもの通しかたが間違っていないですか。	正しくひもを通してください。	37
ひもカッターが磨耗していませんか。	カッターの取り付け位置を変えるか研磨してください。	65

7. 適正なベールができなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ベールの加圧バネの調節レバー位置は適正ですか。	調節してください。	39
作物の供給量は適正ですか。	適正な作業速度にしてください。	42
作物が十分入っていないのにブザーが鳴り、お知らせランプが点滅しませんでしたか。	上カバーを開いて、詰まりを取り除いてください。	47
ベール圧センサのアームは作動していますか。	作動しないときは、購入店に相談してください。	42

8. 放出できなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ひも巻きピッチは、適正ですか。	プーリの外側にベルトを掛けてください。	38
ベール圧は標準位置になっていますか。	必ず、「標準」位置で作業してください。	39
油圧パッケージのプーリは、回転していますか。	Vベルトを確認し、切れていれば交換してください。	61・62
ランナーが油切れしていませんか。	ベール取り出しレール、ランナーに注油してください。	55
油圧パッケージの油量が少なくなっていますか。	油量が 500cc より少なくなっていれば補給してください。油量は500～600ccです。	52
ブザーが鳴って、お知らせランプが点滅しても作業を続けていませんか。	ひも巻きを 3 回以上して、ベールを締め付けた後、放出してください。	—

9. ドアが閉まらなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ランナーは動いていますか。	ベール取り出しレール、ランナーに注油してください。	55
ドアフック先端が取っ手に当たっていませんか。	ロック解除規制板で調整してください。	69

10. ひも送り操作をしても、結束ができないときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ひもがなくなっていますか。	ひもを供給してください。	37
ひもブレーキが弱く、1か所をグルグル巻いていませんか。	ひもブレーキが強くなるようにセットしてください。	38
ひもがトグロを巻いたり、ピックアップドラムに巻き付いていませんか。	トグロ巻き、ピックアップドラムへの巻き付けを取り除き、作業してください。	—
切ワラの梱包作業中に、ひもがトグロを巻いていませんか。	搬送案内板を取り外してください。	45

11章 その他

1. 主要諸元

型式名		JRB0750D	
機体寸法	全長 (mm)	2275 (作業時:2395):ゲージホイール含まず 2555 (作業時:2550):ゲージホイール含む	
	全幅 (mm)	1060	
	全高 (mm)	1215	
機体質量 (重量) (kg)		575	
エンジン	型式名	TF70V-EJ	
	種類	横型水冷ディーゼルエンジン	
	総排気量 (L{cc})	0.382 {382}	
	出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)	5.1 {6.9} /2400	
	燃料タンク容量 (L)	6.5	
	始動方式	セルスタータ (スタートハンドル・始動軸無し)	
走行部	走行方式	エンドレスゴムクローラ	
	クローラ	幅×接地長 (mm)	200×810
		中心距離 (mm)	670
		平均接地圧 (kPa {kgf/cm ² })	17.6 {0.18}
	走行速度	前進 (m/s)	F1:0.24、F2:0.41、F3:0.71、F4:1.19
		後進 (m/s)	R1:0.28、R2:0.47
作業部	ピックアップ方式	クランクフィンガ	
	梱包方式	パイプコンベア	
	結束方式	手動レバー操作ひも巻き付け式	
	ペール取出方式	油圧側方放出	
	ひもの種類	PP・サイザル・ジュート (できるだけジュートひもを使用)	
処理能力 (a/時間)	8~12		
作業速度 (m/s)	0.24~0.71		
ペール寸法 (mm)	径460×幅600		
ペール質量 (kg)	8.5~13.5		
適応ウインドロー (mm)	幅700×高400		
適応作物	稲ワラ・麦ワラ・イタリアンなど		

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主要消耗部品

No.	品名	コード	備考
1	エレメント(エアクリーナー)	104300-12960	
2	エレメント(燃料コシ器)	105370-55711	
3	フィンガーバー	1K1090-13053	
4	Vベルト M31H	1K1091-41250	結束駆動ベルト
5	Vベルト特A22H	25122-002201	油圧シリンダベルト
6	Vベルト特B47H	25123-004701	作業機駆動ベルト
7	Vベルト特B45H	25123-004501	ミッション駆動ベルト
8	チェン40HT-48	1K1091-13502	
9	チェン40HT-59	1K1160-21050	
10	チェン40HT-62	1K1091-21032	
11	チェン40HT-80	1K1091-21061	
12	チェン40HT-90	1K1091-21051	
13	チェン40HT-111	1K1091-21071	
14	走行クラッチワイヤー	1K1130-63050	
15	ブレーキワイヤー	1K1130-63070	
16	サイドクラッチワイヤー	1K1130-63060	
17	BCワイヤー	1K1160-62300	
18	結束クラッチワイヤー	1K1160-45250	
19	ピックアップワイヤー	1K1160-15360	
20	ひもカッター	1K1091-42272	
21	けん制ワイヤー SA	1K1160-62050	
22	けん制ワイヤー SO	1K1160-63150	
23	フィンガーグロメット	1K1091-13201	
24	バイピッチチェン37L	1K1091-23170	
25	バイピッチチェン37R	1K1091-23190	
26	バイピッチチェン119L	1K1091-26170	
27	バイピッチチェン119R	1K1091-26180	
28	テンションけん制ワイヤー AU	1K1130-62991	
29	ガイドレール上(L)	1K1130-23770	
30	ガイドレール上(R)	1K1091-23760	
31	チェンガイド430(L)	1K1091-26050	
32	チェンガイド430(R)	1K1091-62070	
33	チャンバフレーム(下L)	1K1160-26750	
34	チャンバフレーム(下R)	1K1160-26760	
35	チェンガイド210	1K1091-26800	
36	フェルトシール5×120	1K1130-34120	
37	フェルトシール4×65	1K1130-34130	

START

調整

S-120415A

本社 066-8555 千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ 1 1 9 1 番地 4 4
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 帯広市西 2 2 条北 1 丁目 1 2 番地 4
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町 2 丁目 1 6 番 2
TEL 0153-72-2624
FAX 0153-73-2540

花巻営業所 028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第 1 1 地割 1 2 0 番 3
TEL 0198-46-1311
FAX 0198-45-5999

仙台営業所 983-0013 宮城県仙台市宮城野区中野字神明 1 7 9 - 1
TEL 022-388-8673
FAX 022-388-8735

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁 2 5 1 2 - 1
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市北区下中野 7 0 4 - 1 0 3
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

犬山出張所 484-0894 愛知県犬山市羽黒字合戦橋 5 番 1
TEL 0568-69-1200
FAX 0568-69-1210

熊本営業所 861-8030 熊本県熊本市小山町 1 6 3 9 - 1
TEL 096-389-6650
FAX 096-389-6710

都城営業所 885-1202 宮崎県都城市高城町穂満坊 1 0 0 3 - 2
TEL 0986-53-2222
FAX 0986-53-2233